

＋OCR

利用マニュアル

Ver.1.12

改訂履歴

変更年月日	版数	章・節・項	改訂内容
2019/1/23	1.00		新規作成
2019/2/1	1.01		誤記修正
2019/7/12	1.02	2.1 2.2.3 2.5 補足 A 補足 C 補足 E 1.4.1 4.4 2.4.3 2.4.6	帳票ファイルの制限 PDF のカラー対応に伴い記述を変更 フォルダ機能設定画面のドキュメント設定タブのテーブル初期値を削除 設定の一括変更 CSV 出力タブの読み取り起点の説明を削除 CSV 設定の説明を追加(既存機能) 主なデータ加工処理の設定方法 西暦変換、いずれか入力フラグ、2つ以上チェックフラグ、セル値置換、1つセル入力、含む値判定フラグセット、文字切り出し処理、年齢、日付チェックの説明を追加、文字列フォーマットの説明を変更 リクエスト数照会の追加 帳票情報の設定 を追加 「読み取りモデル」は「読み取り条件の指定」にラベル名が変更し、(リネームした読み取り条件) と (不要の削除した読み取り条件) を更新 (リネームした読み取り条件) 3種類 ・all → 指定なし(すべての文字) ・汎用チェックボックス → マークシート・押印 ・バーコード → バーコード・QR コード (不要の削除した読み取り条件) 4種類 ・単位 ・マスあり ID(数字+英語大文字+一部記号) ・マスあり ID(数字+英語大小文字+一部記号) ・マスあり ID(数字+英語大文字+カタカナ+一部記号) パスワードの初期化 を追加
2019/11/1	1.03	補足 H 補足 I 3.2.2 補足 B 3 3.1	接続元 IP 制限オプションの設定を追加 閉域網 (CGW) 接続オプションの設定を追加 一括エントリーについての説明を追加 データ加工の西暦変換の説明にありえない日付を設定した際の振る舞いを追記 削除操作を行った際の振る舞いを追記
2020/1/27	1.04	4.5 補足 G	ユーザ新規登録/編集/削除方法を追加 二段階認証の設定 追加
2020/2/1	1.05	4.5.2 補足 G	アカウントロック解除の方法 二段階認証のスマートフォン対応
2020/3/2	1.06	1.4.1 2.4.6 2.6.2 3.1 B.3	リクエスト照会画面の画像差替えと説明を追加 クリックチェック対応モデルを追加 データ加工設定の入力の仕方についての説明を変更 読み取りユニットの検索画面について説明を追加 データ加工設定画面の画像差替えと説明を削除 データ加工の文字列変換について特定の記号利用時の説明を追加
2020/4/1	1.07	2.3 2.8	ドキュメントの作成に請求書、レシート、領収書、給与支払報告書、住民票の設定を追加 請求書、レシート、領収書、給与支払報告書、住民票の帳票設定方法を追加

2020/5/1	1.08	2.4.6 4.4 補足 A 補足 J 2.1 2.4.6 2.8 補足 A	読み取り条件の種類について English を追加 ドキュメント権限の全機能として学習機能の ON/OFF 選択を追加 学習機能の設定についての説明を追加 学習機能 ON/OFF の設定 追加 帳票読み取り時の留意点を備考欄に追記 読み取り条件の種類についての表内カテゴリを一部変更 注文書の帳票設定方法を追加 画像差替えについての説明を変更
2020/10/27	1.09	3.2.1 3.4 2.4.5 3.1 2.3 3.4 補足 B 補足 J 4.5.3	通常エントリーについて説明を変更 CSV ファイルのダウンロードについて注意事項を追記 読み取り範囲の詳細設定について説明を変更 PDF をアップロードする際の留意点を追加 ドキュメントの作成について説明を追加 CSV ファイルのダウンロードについて説明を追加 文字列変換のパラメータ(変換対象文字列)の説明を変更 文字列フォーマットのサンプルの説明を変更 適用開始日を削除 部署管理者に表記を統一
2020/11/24	1.10	1.4.1 補足 C	リクエスト数照会について説明を追加 辞書データ自動追加について備考の説明を追加
2020/12/22	1.11	2.4.6 B.3	読み取り条件の種類について「繁体字」「ベトナム語」「タイ語」を追加 前行コピーについて出力 CSV イメージを追加
2021/01/25	1.12	2.3 2.8	ドキュメントの作成について個別の設定を行わずに帳票を読み取る場合の説明を追加・変更 現在ご利用いただけませんの記述を削除

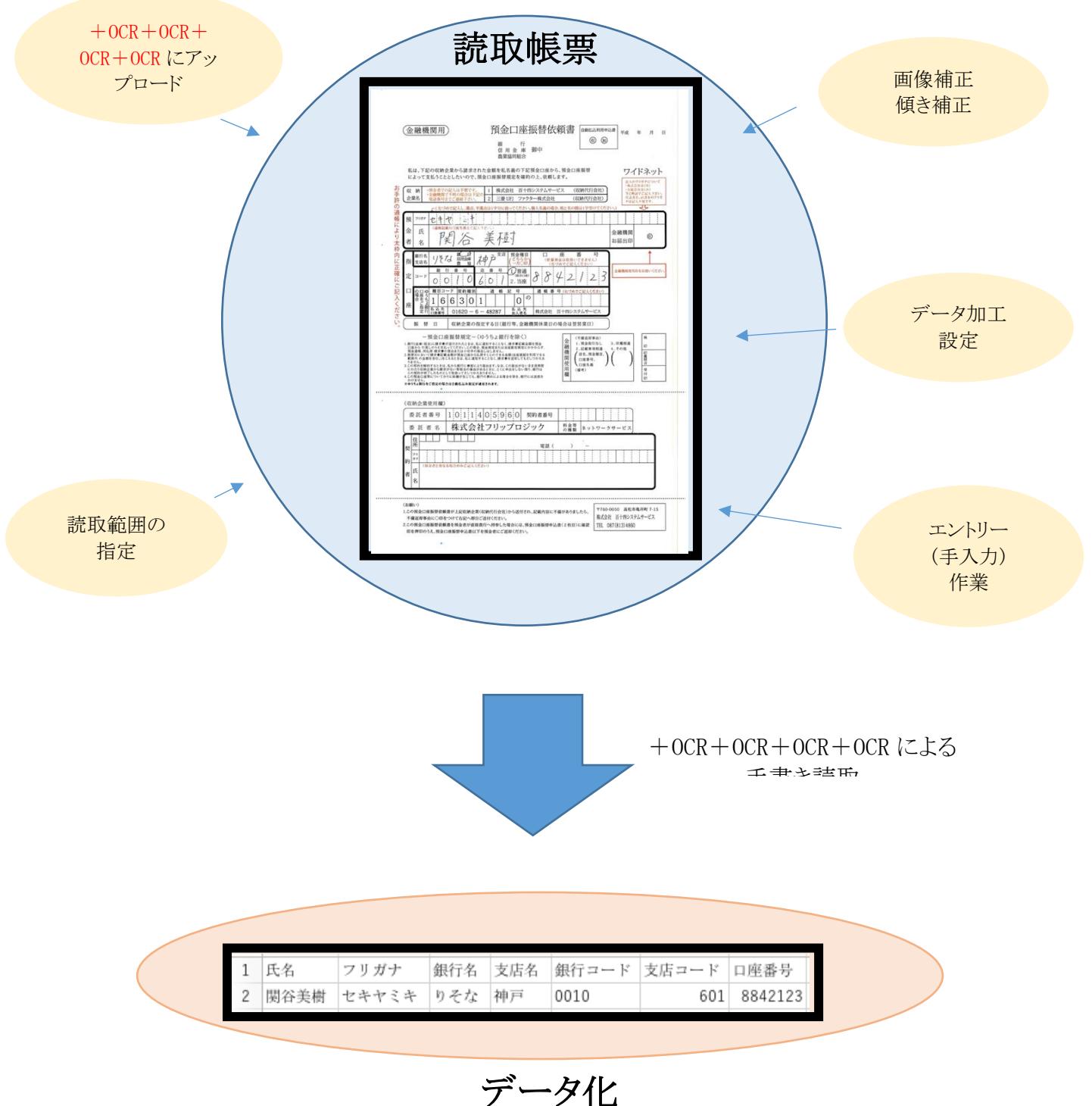
目次

改訂履歴	2
1 全体概要	5
1.1 +OCR 概要	5
1.2 全体作業の流れ	6
1.3 ログイン・ログアウト	7
1.4 サポート情報	10
2 帳票設定	12
2.1 帳票の設定	12
2.2 フォルダの作成	13
2.3 ドキュメントの作成	17
2.4 読取範囲の指定(新しい画像から、設定ファイルから)	19
2.5 設定の一括変更(新しい画像から、設定ファイルから)	27
2.6 データ加工設定(新しい画像から、設定ファイルから)	28
2.7 帳票設定その他の項目(新しい画像から、設定ファイルから)	31
2.8 帳票設定(マルチフォーム)	32
3 読取とデータ修正	38
3.1 ドキュメントアップロード	38
3.2 エントリー	41
3.3 ベリファイ	45
3.4 CSV ファイルのダウンロード	46
4 ユーザ管理	47
4.1 概要	47
4.2 組織設定	48
4.3 部署設定	50
4.4 権限ロールについて	51
4.5 ユーザの管理	52
補足	59
A 帳票詳細設定	59
B データ加工設定一覧	62
C ユーザ辞書設定	81
D ブラウザの設定方法	84
E アクセスログ照会	87
F 変換タグ一覧	88
G 二階認証の設定	90
H 接続元 IP 制限機能	100
I 閉域ネットワーク接続機能	102
J 学習機能 ON/OFF の設定	104
+OCR に関するお問い合わせ先	110

1 全体概要

1.1 +OCR 概要

本サービスは、アップロードした帳票を、あらかじめ設定した座標を元に読み取り範囲として切り出し、それぞれの読み取り範囲をOCRエンジンが読み取ることにより、データ化しています。



1.2 全体作業の流れ

帳票の読み取り処理の運用を開始するまでに必要な作業の流れは下記の様になります。

1) ドキュメント設定

- ① 対象となる帳票データの読み込み
- ② 読み込んだ帳票に対して読み取り範囲を設定
- ③ 各読み取り範囲に対して、データ化処理内容を設定

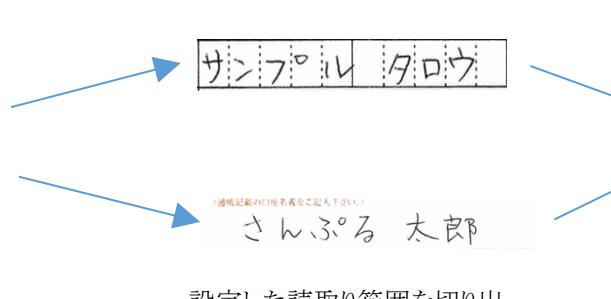
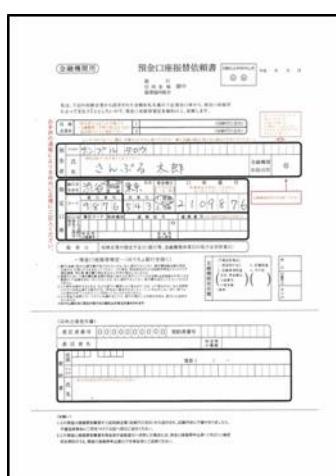
2) テスト・修正

読み取り結果を確認、設定の微調整、修正を行う。

3) 運用開始

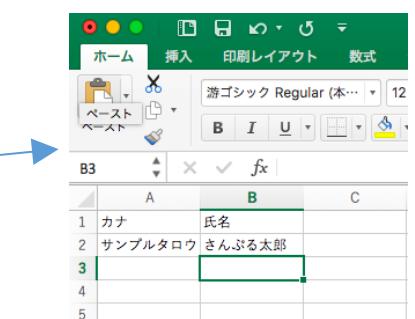
- ① 帳票データのアップロード
- ② OCR エンジンによる文字認識、手入力による文字入力(エントリー作業)。
- ③ データ読み取りエラーまたは入力ミスに対するデータ修正(ベリファイ作業)
- ④ データダウンロード(エクスポート)

製品の処理イメージ



設定した読み取り範囲を切り出し
し、読み取りエンジンに送る

切り出した画像(読み取り範囲)
をエンジンが解析



エントリー作業: OCR で読み取った値が正しいかを確認。間違っている場合は、正しい文字列を手入力する。
※ワークフローにて「OCR+エントリー」または「エントリー」を選んだ場合のみ

ベリファイ: エントリー作業にて入力された文字列に相違がないかを確認。相違があった場合は、正しいものを選択する。
※ワークフローにて「エントリー」を含む作業が2つ以上含まれている場合のみ。

CSV にてデータ取得
出力前のデータ修正
(※エントリー、ベリファイ作業による手入力)も
可能

1.3 ログイン・ログアウト

1.3.1 事前準備

＋OCR は下記ブラウザに対応しています。

- Chrome
- Internet Explorer 11 以上
- Safari
- FireFox
- Edge

※ 最新版のみ動作検証しています。

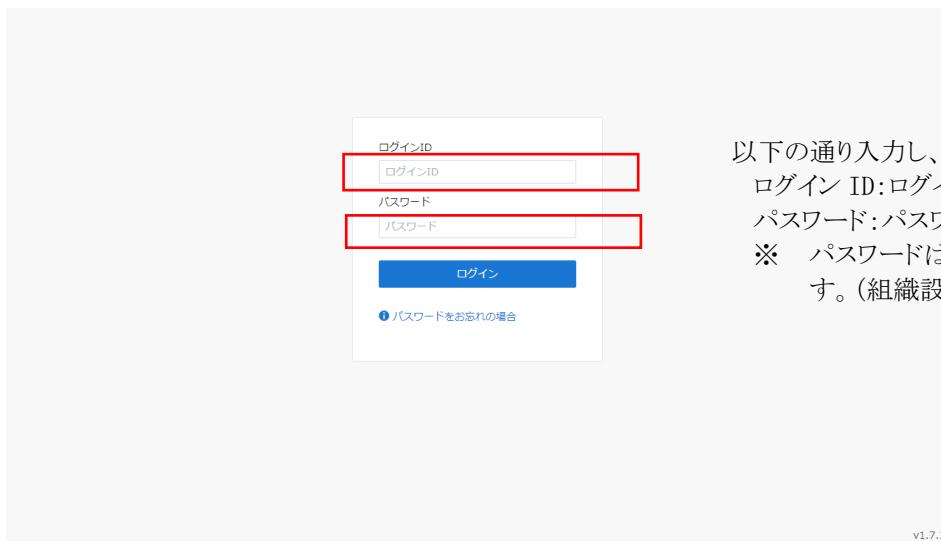
また、事前設定として、Cookie 及び Javascript を有効にしておく必要があります。

各ブラウザ毎の設定方法は「[補足 D ブラウザの設定方法](#)」をご確認ください。

1.3.2 ログイン・ログアウト

Web ブラウザを起動し、お客様毎にご用意しておりますアドレスにアクセスします。

ログイン方法



以下の通り入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。

ログイン ID:ログイン ID

パスワード:パスワード

※ パスワードは一定回数間違えると利用不可となります。(組織設定で回数を設定します)

- ※ 初回ログイン時の管理者用ログイン ID とパスワードは、「+OCR のご利用に必要な情報のお知らせ」のメールに記載されています。「+OCR のご利用に必要な情報のお知らせ」は申込みの際に登録したメールアドレスに送付しています。
- ※ ログイン後は 60 分でセッションタイムアウトが発生します。設定時などはこまめに「保存」することを推奨しています。

ログアウト方法

すべての作業が完了しましたら、+OCR からログアウトします。



右上の「ユーザ名」ボタンをクリックし、メニューより「ログアウト」を選択します。

1.3.3 Intelligent OCR 画面への遷移

ログイン後、「Intelligent OCR」ボタンをクリックすることで、「Intelligent OCR」画面へ遷移します。



・Intelligent OCR 画面

ホーム > Intelligent OCR

社内ステージング マニュアル用 manual ▾

The screenshot shows the 'Intelligent OCR' screen. On the left, there is a sidebar with a 'フォルダ' (Folder) section containing '申込書' (Application Form) and '帳票設定' (Report Setting). To the right of the sidebar, there is a large, mostly empty white area. At the top right of the main content area, there is a link '社内ステージング マニュアル用 manual ▾'.

1.4 サポート情報

サポート画面

右上の「ユーザ名」ボタンをクリックし、メニューより「サポート」を選択します。



【サポート画面の項目】

No	項目	内容	備考
	マニュアル	最新のマニュアルをダウンロードします。	
	FAQ	最新のFAQをダウンロードします。	
	サービス約款	サービス約款を確認します。	約款変更の際には、事前にメールにて通知を行います。
	リリースノート	アップデート情報を確認できます。	
	リクエスト数照会	月毎のリクエスト合計を確認することができます。	詳細は、 1.4.1 リクエスト数照会 をご参照ください。 権限ロールが「管理者権限」のユーザが利用できます。 権限ロールについては、「 4.4 権限ロールについて 」をご参照下さい。

1.4.1 リクエスト数照会

リクエスト数照会は、照会時点のリクエスト数が照会できます。年と月を変更すると、選択された年月の合計表示が照会できます。

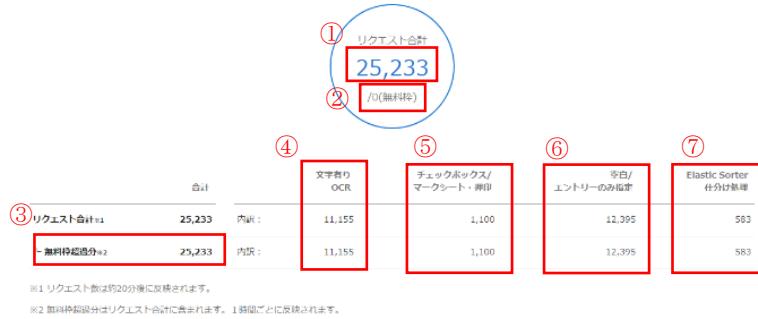
また、無料利用枠（毎月の基本料金のみで、追加料金無く利用できるリクエスト数）と無料利用枠を超過したリクエスト数を照会できます。

※1 リクエスト数は約20分後に反映されます。

※2 リクエスト合計は1時間ごとに反映されます。無料枠超過分はリクエスト合計に含まれます。

※3 ご利用開始月の無料枠は初回ログイン日により変動します。

※4 表示の無料枠が実際と異なる場合がありますが、初回ログイン後3営業日程度で正しく反映されます。



【リクエスト合計の項目】

#	項目	内容
①	リクエスト数合計	該当月のリクエスト数の合計です。④～⑦の合計数になります。
②	無料利用枠総数	毎月の基本料金のみで、追加料金無く利用できるリクエスト数です。
③	無料利用枠超過数	無料利用枠を超過したリクエスト数です。
④	文字有り OCR	文字を読み取った結果、文字があった項目の総数です。
⑤	チェックボックス/マークシート・押印	チェックボックスで指定した項目の総数です。 (チェックされた項目とチェックされていない項目の合計となります)
⑥	空白/エントリーのみ指定	OCRで読み取った結果、ブランクと認識した項目と、読み取りワークフローで「エントリー」を選択した項目の総数です。
⑦	Elastic Sorter 仕分け処理	仕分けされた帳票画像数です。(仕分け不可を含みます)

【部署別の表示方法】

- ①「部署別」を選択いただきます。



- ②各部署のリクエスト合計が表示されます。

③部署がリンクとなっており、部署をクリックすると、全ユーザのリクエスト数が表示されて照会可能です。



【ユーザ別の表示方法】

- ④「ユーザ別」を選択すると、部署に関わりなくユーザが一覧で表示します。



2 帳票設定

帳票設定は以下のような流れで行っています。

(1)	帳票の選定	設定帳票を選定します。読み取りやすい帳票をご利用ください。
(2)	フォルダの作成	帳票設定を保存するフォルダを作成します。
(3)	ドキュメントの作成	ドキュメントは1種類の帳票レイアウトを定義(設定)します。ドキュメントをアップロードし、以下の(4)、(5)の作業を行い設定していきます。
(4)	読み取り範囲の指定	読み取りたい読み取り範囲部分を設定します。ここで読み取る読み取り条件、ユーザ辞書設定、ワークフローなどを設定します。
(5)	データ加工設定	読み取り後に出力する際にデータ加工を行う場合に設定します。

2.1 帳票の設定

読み取りを行う帳票を選定します。

処理が可能な帳票ファイルの制限は下記の通りです。

【帳票ファイルの制限】

項目	内容	備考
処理可能なファイルの拡張子	PDF, jpg, jpeg, png, tiff, tif	
解像度	200～300dpi 原本を直接スキャンした画像ファイルを推奨しております。	解像度は低すぎると認識精度が低下します。反対に高すぎると、容量が大きくなるため処理に時間がかかるようになります。300dpi程度の画像ファイルを推奨しております。 また、定義設定時と読み取り時の帳票サイズが大きく異なる場合、補正処理の関係で出力が荒くなり読み取れなくなることがありますので、帳票設定用と読み取り用の画像サイズを揃えていただくようお願いいたします。
PDFファイルのフォント	テキストデータはフォントの埋め込みを行なってください。	フォントの埋め込みが行われないと、フォントの相違等により読み込めないことがあるため、入力画像はスキャナで読み込んだ画像を推奨します。

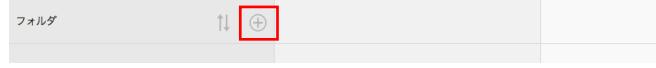
2.2 フォルダの作成

2.2.1 フォルダとは

フォルダとは、帳票を管理する単位です。一つのフォルダ内には、帳票設定を複数登録することができます。

2.2.2 フォルダの作成

1. +OCR にログインし、フォルダ右にある  ボタンをクリックします。



2. 「フォルダを作成」画面が表示されますので、フォルダ名を入力し、「作成」ボタンをクリックします。

フォルダを作成

複数のドキュメントを格納するフォルダを新規作成します。



3. フォルダが登録されます。



2.2.3 フォルダの設定

フォルダ内の帳票を処理するときの設定を行います。

設定した内容が、フォルダ内に帳票設定を作成する際の初期値となります。

「フォルダ一覧」画面より、対象のフォルダの  ボタンをクリックし、「設定を変更」ボタンをクリックします。



CSV 出力設定タブ

CSV出力設定

ドキュメント設定

CSVヘッダー出力

① しない する

CSV列出力上限数 ※1~2000まで

② 100 列名: CV

ソート列 ※CSV列出力上限数まで

③ 半角数字

【CSV 出力設定】

No	項目	内容
①	CSV ヘッダー出力	CSV 出力時にヘッダー情報を含めるかを指定します。
②	CSV 列出力上限数 ※ 1~2000 まで	設定可能な CSV 出力先カラムの上限数を設定します。
③	ソート列 ※ CSV 列出力上限数まで	CSV 出力時にソート対象とする項目 No. を設定します。

ドキュメント設定タブ

CSV出力設定 ドキュメント設定

ワークフロー1 初期値	① <input type="button" value="OCR & エントリー"/>
ワークフロー2 初期値	なし
ワークフロー3 初期値	なし
CSV出力先カラム自動設定 ②	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する ※読み取り範囲の追加時に出力先カラムを設定します
エントリー順自動設定 ③	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する ※読み取り範囲の追加時にエントリー順を設定します

【ドキュメント設定】

No	項目	内容	備考
①	ワークフロー	OCR やエントリーのワークフローを最大3段階設定することができます。	
②	CSV 出力先カラム自動設定	出力先カラムを自動で設定するかを指定します。	
③	エントリー順自動設定	エントリー順を自動で設定するかを指定します。	

2.2.4 フォルダ毎のアクセス権の設定

通常、自分と同じ部署に所属するユーザが作成したフォルダのみを表示しますが、フォルダ毎に権限設定をすることも可能です。この設定を行うことで、別部署のユーザが作成したフォルダ内の帳票へもアクセスができます。

※ フォルダ毎のアクセス権の設定は、全ての部署とユーザを管理している組織管理者が行うようにしてください。

フォルダ毎のアクセス権の設定方法

1. 「フォルダ一覧」画面より、対象のフォルダの  ボタンをクリックし、「アクセス権限を変更」ボタンをクリックします。



2. 「部署」タブをクリックすると、アクセスを許可する部署を選択できます。



3. 「ユーザ」タブをクリックすると、アクセスを許可する特定のユーザを選択することができます。

※ 組織管理者のみ特定のユーザを選択できます。
※ 別部署のフォルダに対しては、アクセス権限が付与されても、そのフォルダの権限の変更はできません。



2.3 ドキュメントの作成

ドキュメントは読みを行う帳票のレイアウト情報を登録します。一度ドキュメントを登録しておけば、同じレイアウトの帳票は連続して読み込むことができます。

ドキュメントの作成方法

- 「ドキュメント一覧」画面で、ドキュメント追加対象のフォルダをクリックし、 ボタンをクリックします。



- 「ドキュメントを作成」画面が表示されますので、それぞれのアイコンをクリックします。アイコンの内容は下記となります。

ドキュメントを作成

「新しい画像から」…新規のドキュメント設定を作成します。

「設定ファイルから」…既存に作成したドキュメント定義を元に作成します。

個別の設定を行わずに帳票を読み取る場合、以下を選択します。



帳票名	機能
請求書	請求書を読み込む設定を作成します。
領収書	領収書を読み込む設定を作成します。
レシート	レシートを読み込む設定を作成します。
請求書・領収書・レシート	請求書、領収書、レシートを区別せずに読み込む設定を作成します。
給与支払報告書	給与支払報告書を読み込む設定を作成します。
住民票	住民票を読み込む設定を作成します。
注文書	注文書を読み込む設定を作成します。

3. ドキュメント名などを指定します。

(新しい画像からを選択した場合)

ドキュメント名を入力し、「ドキュメント設定へ進む」ボタンをクリックします。

- ※ 「新しい画像から」で指定するベースとなるドキュメント画像は実際に読み取るドキュメントと同じもので、きれいにスキャンされたものを選びます。通常は記入されていない画像を使用しますが、記入があるものでも問題ありません。ただし、マスクシート・押印を使用する場合はチェックボックス欄に記入のある画像は使用できません。

※(設定ファイルからを選択した場合)

「ドキュメント設定へ進む」ボタンをクリックします。

※(請求書、領収書、レシート、請求書・領収書・レシート、給与支払報告書、住民票、注文書を選択した場合)

「ドキュメント設定へ進む」ボタンをクリックします。

4. 「ドキュメント設定」画面が表示されます。

※請求書、領収書、レシート、請求書・領収書・レシート、給与支払報告書、住民票、注文書を選択した場合、画面中央に表示される帳票はサンプルになります。

「読み取り範囲の指定」をクリックし、少なくとも1つ以上の読み取り範囲を設定ください。

- ※ 読み取り範囲を設定せず保存しますと読み取り範囲が存在しないことでエラーとなります。
- ※ ドキュメント設定を完了し、右下の「保存」ボタンをクリックするまでドキュメントは登録されません。
- ※ 「保存」ボタンをクリックすると、右図の表示がでます。「保存のみ」ボタンをクリックすると、「ドキュメント設定画面」が表示され、引き続き帳票の設定が行えます。「一覧画面へ戻る」ボタンをクリックすると、「フォルダ」画面が表示されます。

ベースとなるドキュメント画像ファイルを選んでください。

ファイルを選択
sample1_1.jpg

ドキュメント名を入力してください。
ドキュメント名を入力

ドキュメント名を入力すると「ドキュメント設定へ進む」ボタンが表示されます。

ベースとなるドキュメント画像ファイルを選んでください。

ファイルを選択
20190528_HOS_1.pdf

ドキュメント名を入力してください。
TEST

ドキュメント設定へ進む

過去に作成したドキュメント設定ファイル(.xml)を選んでください。

ファイルを選択
TEST.xml

登録

TEST

ドキュメント設定へ進む



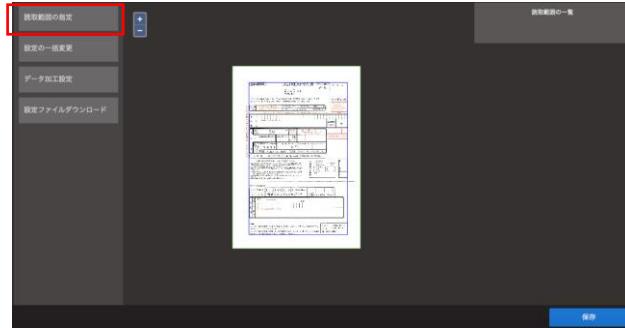
2.4 読取範囲の指定(新しい画像から、設定ファイルから)

読み取り範囲は帳票上の読み取り部分です。

＋OCRで読み込みを行い、データを出力した部分を指定します。

2.4.1 読取範囲の追加

- 「ドキュメント設定」画面で、左のパネルから「読み取り範囲の指定」ボタンをクリックします。



- マウスカーソルを画像イメージの上に移動すると、カーソルが青い点に切り替わります。カーソル(青い点)を読み取りたい読み取り範囲の左上に移動し、クリックします。

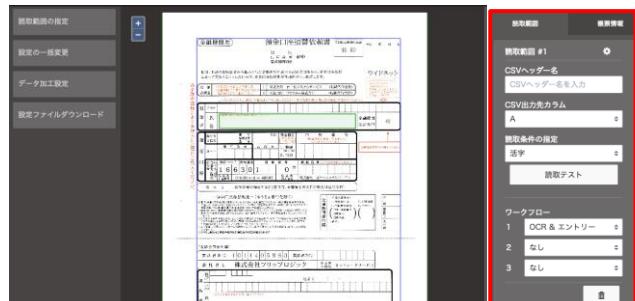
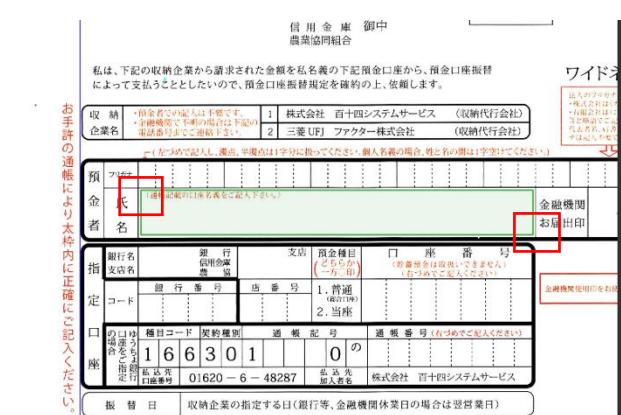


- フィールドを囲うようにマウスカーソルを読み取り範囲の右下に移動させ、終点でクリックします。

- 同じ大きさの読み取り範囲を複数作成したい場合は、読み取り範囲クリックした状態で「ctrlキー+C」を押すと、読み取り範囲がコピーでき、「ctrlキー+V」を押すとペーストができます。(MACの場合は「commandキー+C」でコピー、「commandキー+V」でペーストができます。)

※ 読み取り範囲の大きさは、読み取り範囲の左上または右下部分にカーソルをあて、十字アイコンを動かすことで調節できます。

読み取り範囲が確定され、画面右側に読み取り範囲の設定が表示されます。



2.4.2 読取範囲の指定(クロップ作業)のポイント

読み取り範囲の指定についてのポイントは以下の通りです。

1. 罫線や読取対象外の文字などはできる限り入れないようにクロップします。(例外もあり、罫線ごとクロップした方が精度が高くなる読取条件もございます。詳細は、「[読取条件の種類](#)」をご参照ください。)
 2. 記載場所が分かれていない場合は、1読取範囲としてクロップします。

A マスありの部分は、全桁もしくは全文字まとめて範囲を指定します。

金融機関コード

B チェックボックスやマークシート・押印は項目ごとに読み取り範囲を指定します。

銀行
信用金庫
農協

- 1. 普通
(総合口座)
- 2. 当座

まとめて範囲を指定すると、正しい読み取り結果がでません。

銀 行
信用金庫
農 協

1. 普通
(総合口座)
2. 当座

C　日付、郵便番号、電話番号、住所などはまとめてクロップすることができます。それぞれ適切な読み取り条件を選択します。

目付

2018年2月16日

郵便番号

中華書局

電話番号

住所

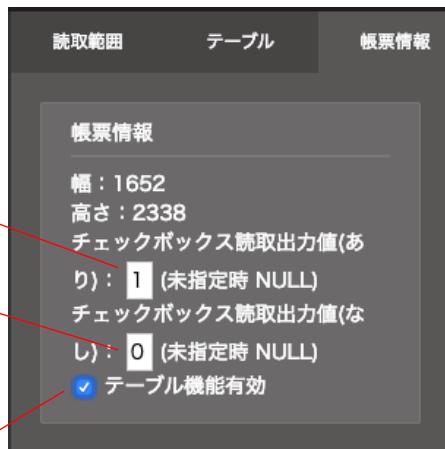
都道府県	市区町村

※ 下記のように読み取り範囲を項目ごとに分けることで、より高い精度がでることができます。

2018 年 2 月 16 日

2.4.3 帳票情報の設定

帳票情報の設定画面



【帳票情報設定】

No	項目	内容	備考
①	チェックボックス読み出力値(あり)	チェックボックスが選択された場合に出力する文字を設定します。 ※初期設定は、「1」	
②	チェックボックス読み出力値(なし)	チェックボックスが選択されていない場合に出力する文字を設定します。 ※初期設定は、「0」	
③	テーブル機能有効	項目の位置補正を自動にするか、手動にするかを決定します。手動にする場合は、テーブル機能有効にチェックします。	基本はチェック不要です。テーブル機能については 補足 B(テーブル設定について) をご参照下さい。

2.4.4 読取範囲の設定

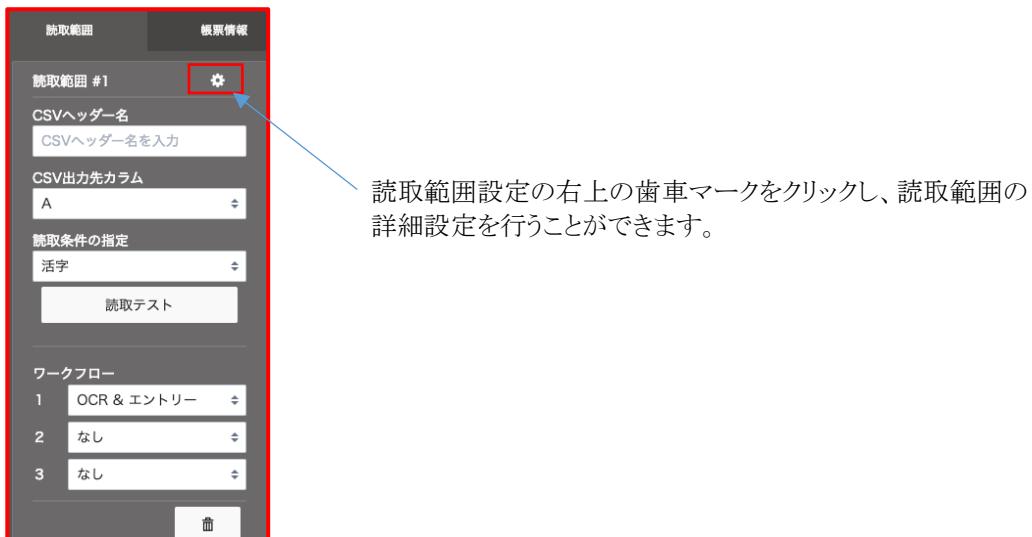
読取範囲の設定画面



【読取範囲設定】

No	項目	内容	備考
①	歯車マーク 読取範囲の詳細設定	「読取範囲の詳細設定」画面を表示します。詳細は下記「 読取範囲の詳細設定 」をご参照ください。	
②	CSV ヘッダー名	CSV に出力した際のヘッダー名となります。	
③	CSV 出力先カラム	CSV へ出力する際の列を指定します。	既に指定されている出力列は使えません。
④	読取条件の指定	設定した読取範囲に対して解析を実行するエンジンの種別を選択します。 詳細は後述の「 読取条件の種類 」をご参照ください。	適切な読取条件を選択することで、高い読取精度を出すことができます。
⑤	読取テスト	設定した読取範囲の読取解析結果を確認します。読取範囲内に記入がある場合のみ、結果が表示されます。	ここで読み取るパートは画像補正処理はされておりません。処理が入った場合の読取値を確認したい場合は、エントリー作業を行う際にご確認ください。
⑥	ワークフロー	ワークフローの回数と内容を指定します。	
⑦	削除	設定した読取範囲を削除します。	

2.4.5 読取範囲の詳細設定



1. 辞書設定タブ

読み取った値に対して、辞書データの値をマッチングする設定です。

処理例) 読み取った値が「A-001」であれば「パソコン」、「A-002」であれば「テレビ」と出力したい場合など。

辞書設定の詳しい設定方法は、本マニュアル末尾の「[補足 C ユーザ辞書設定](#)」をご参照ください。

読み取った値に対して、辞書データの値をマッチングする設定です。

辞書変換処理 行う 行わない

ユーザ辞書

出力列 参照キー 値1 値2 値3

辞書データ自動追加 行う 行わない

尤度閾値 (0.00 ~ 1.00まで)

2. エントリー設定タブ

読み取った値に対して、辞書データの値をマッチングする設定です。

エントリー順 ①

フィールドグループ ②

【エントリー設定】

No	項目	内容
----	----	----

①	エントリー順	「エントリー」画面の表示順序を指定します。
②	フィールドグループ	フィールドグループのグループ名を指定します。※現在ご利用いただけません。

3. その他タブ



【その他タブの設定】

No	項目	内容	備考
①	読み飛ばし範囲として設定する	クロップした部分を読み飛ばし範囲とする場合は、チェックします。	
②	読み飛ばし範囲画像補正実行	読み飛ばし範囲を自動で画像補正する場合は、チェックします。	

※ 「グループ」設定については、「補足 A 帳票詳細設定」を参照してください。

2.4.6 読取条件の種類

読み取条件は現在下記の種類があります。文字の種類が限定されるのであれば、適切な読み取条件を選択することで、読み取の精度を上げることができます。用途に応じて設定してください。

※ 基本的には罫線を含まない部分で読み取範囲を指定してください。

※ クイックチェック対応覧の「空白判定のみ」とは空白か否かのチェックです。文字列に対してのチェックは行いません。

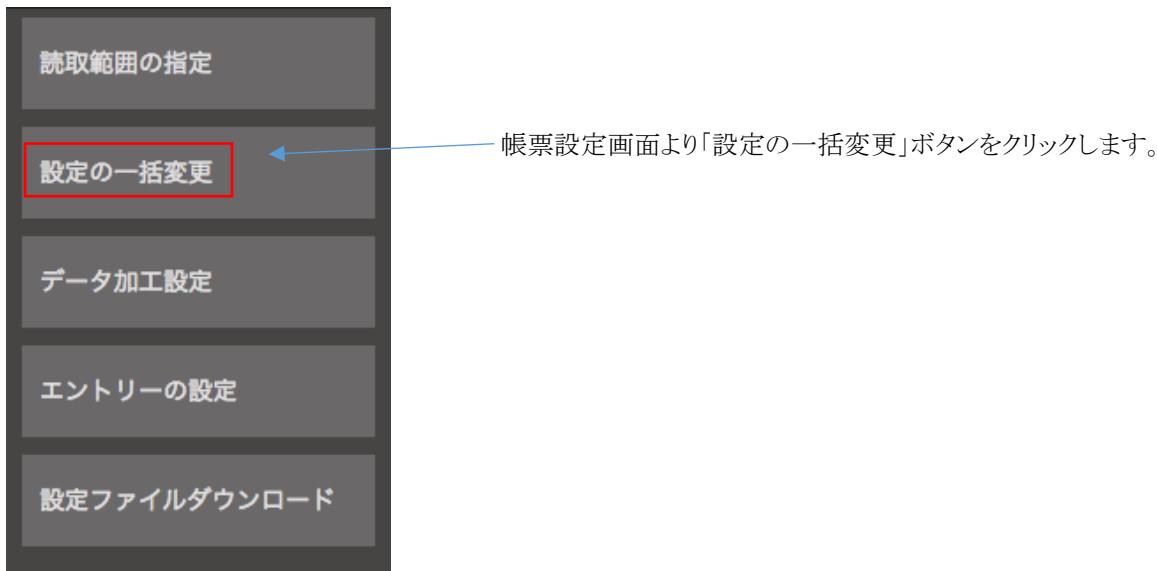
読み取条件名	用途・備考	複数行対応	スペース出力対応	クイックチェック対応
指定なし(すべての文字)	漢字・数字・英語・記号などの記載が予想される場合	○		○
数値	数字のみの記載が予想される場合			空白判定のみ
カタカナ	カタカナのみの記載が予想される場合			空白判定のみ
日付	日付の記載が予想される場合 「平成」などの年号が入っている場合も読み取れます。			空白判定のみ
チェックボックス	レ点、丸選択、アスタリスクなどのチェックボックスの記載が予想される場合 ※ チェックボックス1つに対して1つクロップすること。2つをまとめてクロップすると、正しい結果がで			○

	ない。			
活字	活字の記載が予想される場合 ※ 文字と文字の間のスペースも認識します。	○	○	○
郵便番号	『数字3桁+数字4桁』のみの記載が予想される場合			空白判定のみ
住所	住所の記載が予想される場合	○		空白判定のみ
銀行名	銀行名の記載が予想される場合			空白判定のみ
支店名	支店名の記載が予想される場合			空白判定のみ
氏名	氏名の記載が予想される場合			○
マークシート・押印	黒ピクセルを比較して判定を行った場合(マークシートなど) ※ チェックボックス1つに対して1つクロップすること。2つをまとめてクロップすると、正しい結果がでません。 ※ チェックボックスの読み取り条件をご利用いただいた方が高い精度ができることがあります。			
読み取り対象外	読み取りをする必要がない項目の場合(例:読み飛ばし項目)	—	—	
マスあり数字	マスありの数字の記載が予想される場合 ※ スペースは空白として出力される。			○
金額	数字・・・▲の記載が予想される場合 ※ ¥や, が入っている場合は、自動で除去され、数字のみ出力されます。			空白判定のみ
バーコード・QRコード	バーコードやQRコードの記載が予想される場合			
電話番号	数字とハイフンの記載が予想される場合			空白判定のみ
English	英文の記載が予想される場合	○	○	空白判定のみ
Traditional Chinese	繁体字の記載が予想される場合	○	○	空白判定のみ

Vietnamese	ベトナム語の記載が予想される場合	○	○	空白判定のみ
Thai	タイ語の記載が予想される場合	○	○	空白判定のみ

2.5 設定の一括変更(新しい画像から、設定ファイルから)

読み取り範囲のテーブルやワークフローの選択を、一括で行うことができます。



1. CSV 設定

CSV設定 ワークフロー設定 詳細設定

CSVヘッダー名 ① 更新しません 入力値+連番で更新します

読み取り条件 ② 更新しません 指定の読み取り条件で全て更新します 指定の読み取り条件のみ更新します

CSV出力先カラム ③ 更新しません 非出力のみ更新します Aから順に上書きで全て更新します 全て非出力で更新します
※CSV列出力上限数以上の更新はできません

【CSV 設定】

No	項目	内容
①	CSV ヘッダー名	「入力値+連番」で表示させたい場合は、ここで設定をします。
②	読み取り条件	<p>読み取り条件を一括で同じものを選択する場合は、「指定の読み取り条件で全て更新します」を選択し、任意の読み取り条件を指定します。</p> <p>特定読み取り条件のみ別の読み取り条件に変更したい場合は、「指定の読み取り条件のみ更新します」を選択し、どの読み取り条件を変更するのかを指定します。</p> <p>読み取り条件 <input type="radio"/> 更新しません <input type="radio"/> 指定の読み取り条件で全て更新します <input checked="" type="radio"/> 指定の読み取り条件のみ更新します</p> <p>更新する読み取り条件を選択して下さい</p> <p>選択した読み取り条件で更新します</p>
③	CSV 出力先カラム	読み取り範囲設定順に上から出力先カラムを設定したい場合は、ここで設定をします。

2. ワークフロー設定

CSV設定 ワークフロー設定 **ワークフロー設定** 詳細設定

ワークフロー1: 更新しません
ワークフロー2: 更新しません
ワークフロー3: 更新しません

一括でワークフローを設定したい場合はこちらで設定をします。

3. 詳細設定

設定の一括変更

CSV設定 ワークフロー設定 **詳細設定**

エントリー順 ① 更新しません
 対象外※1を除き、1から連番で更新します
 1から連番で全て更新します
 対象外※1のみクリアします
 全てクリアします
※1 全て「読み飛ばし範囲として指定する」が有効

マークシート・押印比率 ② 更新しません
 入力値で更新します

読み飛ばし範囲画像補正実行 ③ 更新しません
 全て無効にします
 全て有効にします

キャンセル 設定

【詳細設定】

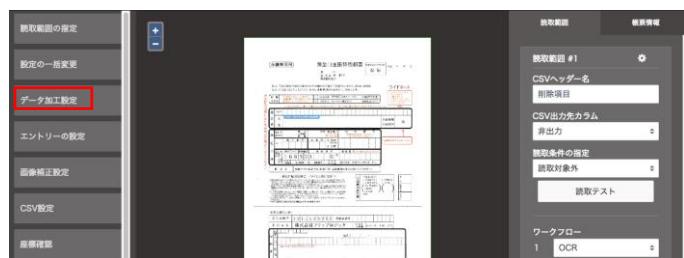
No	項目	内容	備考
①	エントリー順	読み飛ばし範囲設定順に上からエントリー順を設定したい場合は、ここで設定します。	
②	マークシート・押印比率	マークシート・押印の比較率を設定したい場合は、ここで設定します。 マークシート・押印の読み飛ばし条件を使用した時に、設定帳票のマークシート・押印部分と比べ比較率で設定した値以上の黒ピクセルの量が読み込んだ帳票に検出された場合に、「チェックあり」と判定します。	デフォルトでは 1.2 となっています。
③	読み飛ばし範囲自動補正実行	読み飛ばし範囲自動補正実行の無効・有効を設定したい場合は、ここで設定します。	

2.6 データ加工設定(新しい画像から、設定ファイルから)

データ加工設定は読み飛ばし範囲設定後、CSV出力前にデータ変換を行う機能です。

2.6.1 データ加工設定パラメータの設定方法

1. 「ドキュメント設定」画面で、左のパネルから「データ加工設定」ボタンをクリックします。



2. 「データ加工設定」画面が表示されますので、「+」ボタンをクリックします。

データ加工設定

CSVファイル出力するためのデータ加工設定を行います。



3. 加工処理を選択します。

データ加工設定

CSVファイル出力するためのデータ加工設定を行います。



※ データ加工設定機能の詳しい設定方法は本マニュアル末尾の「[補足 C データ加工設定一覧](#)」をご参照ください。



4. パラメータを入力し、「確定」ボタンをクリックします。

- ※ 他にも処理を追加する場合は「確定」ボタンをクリックする前に「+」ボタンを押し、処理を追加します。
- ※ 「▲▼」ボタンで順序を入れ替えることができます。
- ※ 「」ボタンで削除できます。

加工設定を行います。



1

トリム

入力列 (+) 出力列 (-) 出力列 (+) 出力列 (-) 

入力列 (min:1,max:1)
出力列 (min:1,max:1)
パラメータ (runif)

加工説明

入力値をトリミング(前後のスペースを切り落とす)する。
(=input.trim())
"ab c " → "ab c"

キャンセル 確定

2.6.2 データ加工設定の入力の仕方

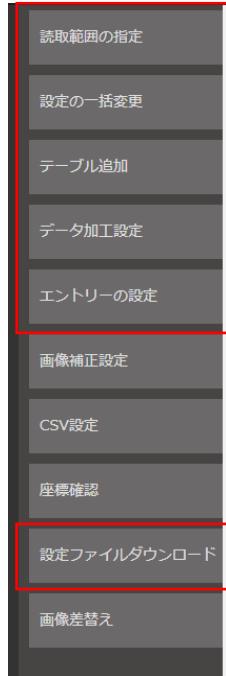
データ加工設定のパラメータ入力には以下の注意事項があります。

入力列	<p>加工の入力値となる列番号を数字もしくはアルファベットで入力します。 入力すると下記のように、自動変換のリストが表示されるので、ここから該当の列を選択します。</p> 
	<p>※ パラメータはこのリストから選択するようにしてください。直接パラメータを入力した場合、下記のようなエラーが表示されます。</p> <p style="color: red; font-weight: bold;">2番目入力列は誤りがあります、チェックしてください。</p>
出力列	入力列と同様の指定を行います。
パラメータ	本マニュアル末尾の 「補足 C データ加工設定一覧」 をご確認いただき、パラメータを設定してください。
フラグ・runIf	<p>実行フラグは全ての加工処理に適用できます。ここで指定したフラグがセットされていると、この加工処理が実行されます。カンマで区切ることにより、複数のフラグを指定できます。また、フラグがセットされていないときに実行したい場合は、フラグ名に!記号を付けます。</p> <p>例) flag1 → flag1 がセットされていると実行される flag1, flag2 → flag1 及び flag2 がセットされていると実行される !flag1 → flag1 がセットされていないと実行される flag1, !flag2 → flag1 がセットされていて、flag2 がセットされていないと実行される。</p>

2.7 帳票設定その他の項目(新しい画像から、設定ファイルから)

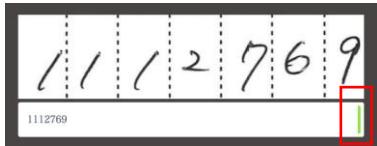
その他、帳票設定画面の左パネルに表示されるボタンは、下記の通りです。

※ 下記赤枠以外のボタンについては、「[補足 A 帳票詳細設定](#)」を参照してください。



【帳票設定その他の項目】

No	項目	内容	備考
①	読み取り範囲の指定	読み取り範囲を指定します。	
②	設定の一括変更	読み取り起点やワークフローなどの読み取り範囲の設定を一括で設定できます。	詳細は「 設定の一括変更 」をご参照ください。
③	データ加工設定	CSV出力時に行うデータ加工処理を設定します。	「 補足 C データ加工設定 」をご参照ください。
④	エントリーの設定	エントリー時にフルチェックとクイックチェックのどちらを使うかを指定できます。クイックチェックを指定すると、値を読み込んだ際に読み取りの正解率が高い文字列の、エントリー作業を省略することができます。 フルチェック時に、エントリー画面で下記のように緑が表示されている場合は、読み取りの正解率が高いものです。クイックチェックでは、緑と認識されるものが非表示となるので業務を効率化できます。	現在適用されている読み取り条件につきましては、「 読み取り条件の種類 」をご参照ください。



⑤	設定ファイルダウンロード	<p>設定した帳票を XML 形式でダウンロードします。 ダウンロードした設定ファイルを「ドキュメントを作成」の「設定ファイルから」からインポートすることで、設定を維持したまま新規のドキュメントを作成することができます。</p> <p>ドキュメントを作成</p> 	<p>※ 2018年4月24以前に作成された帳票設定は、旧テーブル取得の設定がされています。現在の新テーブル取得の設定を適用したい場合の方法は、「ドキュメントの設定方法」をご確認ください。</p>
---	--------------	---	--

2.8 帳票設定(マルチフォーム)

請求書のような、書式(フォーマット)が各社毎に異なる帳票について、マルチフォームを利用すると、個別の帳票定義を作成せずに、AI が項目の位置を特定し、データ化することができます。その結果、ユーザはあらかじめ準備された帳票を選択するだけで、帳票を定義することができます。

対応している帳票は、下記となります。

- ・請求書
- ・領収書
- ・レシート
- ・給与支払報告書
- ・住民票
- ・注文書

2.8.1 読取項目の変更

1. 画面右側に表示されたのチェックボックス上で、チェックのついた項目を読み取り項目として CSV に出力します。
必要のない項目はチェックを外してください。



【各ドキュメントの読み取り項目一覧 <請求書・領収書・レシート>】

列	請求書	列	領収書	列	レシート	列	請求書・領収書・レシート
A	・請求元会社名	A	・請求元会社名	A	・請求元会社名	A	・請求元会社名
B	・請求元住所	B	・合計金額税込	B	・合計金額税込	B	・請求元住所
C	・請求元TEL	C	・タイトル	C	・タイトル	C	・請求元TEL
D	・請求先会社名	D	・発行日	D	・発行日	D	・請求先会社名
E	・合計金額税込					E	・合計金額税込
F	・消費税					F	・消費税
G	・タイトル					G	・タイトル
H	・発行日					H	・発行日
I	・請求書番号					I	・請求書番号
J	・請求期日					J	・請求期日
K	・銀行名1					K	・銀行名1
L	・銀行名2					L	・銀行名2
M	・銀行名3					M	・銀行名3
N	・銀行名4					N	・銀行名4
O	・銀行名5					O	・銀行名5
P	・支店名1					P	・支店名1
Q	・支店名2					Q	・支店名2
R	・支店名3					R	・支店名3
S	・支店名4					S	・支店名4
T	・支店名5					T	・支店名5
U	・口座種別1					U	・口座種別1
V	・口座種別2					V	・口座種別2
W	・口座種別3					W	・口座種別3
X	・口座種別4					X	・口座種別4
Y	・口座種別5					Y	・口座種別5
Z	・口座番号1					Z	・口座番号1
AA	・口座番号2					AA	・口座番号2
AB	・口座番号3					AB	・口座番号3
AC	・口座番号4					AC	・口座番号4
AD	・口座番号5					AD	・口座番号5
AE	・口座名義1					AE	・口座名義1
AF	・口座名義2					AF	・口座名義2
AG	・口座名義3					AG	・口座名義3
AH	・口座名義4					AH	・口座名義4
AI	・口座名義5					AI	・口座名義5
AJ	・合計金額税抜					AJ	・合計金額税抜

【各ドキュメントの読み取り項目一覧 <給与支払報告書>】

給与支払報告書

A	・支払いを受ける者／住所	AO	・住宅借入金等特別控除の額の内訳／ 住宅借入金等年末残高(1回目)	CG	・16歳未満の扶養親族4/フリガナ
B	・支払いを受ける者／受給者番号	AP	・住宅借入金等特別控除の額の内訳／ 住宅借入金等特別控除可能額	CH	・16歳未満の扶養親族4/氏名
C	・支払いを受ける者／個人番号	AQ	・住宅借入金等特別控除の額の内訳／ 居住開始年月日(2回目)	CI	・16歳未満の扶養親族4/区分
D	・支払いを受ける者／役職名	AR	・住宅借入金等特別控除の額の内訳／ 住宅借入金等特別控除区分(2回目)	CJ	・16歳未満の扶養親族4/個人番号
E	・支払いを受ける者／フリガナ	AS	・住宅借入金等特別控除の額の内訳／ 住宅借入金等年末残高(2回目)	CK	・16歳未満の扶養親族5/フリガナ
F	・支払いを受ける者／氏名	AT	・控除対象配偶者／フリガナ	CL	・16歳未満の扶養親族5/氏名
G	・種別	AU	・控除対象配偶者／氏名	CM	・16歳未満の扶養親族5/区分
H	・支払金額	AV	・控除対象配偶者／区分	CN	・16歳未満の扶養親族5/個人番号
I	・給与所得控除後の金額	AW	・控除対象配偶者／個人番号	CO	・5人目以降の控除対象扶養親族の個人番号
J	・所得控除の合計額	AX	・控除対象配偶者／配偶者の合計所得	CP	・5人目以降の16歳未満の扶養親族の個人番号
K	・源泉徴収額	AY	・控除対象配偶者／国民年金保険料等の金額	CQ	・未成年者
L	・控除対象配偶者／有	AZ	・控除対象配偶者／旧長期損害保険料の金額	CR	・外国人
M	・控除対象配偶者／従有	BA	・控除対象扶養親族1/フリガナ	CS	・死亡退職
N	・控除対象配偶者／老人	BB	・控除対象扶養親族1/氏名	CT	・災害者
O	・配偶者特別控除の額	BC	・控除対象扶養親族1/区分	CU	・乙欄
P	・控除対象不要親族の数／特定／人	BD	・控除対象扶養親族1/個人番号	CV	・本人が障害者／特別
Q	・控除対象不要親族の数／特定／従人	BE	・控除対象扶養親族2/フリガナ	CW	・本人が障害者／その他
R	・控除対象不要親族の数／老人／内	BF	・控除対象扶養親族2/氏名	CX	・寡婦／一般
S	・控除対象不要親族の数／老人／人	BG	・控除対象扶養親族2/区分	CY	・寡婦／特別
T	・控除対象不要親族の数／老人／従人	BH	・控除対象扶養親族2/個人番号	CZ	・寡夫
U	・控除対象不要親族の数／その他／人	BI	・控除対象扶養親族3/フリガナ	DA	・勤労学生
V	・控除対象不要親族の数／その他／従人	BJ	・控除対象扶養親族3/氏名	DB	・中途就・退職/就職
W	・16歳未満扶養親族の数	BK	・控除対象扶養親族3/区分	DC	・中途就・退職/退職
X	・障害者の数／特別／内	BL	・控除対象扶養親族3/個人番号	DD	・中途就・退職/年
Y	・障害者の数／特別／人	BM	・控除対象扶養親族4/フリガナ	DE	・中途就・退職/月
Z	・障害者の数／その他／人	BN	・控除対象扶養親族4/氏名	DF	・中途就・退職/日
AA	・非居住者である親族の数	BO	・控除対象扶養親族4/区分	DG	・受給者生年月日/明
AB	・社会保険料等の金額	BP	・控除対象扶養親族4/個人番号	DH	・受給者生年月日/大
AC	・生命保険料の控除額	BQ	・控除対象扶養親族5/フリガナ	DI	・受給者生年月日/昭
AD	・地震保険料の控除額	BR	・控除対象扶養親族5/氏名	DJ	・受給者生年月日/平
AE	・住宅借入金特別控除の額	BS	・控除対象扶養親族5/区分	DK	・受給者生年月日/年
AF	・摘要	BT	・控除対象扶養親族5/個人番号	DL	・受給者生年月日/月
AG	・生命保険料の金額の内訳／新生命保険料の金額	BU	・16歳未満の扶養親族1/フリガナ	DM	・受給者生年月日/日
AH	・生命保険料の金額の内訳／旧生命保険料の金額	BV	・16歳未満の扶養親族1/氏名	DN	・支払者／個人番号又は法人番号
AI	・生命保険料の金額の内訳／介護医療保険料の金額	BW	・16歳未満の扶養親族1/区分	DO	・支払者／住所(居所)又は所在地
AJ	・生命保険料の金額の内訳／新個人年金の金額	BX	・16歳未満の扶養親族1/個人番号	DP	・支払者／氏名又は名称
AK	・生命保険料の金額の内訳／旧個人年金の金額	BY	・16歳未満の扶養親族2/フリガナ	DQ	・支払者／氏名又は名称/電話番号
AL	・住宅借入金等特別控除の額の内訳／住宅借入金等特別控除適用数	BZ	・16歳未満の扶養親族2/氏名		
AM	・住宅借入金等特別控除の額の内訳／居住開始年月日(1回目)	CA	・16歳未満の扶養親族2/区分		
AN	・住宅借入金等特別控除の額の内訳／住宅借入金等特別控除区分(1回目)	CB	・16歳未満の扶養親族2/個人番号		
		CC	・16歳未満の扶養親族3/フリガナ		
		CD	・16歳未満の扶養親族3/氏名		
		CE	・16歳未満の扶養親族3/区分		
		CF	・16歳未満の扶養親族3/個人番号		

【各ドキュメントの読み取り項目一覧 <住民票>】

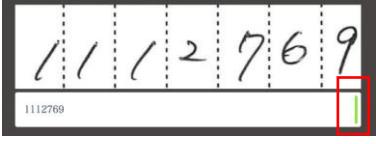
住民票

A	・発行元市区町村	A0	・世帯員 3/氏名	BY	・世帯員 4/在留期間等の満了の日
B	・世帯員 1/氏名	AP	・世帯員 3/生年月日	BZ	・世帯員 4/備考
C	・世帯員 1/生年月日	AQ	・世帯員 3/性別	CA	・世帯員 5/氏名
D	・世帯員 1/性別	AR	・世帯員 3/世帯主との続柄	CB	・世帯員 5/生年月日
E	・世帯員 1/世帯主との続柄	AS	・世帯員 3/住民となった年月日	CC	・世帯員 5/性別
F	・世帯員 1/住民となった年月日	AT	・世帯員 3/住所を定めた年月日	CD	・世帯員 5/世帯主との続柄
G	・世帯員 1/住所を定めた年月日	AU	・世帯員 3/住所	CE	・世帯員 5/住民となった年月日
H	・世帯員 1/住所	AV	・世帯員 3/世帯主	CF	・世帯員 5/住所を定めた年月日
I	・世帯員 1/世帯主	AW	・世帯員 3/筆頭者	CG	・世帯員 5/住所
J	・世帯員 1/筆頭者	AX	・世帯員 3/前住所	CH	・世帯員 5/前住所
K	・世帯員 1/前住所	AY	・世帯員 3/届出年月日	CI	・世帯員 5/世帯主
L	・世帯員 1/届出年月日	AZ	・世帯員 3/住民票コード	CJ	・世帯員 5/筆頭者
M	・世帯員 1/住民票コード	BA	・世帯員 3/在留カード等の番号	CK	・世帯員 5/届出年月日
N	・世帯員 1/在留カード等の番号	BB	・世帯員 3/第30条の45に規定する区分	CL	・世帯員 5/住民票コード
O	・世帯員 1/第30条の45に規定する区分	BC	・世帯員 3/在留資格等	CM	・世帯員 5/在留カード等の番号
P	・世帯員 1/在留資格等	BD	・世帯員 3/在留期間	CN	・世帯員 5/第30条の45に規定する区分
Q	・世帯員 1/在留期間	BE	・世帯員 3/国籍・地域	CO	・世帯員 5/在留資格等
R	・世帯員 1/国籍・地域	BF	・世帯員 3/在留期間等の満了の日	CP	・世帯員 5/在留期間
S	・世帯員 1/在留期間等の満了の日	BI	・世帯員 4/生年月日	CQ	・世帯員 5/国籍・地域
T	・世帯員 1/備考	BJ	・世帯員 4/性別	CR	・世帯員 5/在留期間等の満了の日
U	・世帯員 2/氏名	BK	・世帯員 4/世帯主との続柄	CS	・世帯員 5/備考
V	・世帯員 2/生年月日	BL	・世帯員 4/住民となった年月日	CT	・住民票発行日
W	・世帯員 2/性別	BM	・世帯員 4/住所を定めた年月日		
X	・世帯員 2/世帯主との続柄	BN	・世帯員 4/住所		
Y	・世帯員 2/住民となった年月日	BO	・世帯員 4/世帯主		
Z	・世帯員 2/住所を定めた年月日	BP	・世帯員 4/筆頭者		
AA	・世帯員 2/住所	BQ	・世帯員 4/前住所		
AB	・世帯員 2/世帯主	BR	・世帯員 4/届出年月日		
AC	・世帯員 2/筆頭者	BS	・世帯員 4/住民票コード		
AD	・世帯員 2/前住所	BT	・世帯員 4/在留カード等の番号		
AE	・世帯員 2/届出年月日	BU	・世帯員 4/第30条の45に規定する区分		
AF	・世帯員 2/住民票コード	BV	・世帯員 4/在留資格等		
AG	・世帯員 2/在留カード等の番号	BW	・世帯員 4/在留期間		
AH	・世帯員 2/第30条の45に規定する区分	BX	・世帯員 4/国籍・地域		
AI	・世帯員 2/在留資格等				
AJ	・世帯員 2/在留期間				
AK	・世帯員 2/国籍・地域				
AL	・世帯員 2/在留期間等の満了の日				
AM	・世帯員 2/備考				

【各ドキュメントの読み取り項目一覧 <注文書>】

列	注文書					
A	・受注会社名					
B	・受注部署名					
C	・受注担当者名					
D	・発注番号					
E	・発注日					
F	・発注会社名					
G	・発注部署名					
H	・発注住所					
I	・発注電話番号					
J	・発注FAX番号					
K	・発注担当者名					
L	・発注合計金額					
M	・備考					
N	・納品希望納期					
O	・納品住所					
P	・納品電話番号					
Q	・納品FAX番号					
R	・納品担当者名					

【帳票設定その他の項目】

No	項目	内容	備考
①	設定の一括変更	読み取り起点やワークフローなどの読み取り範囲の設定を一括で設定できます。	詳細は「 設定の一括変更 」をご参照ください。
②	エントリーの設定	<p>エントリー時にフルチェックとクイックチェックのどちらを使うかを指定できます。クイックチェックを指定すると、値を読み込んだ際に読み取りの正解率が高い文字列の、エントリー作業を省略することができます。</p> <p>フルチェック時に、エントリー画面で下記のように緑が表示されている場合は、読み取りの正解率が高いものです。クイックチェックでは、緑と認識されるものが非表示となるので業務を効率化できます。</p> 	現在適用されている読み取り条件につきましては、「 読み取り条件の種類 」をご参照ください。

③	CSV 設定	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="425 175 774 249">ファイル名 (未設定時: 画像ファイル名)</td><td data-bbox="774 175 1123 249">CSV ファイル名を指定できます。</td></tr> <tr> <td data-bbox="425 249 774 345">文字コード</td><td data-bbox="774 249 1123 345">文字コードを「UTF-8」か「Shift JIS」で選択できます。</td></tr> <tr> <td data-bbox="425 345 774 624">読み取り項目数超過を出力</td><td data-bbox="774 345 1123 624">CSV に出力していない項目が帳票に記載がある場合に「1」を出力する項目を追加します。例えば請求書の場合、口座番号を5個まで CSV に出力可能ですが、帳票に6個以上記載があると「1」が出力されます。</td></tr> <tr> <td data-bbox="425 624 774 720">オリジナル OCR 結果を出力</td><td data-bbox="774 624 1123 720">レスポンスの値を JSON 形式で出力する列を追加します。</td></tr> </table>	ファイル名 (未設定時: 画像ファイル名)	CSV ファイル名を指定できます。	文字コード	文字コードを「UTF-8」か「Shift JIS」で選択できます。	読み取り項目数超過を出力	CSV に出力していない項目が帳票に記載がある場合に「1」を出力する項目を追加します。例えば請求書の場合、口座番号を5個まで CSV に出力可能ですが、帳票に6個以上記載があると「1」が出力されます。	オリジナル OCR 結果を出力	レスポンスの値を JSON 形式で出力する列を追加します。	
ファイル名 (未設定時: 画像ファイル名)	CSV ファイル名を指定できます。										
文字コード	文字コードを「UTF-8」か「Shift JIS」で選択できます。										
読み取り項目数超過を出力	CSV に出力していない項目が帳票に記載がある場合に「1」を出力する項目を追加します。例えば請求書の場合、口座番号を5個まで CSV に出力可能ですが、帳票に6個以上記載があると「1」が出力されます。										
オリジナル OCR 結果を出力	レスポンスの値を JSON 形式で出力する列を追加します。										
④	設定ファイルダウンロード	<p>設定した帳票を XML 形式でダウンロードします。ダウンロードした設定ファイルを「ドキュメントを作成」の「設定ファイルから」からインポートすることで、設定を維持したまま新規のドキュメントを作成することができます。</p> <p>ドキュメントを作成</p> 	<p>2018年4月24以前に作成された帳票設定は、旧テーブル取得の設定がされています。現在の新テーブル取得の設定を適用したい場合の方法は、「ドキュメントの設定方法」をご確認ください。</p>								

3 読取とデータ修正

3.1 ドキュメントアップロード

1. 帳票の設定・テスト後、運用を開始します。複数帳票の手動読み込みを行う際は、該当のフォルダ及びドキュメントを選択後、ボタンをクリックします。



2. 「ドキュメントを読み取る」画面が表示されますので、「ファイルを選択」ボタンをクリックします。複数のファイルを一度にインポートすることも可能です。

ドキュメントを読み取る

※PDFで埋め込み画像が含まれる場合は、エントリー画面で画像が劣化することがありますので、なるべく鮮明な画像を使用してください。

3. ファイルを選択すると、読み取ユニット名の入力を求められます。いつインポートしたファイルなのかがわかるよう任意の名前をつけます。

ユニット名入力後、「読み取開始」ボタンをクリックします。

- ✓ 「読み取開始」ボタンをクリックすると、帳票処理を開始します。
- ✓ ファイルのアップロードさえ終われば画面を閉じても処理は継続されます。

取帳票のアップロード後、「読み取ユニット」画面が表示されます。

読み取りたいドキュメント画像ファイルを選択してください。（複数選択可）

ファイルを選択

読み取ユニット名を入力してください。

申込書

読み取開始

読み取ユニット画面

- ✓ 右の画面が表示され、「読み取中」と出ている場合は、アップロードは完了しています。
- ✓ 処理の状況は「ドキュメント一覧」画面にて確認ができます。
- ✓ 読取が完了するまでは「エントリー」、「ペリファイ」、「CSVダウンロード」のボタンは押せません。



読み取りユニット画面

【読み取りユニット】

No	項目	内容	備考
①	ユニット名	インポート時に入力したユニット名	
②	インポートした帳票の枚数	処理完了枚数/総数	
③	エントリー状況	エントリー完了項目数/エントリー項目数×ワークフローの段階数	ワークフローをOCRで選択した場合は、エントリー完了項目とし表示されます。
④	ベリファイ状況	ベリファイ完了項目数/項目総数	全てのエントリー作業完了後にベリファイボタンをクリックできます。
⑤	CSVファイルダウンロードボタン	エントリー・ベリファイ完了後にCSVをダウンロードします。	
⑥	ユニットの検索	読み取りユニットをステータスで検索します。	下記のステータスで検索が可能です。 •すべて…全てのユニットを表示します。 •読み取り未完了…OCRでの読み取りが完了していないユニットのみを表示します。 •エントリー未完了…読み取りが完了し、エントリー中(未エントリー含む)のユニットのみを表示します。 •ベリファイ未完了…エントリー済みでベリファイ中(未ベリファイ含む)のユニットのみを表示します。 •CSV未ダウンロード…エントリー完了(ベリファイ完了)でCSVダウンロードされていないユニットのみを表示します。

読み取りユニットの詳細設定

読み取りユニット名の右にある…をクリックすることで、下記詳細設定をすることができます。

【読み取りユニットの詳細設定】

No	項目	内容	備考
----	----	----	----

①	名前を変更	ユニット名を変更します。	
②	削除	ユニットに紐付いているデータを削除します。	※復元はできません。
③	CSV ファイル名を変更	CSV ファイル名を変更します。	
④	読み取バーツ DL	読み取バーツ画像と読み取値をダウンロードします。	
⑤	属性情報を参照	読み取ユニットの情報を参照します。	作成日や更新日、ユニット ID が参照できます。

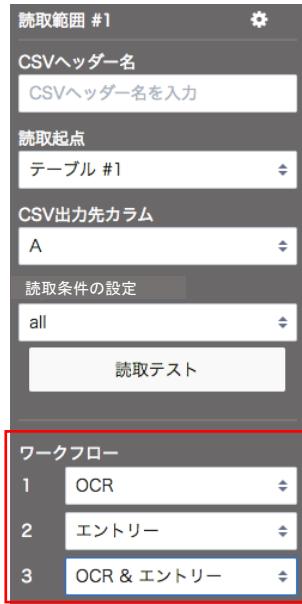
3.2 エントリー

読み込んだ帳票の読み取範囲ごとに値を入力していきます。

OCR では OCR による自動読み取だけではなく、読み込んだ帳票を見ながら手作業で入力する「エントリー」と、OCR が読み取った値を人が手作業で修正していく「OCR & エントリー」が選択可能です。

※ 下記は帳票インポートの前に、ドキュメント設定画面にて設定する内容です。

【ワークフローの設定】



読み取範囲 #1

CSVヘッダー名
CSVヘッダー名を入力

読み取起点
テーブル #1

CSV出力先カラム
A

読み取条件の設定
all

読み取テスト

ワークフロー

- 1 OCR
- 2 エントリー
- 3 OCR & エントリー

読み取範囲設定メニューの「ワークフロー」にて、どのように読み取を行うか、また何段階のフローにするかを設定します。

最高で3段階のワークフローが設定でき、選べる項目は下記3つです。

【ワークフロー】

No	項目	内容	備考
①	OCR	OCRのみで読み取	CSV出力先カラムを「非出力」に設定した場合は、ワークフローはOCRに固定されます。
②	エントリー	エントリー(手入力)のみの読み取	エントリー作業が必要
③	OCR&エントリー	OCRで読み取ったデータをもとに、エントリー作業を行う読み取	エントリー作業が必要

※ ワークフローで、3段階のエントリー(またはOCR&エントリー)作業を選択すると、最高で3人の担当者がエントリー作業を行うことができます。

段階的なフローにすることで、誰かがエントリー作業でミスをした場合でも、他の人が修正できるので最終的に正しいデータを出力することができます。(→後述のベリファイ項目参照)

3.2.1 通常エントリー

読み取り範囲の画像イメージを見ながら、読み取り範囲ごとに値を入力していきます。
下記はドキュメント設定後、帳票を読み込み、「読み取り完了」となってからの作業です。

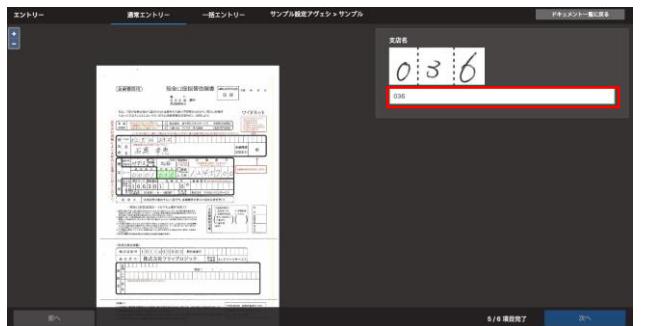
1. +OCR メニュー画面にログインします。



2. 「ドキュメント一覧」画面より、該当のフォルダ、ドキュメントを選択し、該当帳票の「エントリー」ボタンをクリックします。



3. 通常エントリーの帳票エントリー画面が表示されます。
画面左側には読み込んだ帳票、右側には読み取り範囲の名称、読み取り範囲の画像イメージ、エントリー入力用テキストボックスが表示されます。



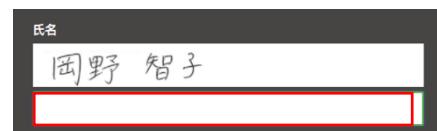
4. 画面右下には XXX / YYY 項目完了(□/○枚目)と表示されます。



5. ワークフローの設定により、エントリー画面の表示は以下のようになります。

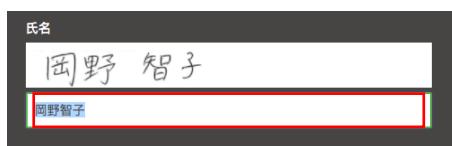
【「エントリー」選択時】

入力部分はブランクとなります。読み込まれた画像を手入力します。



【「OCR&エントリー」選択時】

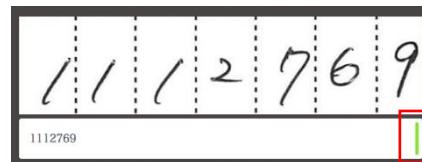
入力部にあらかじめ OCR で読み取った文字列が表示されます。画像と一致するものが表示されている場合は「Enter」キーを押していきます。読み取った文字列が正しくない場合は、削除してから正しいものを手入力します。



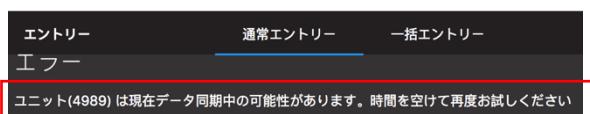
6. OCR で読み取った文字列の正解率が高い場合は右図のように緑の線が入って表示されます。(対象読取条件に制限あり)

この機能を使うことで、緑が付いている読み取範囲のエントリー作業を省略することができます。設定方法は「[2.7 帳票設定その他の項目](#)」をご参照ください。

正解率が低いものは赤の線が入ります。



7. 右図のようなエラーが表示される場合、インポートされた画像ファイルの読み取中の可能性があります。しばらく待ってから、再度エントリー画面を開いてください。



8. 帳票内容に従い、値を登録していきます。

値を入力後、「Enter」キーを押すと次の項目が表示されます。

全ての項目が非表示になれば、エントリー作業は完了となり、画面左上に右図のメッセージが表示されます。



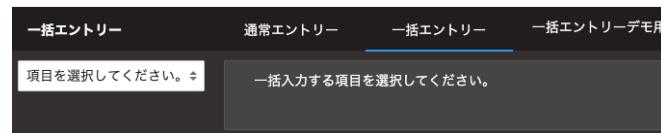
9. 右図のように「ワークフロー」にてエントリー作業を2つ以上選択した場合は、別のエントリー作業者が別のアカウントから +OCR にログインをして、該当ドキュメントのエントリー作業を行う必要があります。



3.2.2 一括エントリー

一括エントリーは、チェックボックスのような、同じ値が含まれる項目に有効なエントリー確認方法です。

- エントリー画面で一括エントリーを選択します。
画面左側に項目を選択するドロップダウンリストが表示されます。



- ドロップダウンリストからエントリーする項目を選択します。
例えば「全てのボックス項目」を選択しますと、チェックボックスを指定した全てのチェックボックス項目が対象となります。
選択した項目に記載された値が一覧されます。
エントリーする値を選択します。
- エントリーする値を選択すると、AIがその値と認識した項目の画像が一覧されます。
表示項目数を変更すると、1ページに表示する項目数を変更できます。

3.1 一覧された画像の中で誤読している項目があれば選択して「次へ」ボタンを押下します。

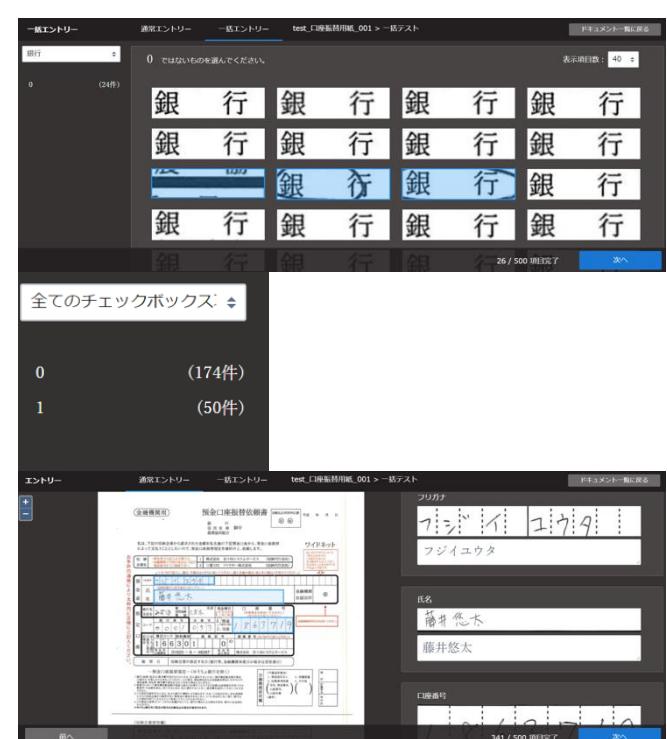


- 3.2 選択しなかった項目はエントリー済みとなります。
選択した項目は未エントリーとして、通常のエントリーでエントリーする流れとなります。

- 引き続き、他の項目について一括エントリーを行います。対象の値を選択してください。



- 通常エントリーに戻ると、一括エントリーでエントリーした値は表示されず未エントリーの項目についてエントリーを行います。



3.3 ベリファイ

※ ワークフローにて、エントリーが含まれている作業が2つ以上選択されている場合に、ベリファイの機能が使えます。読み取りエラーや入力ミスを確認するため、同じ読み取り範囲に対して2つ以上のエントリー結果を比較し、値に差異がある読み取り範囲の修正を行います。

※ 下記はエントリー作業完了後の作業です

1. 「ドキュメント一覧」画面より、ベリファイを行うフォルダ、ドキュメントを選択し、該当帳票の「ベリファイ」ボタンをクリックします。エントリーとベリファイの横に表示される分数は「(エントリーが一致している項目数)/(読み込んだ読み取り範囲の総数)」となります。



※ 「エントリー完了」の表示がでてきてから、「ベリファイ」ボタンを押すことが可能になります。

2. 読み取り範囲ごとに、エントリーの登録内容に差異がある項目が表示されます。正しい値を選択します。

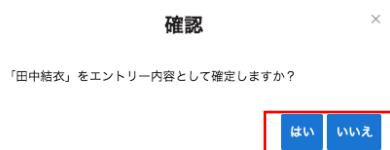
※ 差異は黄色で表示されます。

「正しいものがない」を選択された場合、もう一度エントリーする流れになります。

「判別不能」を選択された場合、CSVファイルに出力した際、当該項目の値が「●」となります。



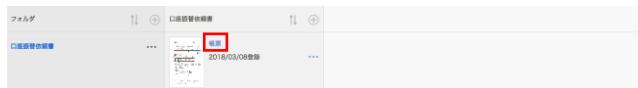
3. 選択後、確認の画面が表示されるので、正しければ「はい」のボタンを押します。



3.4 CSVファイルのダウンロード

修正後の結果データを使用した CSV ファイルを出力する場合に使用します。

- 「ドキュメント一覧」画面より、該当の帳票を選択します。



- 「CSV ダウンロード」ボタンをクリックすると、CSV ファイルをダウンロードすることができます。

ダウンロードされるファイルのファイル名は、既定では読み込んだファイル名となります。CSV 設定にて、固有のファイル名を設定することができます。

CSV ファイルの仕様

文字コード Shift_JIS、UTF-8

改行コード CR/LF



【ワークフローを複数設定している際の注意事項】

- ペリファイまで完了しないとエントリー結果は反映されません。

【データ量の多い CSV をダウンロードする際の注意事項】

- 「他のユーザが CSV ファイルダウンロード中です。しばらくお待ち下さい。」
が表示された場合は、暫く時間を置いてください。
- 途中で画面遷移をしても CSV を作成する処理はバックグラウンドで継続します。ただし画面遷移によりファイルのダウンロードがキャンセルされることがありますので、その際は再実施ください。
- ダウンロードが完了する前に他の CSV ダウンロードボタンを押下すると実行中のダウンロードがキャンセルされます。

「CSV ダウンロード」ボタンクリック時の遷移イメージは以下の通りです。

No	状況	ボタン表記	ボタン状態
①	CSV 出力未実行	CSV ダウンロード	活性
②	CSV 出力ボタン押下直後	CSV ダウンロード(処理開始...)	非活性
③	CSV 出力処理開始	CSV ダウンロード(データ加工準備中...)	非活性
④	データ加工開始	CSV ダウンロード(データ加工中...)	非活性
⑤	データ加工完了	CSV ダウンロード(データ加工完了... 次処理準備中...)	非活性
⑥	CSV データ作成中	CSV ダウンロード(CSV 出力...)	非活性
⑦	CSV ダウンロード完了	CSV ダウンロード(済)	活性

4 ユーザ管理

※ 下記設定は権限ロールが「管理者権限」のユーザが行うことができます。

4.1 概要

本サービスでは以下の管理機能を提供しています。

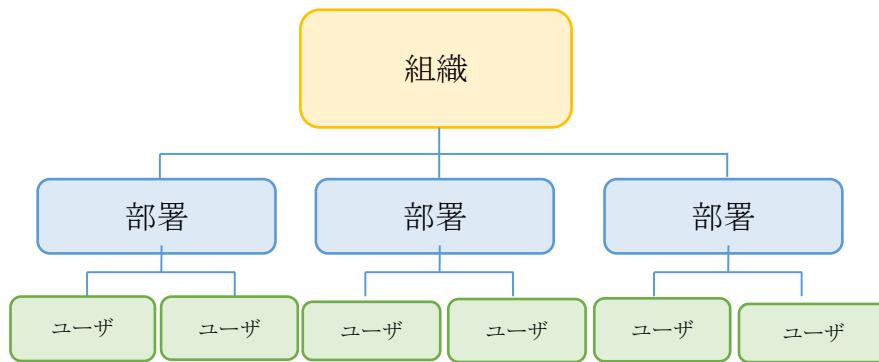
- ・組織設定：システムを使用する組織の設定です。
- ・部署設定：部署設定を1階層まで作成することができます。
- ・ロール設定：ロールは「管理者権限」、「帳票定義専用ユーザ」があり、ロールを編集することはできません。
- ・ユーザ設定：システムのユーザカウントを登録できます。

全体構成

組織：システムを使用する組織です。

部署：組織内に属する各部署です。

ユーザ：部署内に属する各ユーザです。



4.2 組織設定

組織設定は本システムを使用する会社ごとに動作設定を行うことができます。

※ 組織設定はシステム管理者のみが行うようにしてください。

1. **+OCR** にログインし、右上の「ユーザ名」ボタンをクリックし、「設定」ボタンを選択します。



2. 左パネルから「組織と権限の設定」を選択



3. 「組織と権限の設定」画面が表示されますので、「組織設定」タブをクリックします。



4. 「組織と権限の設定(組織設定)」画面が表示されます。ここで組織設定を行います。

入力後「保存」ボタンをクリックすると設定が保存されます。項目の詳細は下記をご確認ください。



組織設定画

組織名
①

パスワード有効日数
0 ② ※無期限の場合は0を入力

パスワード変更メッセージ日数
0 ③ ※無期限の場合は0を入力

パスワードの最低文字数
0 ④

パスワードの必須文字 ⑤
 英字 英字(大文字小文字混在)
 数字 記号

パスワードの再使用制限
0 ⑥

アカウントロック
10 ⑦ ※設定回数ログイン失敗するとロック

保存

【組織設定】

No	項目	内容
⑧	組織名	本システムを利用する組織の名称を設定します。 この設定値は、ログインしたあとに画面の右上に表示されます。
⑨	パスワード有効日数	ユーザが設定するパスワードの有効期限を設定します。 0に設定すると、有効期限は無期限になります。 運用中に設定値を変更しても、それまでに設定されたユーザごとの有効期限は 変わりません。次にパスワードの変更が行われた時点から新しい設定値が反映さ れます。 パスワードは、有効日数経過後の、パスワード設定を行った同じ時刻に失効しま す。 (有効日数が30日に設定され、1月1日13時30分にパスワード設定した場 合、有効期限は1月31日13時30分となります) 有効日数の上限は999日です。
⑩	パスワード変更メッセー ジ日数	ユーザにパスワード有効期限が近づいていることを何日前から通知するかを設定 します。 有効期限までの日数がこの値より小さくなると、ユーザがログインしたときにお知ら せ欄にメッセージが表示されます。 ※ 0に設定すると、有効期限が近づいてもユーザに通知はされません。 ※ パスワード有効日数より大きな値に設定することはできません。 パスワード有効期限まで1日を切った場合は、「残り0日でパスワード有効期限が 切れます。」と表示されます。
⑪	パスワードの最低文字 数	パスワードを設定するときの最低文字数を設定します。0に設定すると、最低文字 数のチェックは行いません。
⑫	パスワードの必須文字	パスワードに含めなければならない文字種を設定します。 「英字」「英字(大文字小文字混在)」「数字」「記号」から選択します。 ※ 全てのチェックを外すと、文字種のチェックは行いません。 「英字(大文字小文字混在)」にチェックした場合、「英字」は作用しません。
⑬	パスワードの再使用制 限	パスワードを設定する際、過去に使用したものと同じ値を設定できない回数を設定 します。0に設定すると、再利用のチェックは行いません。
⑭	アカウントロック	指定回数ログインに失敗すると、アカウントロックが掛かります。

4.3 部署設定

部署を設定することで以下の制御を行うことができます。

- ・ユーザに部署を設定できます。
- ・フォルダに部署を紐付けることにより、他の部署に所属するユーザからは部署のページの参照ができなくなります。

1. **+OCR** にログインし、右上の「ユーザ名」ボタンをクリックし、「設定」ボタンを選択します。

DX Suite デモ DXSuite デモ初期ユーザー_002 ▾



2. 左パネルから「組織と権限の設定」を選択します。



3. 「組織と権限の設定」画面が表示されますので、「部署一覧」タブをクリックします。



4. 「組織と権限の設定(部署一覧)」画面が表示されます。

- 部署を新規に登録する場合
「新規登録」ボタンをクリックします。
- 部署を編集する場合
「部署名」のリンクをクリックします。

新規登録の場合は、「部署を登録」画面が表示されるので、部署名を指定します。

- ※ ユーザやフォルダが設定されている部署は削除しないでください。ユーザのログインができなくなる他、フォルダも削除されます。
- ※ ユーザ自身が所属している部署は削除ができません。



4.4 権限ロールについて

＋OCR では、「管理者権限」、「帳票定義専用ユーザー」の権限ロールが利用できます。権限ロールは、ユーザが利用できる機能を定義したものです。

- 管理者権限
「ロール設定」以外の機能を全て利用できるロールです。利用開始時の初期ユーザが「管理者権限」に設定されています。
- 帳票定義専用ユーザー
帳票定義や読み取りが利用できるロールです。「組織設定」や「部署設定」などのマスタ権限の設定は利用できません。

➤ 各権限ロールで利用できる機能

No	内容	管理者権限	帳票定義専用ユーザー
①	フォルダ権限	「フォルダ」の設定の可否。	○
②	ドキュメント権限	「ドキュメント」の設定可否。帳票設定画面にて、テーブルや画像補正などの全設定が利用できます。ドキュメント単位での AI 学習機能の ON/OFF を選択できます。	○
③	読み取りユニット権限	「読み取りユニット」の設定可否、および CSV のダウンロード可否。	○
④	エントリー権限	エントリー作業実行可否。	○
⑤	ペリファイ権限	ペリファイ作業実行可否。	○
⑥	マスタ権限	「組織設定」画面利用可否。	○
		「部署一覧」画面利用可否。	○
		「ロール一覧」画面利用可否。	×
		「ユーザー一覧」画面利用可否。	○
		「ユーザ辞書」画面利用可否。	○
⑦	API 設定権限	「API キー設定」画面利用可否。	○
		「API キー設定」画面で API キーの発行可否。	○
⑧	サービス管理権限	「アクセスログ照会」画面利用可否。	○
⑨	Elastic Sorter 利用権限	「Elastic Sorter」画面を利用可否。 ※この機能は別途申し込みが必要です。	○
⑩	リクエスト数照会	「リクエスト数照会」画面を利用できるか設定します。	○

4.5 ユーザの管理

4.5.1 ユーザの登録、更新

アカウント開通時の初期ユーザーのデフォルトユーザー名は、「組織名」+”初期ユーザー”となっています。ユーザー名は変更可能です。追加のユーザーは次の手順で実施します。

1. **+OCR** にログインし、右上の「ユーザー名」ボタンをクリックし、「設定」ボタンを選択します。



2. 左パネルから「組織と権限の設定」を選択します。



3. 「組織と権限の設定」画面が表示されますので、「ユーザー一覧」タブをクリックし、「新規登録」ボタンをクリックします。



4. 「ユーザーを登録」画面が表示されます。
入力後、「登録」ボタンをクリックすると設定は保存されます。

各項目の説明は、「[ユーザー設定で設定できる項目](#)」を参照してください。

5. ユーザー一覧より登録したユーザ名をクリックし、ユーザの設定内容を更新することができます。

組織設定		部署一覧		ユーザー一覧		ロール一覧	
No	ユーザ名	ログインID	メールアドレス	部署名	権限ロール	新規登録	
1	マニュアル用	manual003		マニュアル用1	全画面アクセス可能		

4.5.2 ロックされたアカウントの解除

ユーザがログインを連続して指定回数ログインを誤った場合、ユーザアカウントがロック(利用不可)に設定されます。

ただし、組織設定によって、指定回数ログインは変更出来ます。(初期設定は10回)

アカウントロックを解除する方法は以下2通りあります。

- 権限ロール「管理者権限」を持ち、かつ、管理レベルが「組織管理者」またはロックされたアカウントと同一部署の「部署管理者」が、ユーザ管理画面にてアカウントロックを解除する。
- アカウントロックされたユーザが、ログイン画面にてパスワードの初期化を行う。

初期ユーザ以外に「管理者権限」を持ち、かつ、管理レベルが「組織管理者」のユーザを予め作成しておくことを推奨します。

初期ユーザがロックされパスワード再設定用のメールが受信できない場合など、アカウントロックを解除する手立てがない場合は、[+OCR](#) オートレーションサポートセンタまで連絡してください。

パスワードの初期化については、「4.5.4 パスワードの初期化」を参照してください。

1. [+OCR](#) にログインし、右上の「ユーザ名」ボタンをクリックし、「設定」を選択します。



2. 左パネルから「組織と権限の設定」を選択します。

アカウント

組織と権限の設定

ユーザ辞書設定

アクセスログ照会

APIキー設定

アカウント

アカウント情報

氏名: マニュアル用

メールアドレス:

ログインID: test1

保存

3. 「組織と権限の設定」画面が表示されますので、「ユーザー一覧」タブをクリックし、アカウントロック解除対象の「ユーザ名」のリンクをクリックします。

組織設定		部署一覧		ユーザー一覧		ロール一覧	
No	ユーザ名	ログインID	メールアドレス	部署名	権限ロール	新規登録	
1	マニュアル用	manual003		マニュアル用1	全画面アクセス可能		

4. 「ユーザを編集」画面が表示されます。
新しいパスワードを設定し、利用可否を「利用可能」に変更して、「更新」ボタンをクリックしてください。

※ パスワードを再設定するだけでは、ロックは解除されません。利用可否を「利用可能」に変更し、ロック解除を行ってください。

権限ロール 全画面アクセス可能

管理レベル
組織管理者

メールアドレス
メールアドレス

ログインID
CS

パスワード
パスワード

パスワード確認
パスワード確認

パスワード有効無効
 本パスワード 仮パスワード

二段階認証
 使用する 使用しない

利用可否
 利用可能 利用不可

ログイン後表示画面
お知らせ

最終ログイン日時
最終ログイン日時

削除 **更新**

4.5.3 ユーザ設定で設定できる項目

ユーザを登録

① ユーザ名
ユーザ名

② 部署名
カスタマーサクセス

③ 権限ロール
一般ユーザー

④ 管理レベル
一般ユーザー

⑤ メールアドレス
メールアドレス

⑥ ログインID
ログインID

⑦ パスワード
パスワード

⑧ パスワード確認
パスワード

⑨ パスワード有効無効
● 本パスワード ○ 仮パスワード

⑩ 二段階認証
○ 使用する ● 使用しない

⑪ 利用可否
● 利用可能 ○ 利用不可

ログイン後表示画面
お知らせ

最終ログイン日時

登録

ユーザ登録画面

【ユーザ登録で設定できる項目】

No	項目	内容																															
①	ユーザ名	ユーザの名称を設定します。																															
②	部署名	ユーザの所属部署を設定します。																															
③	権限ロール	ユーザの権限ロールを設定します。 「管理者権限」、「帳票定義ユーザ」から選択します。																															
④	管理レベル	ユーザの管理レベルを設定します。 管理レベルとは、ユーザ管理画面において、他のユーザ情報を参照できる範囲を制限するものです。 組織管理者: アカウント内の全てのユーザを参照できます。 部署管理者: ログイン者が所属する部署のユーザを参照できます。 一般ユーザ: 部署管理者と同様です。																															
権限ロールと管理レベルの組み合わせにより、実行できる機能は以下の通りです。																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>権限ロール</th> <th>管理レベル</th> <th>ユーザー覧参照</th> <th>ユーザー作成</th> <th>ユーザー更新/削除</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">管理者権限</td> <td>組織管理者</td> <td>全ユーザを参照可</td> <td>全ての部署のユーザを作成可</td> <td>全ての部署のユーザを更新/削除可</td> </tr> <tr> <td>部署管理者</td> <td>同一部署のユーザを参照可</td> <td>同一部署のユーザを作成可</td> <td>同一部署のユーザを更新/削除可</td> </tr> <tr> <td>一般ユーザ</td> <td>同一部署のユーザを参照可</td> <td>同一部署のユーザを作成可</td> <td>同一部署のユーザを更新/削除可</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">帳票定義ユーザ</td> <td>組織管理者</td> <td>全ユーザを参照可</td> <td>作成不可</td> <td>更新/削除不可</td> </tr> <tr> <td>部署管理者</td> <td>同一部署のユーザを参照可</td> <td>作成不可</td> <td>更新/削除不可</td> </tr> <tr> <td>一般ユーザ</td> <td>同一部署のユーザを参照可</td> <td>作成不可</td> <td>更新/削除不可</td> </tr> </tbody> </table>			権限ロール	管理レベル	ユーザー覧参照	ユーザー作成	ユーザー更新/削除	管理者権限	組織管理者	全ユーザを参照可	全ての部署のユーザを作成可	全ての部署のユーザを更新/削除可	部署管理者	同一部署のユーザを参照可	同一部署のユーザを作成可	同一部署のユーザを更新/削除可	一般ユーザ	同一部署のユーザを参照可	同一部署のユーザを作成可	同一部署のユーザを更新/削除可	帳票定義ユーザ	組織管理者	全ユーザを参照可	作成不可	更新/削除不可	部署管理者	同一部署のユーザを参照可	作成不可	更新/削除不可	一般ユーザ	同一部署のユーザを参照可	作成不可	更新/削除不可
権限ロール	管理レベル	ユーザー覧参照	ユーザー作成	ユーザー更新/削除																													
管理者権限	組織管理者	全ユーザを参照可	全ての部署のユーザを作成可	全ての部署のユーザを更新/削除可																													
	部署管理者	同一部署のユーザを参照可	同一部署のユーザを作成可	同一部署のユーザを更新/削除可																													
	一般ユーザ	同一部署のユーザを参照可	同一部署のユーザを作成可	同一部署のユーザを更新/削除可																													
帳票定義ユーザ	組織管理者	全ユーザを参照可	作成不可	更新/削除不可																													
	部署管理者	同一部署のユーザを参照可	作成不可	更新/削除不可																													
	一般ユーザ	同一部署のユーザを参照可	作成不可	更新/削除不可																													
ログイン者が自身の管理レベルを変更することはできません。 また、ログイン者の管理レベルより強い値(強い値順に組織管理者、部門管理者、一般ユーザ)を他のユーザに付与することはできません。																																	

⑤	メールアドレス	ユーザのメールアドレスを設定します。
⑥	ログイン ID	ユーザのログイン ID を設定します
⑦	パスワード	パスワードを設定します。
⑧	パスワード確認	再度設定したパスワードを入力します。
⑨	パスワード有効無効	設定されているパスワードが本パスワードか仮パスワードか選択します。 ・本パスワード:このパスワードでログインできます。 ・仮パスワード:このパスワードはログイン後に変更する必要があります。
⑩	二段階認証	二段階認証を使用の有無をユーザー毎に設定することができます。 初期値は「使用しない」に設定しています。
⑪	利用可否	ユーザカウントの有効無効を設定します。 ・利用可能:このアカウントでログインができます。 ・利用不可:このアカウントはログインできません。

※ 現在ログインしているユーザが自分自身のアカウントを利用不可にしたり、削除したりすることはできません。

ログイン ID とパスワードの要件について

ログイン ID に使える文字は、英字(A～Z, a～z) 数字(0～9) 記号(アットマーク[@]・アンダーバー[_]・ハイフン[-]・ドット[.]) です。

<共通>

- ・パスワードの設定要件
- ・パスワードは 8 文字以上で、半角英字(大文字)、半角英字(小文字)、数字を混在させ、設定する必要があります。桁数の上限はありません。
- ・パスワードは過去に使用されたものを設定することもできます(再使用制限はありません)
- ・ユーザが指定回数ログインで誤ったパスワードを入力すると、そのアカウントはロックされます。
- ・パスワードは登録後、設定した日数を経過すると無効にすることができます(組織設定を参照)
- ・無効になった場合はユーザ管理ができる他のユーザにより、パスワードを再設定する必要があります。
- ・有効期限まで設定した日数を切るとメッセージを表示することも可能です。

4.5.4 パスワードの初期化

ログイン画面

1. ログイン画面で、ログインボタンの下にある「パスワードをお忘れの場合」をクリックします。

ログインID

ログインID

パスワード

パスワード

ログイン

① パスワードをお忘れの場合

2. 初期化する「ログイン ID」と、登録された「メールアドレス」をそれぞれ入力します。いずれも入力しましたら、「メール送信」ボタンをクリックします。

※ログイン ID とメールアドレスが正しい場合は矢印下のように、「メールを送信しました。」と表示されます。

パスワードを初期化します。
初期化するログインIDを入力してください。
登録されたメールアドレスにメールを送信します。

ログインID

ログインID

メールアドレス

メールアドレス

メール送信

ログイン画面へ

メールを送信しました。

ログイン

3. 登録したメールアドレスに、パスワードの初期化メールが届きます。

※文面内にある URL を 30 分以内にアクセスしてください。
次の画面で新しいパスワードを再設定できます。
(URL の下に表記された時間が URL 有効期限です。)

4. パスワードを初期化する画面にて、ログイン ID の「メールアドレス」を入力し、新しく再設定する「新しいパスワード」を入力します。新しく再設定するパスワードを「新しいパスワード(確認)」にも入力します。

※それぞれの空欄を入力後、「変更」のボタンをクリックすると、ログイン ID と再設定したパスワードが正しい場合は、下矢印の画面のように「パスワードのリセットが完了しました」と表示されます。

パスワードを初期化します。

ログインID

新パスワード

新パスワード(確認)

変更



パスワードのリセットが完了しました。

ログイン

補足

A 帳票詳細設定

【帳票詳細設定】



No	項目	内容	備考
①	画像補正設定	切り取った読み取り範囲のパースに対して、特定の画像補正を行う際には、ここで設定を行います。 画像補正設定を反映させるには、読み取り範囲個別の設定で「読み取り範囲画像補正実行」にチェックをすると、設定の一括変更で「読み取り範囲画像補正実行」を有効にする必要があります。通常はデフォルトで設定値が入っており、調節をする必要はありません。	画像補正設定についての詳細はオートメーションサポートセンターへご連絡ください。
②	CSV 設定	CSV 出力時のファイル名、出力列上限の変更、列破棄、出力文字コードを変更することができます。	CSV 列出力上限数は帳票定義の保存後に変更が反映されます。
③	AI 学習機能の設定	該当ドキュメントで読み取るユニットのデータに対して、AI による学習を許可するかを選択できます。	・学習設定が ON になっている 且つ、 ・組織管理者権限 or 「ドキュメント権限の全機能」保持ユーザの場合にのみ左記ボタンが表示されます。
④	座標確認	指定した画像ファイルの読み込みを行い、テーブルと読み取り範囲の取得箇所の確認が行えます。	読み込む帳票にて、テーブル及び読み取り範囲にずれがないかを確認することができます。
⑤	画像差替え	原本となる帳票を別の画像に置き換えることができます。	読み取り範囲は再度指定し直す必要があります。

【読み取り範囲の詳細設定の機能】

読み取り範囲の詳細設定で、「グループ」の機能が使えるようになります。



The screenshot shows the 'Read Range' configuration interface. On the left, there's a sidebar with 'Read Range #1' and a gear icon. The main area has tabs for 'Read Range' and 'Account Information'. A red box highlights the 'Group' tab in the top navigation bar. Below the tabs, there are sections for 'CSV Header Name' (input field), 'CSV Output Column' (dropdown 'A'), 'Read Condition Settings' (dropdown 'Katakana'), and a 'Read Test' button. On the right, a large box is titled 'Read Range Detailed Settings' with tabs for 'Group' (highlighted with a red box), 'Dictionary Settings', 'Entry Settings', and 'Others'. Inside this box, there are input fields for 'Width' (1) and 'Height' (1).

グループ機能利用方法

グループは、右図のような複数の同じデータが集まっているような場合に利用します。表など、複数行もしくは複数列に入力されているものをまとめて読み込みたい時に使えます。

グループを設定すると、分割した読み取り範囲毎に読み取エンジンの設定が可能となります。

グループにしたい場所をまとめて読み取り範囲として指定します。

商品コード	商品名	数量	単価	金額

例:列毎に読み取り範囲を指定し、グループの設定をします。

読み取り範囲の詳細設定を開き、「グループ」タブ内で
縦もしくは横方向にデータとして分割する個数を設定します。

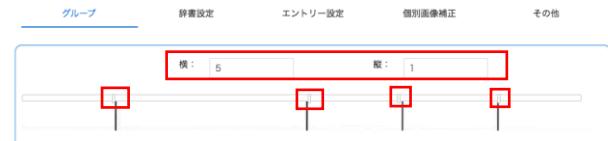
横	読み取り範囲を横に分割する個数を入力します
縦	読み取り範囲を縦に分割する個数を入力します

※ 縦方向は均等分割されます。



The screenshot shows the 'Group' tab settings. It has input fields for 'Width' (1) and 'Height' (6), both of which are highlighted with red boxes. Below these fields, there are six horizontal lines representing the divided read ranges.

- ※ 横方向は分割する個数を設定すると、分割位置を指定するポイント  が表示されます。ポイントはマウスで動かして、調整することができます。



グループの設定をすると、読み取り範囲に「コピー」ボタンが表示されます。グループによって分割した読み取り範囲すべてに同じエンジンを適用する場合に使用します。



B データ加工設定一覧

B.1 データ加工設定の概要

データ加工設定では、読み取り結果値に対して、特定の処理を実行して結果値を変換することができます。読み取り結果は、帳票定義の出力列により表計算ソフトのように A, B, C, ... と横列に並んでいるように構成されています。データ加工設定では入力列を指定して読み取りを行い、変換した結果を出力列に書き込みます。

データ加工処理は設定された順番に実行されます。(順序を入れ替えることもできます)

フラグの使用方法

ある特定条件下でのみデータ加工設定を行いたい場合、「パラメータ(runif)」と「フラグ」を使用します。「フラグ」は「正(true)」または「誤(false)」のどちらかの値を持ち、「パラメータ(runif)」に「フラグ」を指定することで、フラグの値が「正(true)」の場合のみ該当の処理が行われます。「フラグ」はドキュメント設定内で明示的に作成する必要があります。フラグの作成および値のセットはデータ加工設定内の「フラグセット」項目で行います。例えば、E 列に「樹」という漢字を含んだ文字列が入力された場合のみ、F 列に「大樹」と出力したい場合、以下のように設定します。



1

含む値判定フラグセット

入力列(+) 出力列(-) 出力列(+) 出力列(-) [▲ ▼]

入力列 (min:1,max:100) E(5)

出力列 (min:0,max:0)

パラメータ (値) 樹

パラメータ (フラグ名) BigTree

パラメータ (runif)

2

セル値セット

入力列(+) 出力列(-) 出力列(+) 出力列(-) [▲ ▼]

入力列 (min:0,max:0)

出力列 (min:1,max:100) F(6)

パラメータ (値) 大樹

パラメータ (ランク)

パラメータ (runif) BigTree

具体的な設定方法は、まず加工処理「含む値判定フラグセット」を作成し、「パラメータ(フラグ名)」に、「BigTree」という名前(任意)のフラグを作成します。また、フラグをセットする条件として E 列に「樹」という漢字を含んだ文字列が存在する場合は「正(True)」、それ以外の場合は「誤(False)」とするため、「入力列」に「E(5)」、「パラメータ(値)」に「樹」を入力します。この「BigTree」フラグを「セル値セット」内の「パラメータ(runif)」に入力する事で、「BigTree」の正誤判定により「セル値セット」処理が行われるかどうかが決定されます。

上記の設定を行うことで、以下のような CSV ファイルがダウンロードできます。

E	F
氏名	
佐藤由芳	
関谷美樹	大樹

B.2 加工処理の一覧

- トリム
- 生年月日
- マージ
- 文字列変換
- 西暦変換
- 文字列切り出し
- 読取範囲グループ行分割
- いざれか入力フラグ
- 2つ以上チェックフラグ
- 複数末尾判定フラグセット
- セル値置換
- 1セル入力
- セル値セット
- 含む値判定フラグセット
- 改行文字削除
- ゼロ埋め半角スペース埋め処理
- ファイル名取得処理
- 文字切り出し処理
- 年齢
- 日付チェック
- 前行コピー
- フラグクリア
- チェックボックス変換
- 文字列フォーマット
- 文字列切出し(末尾)
- ユーザ辞書一致処理
- ファイル名の日付追加
- 指定文字による分割
- 全角半角変換

B.3 主なデータ加工処理の設定方法

加工処理名	トリム
動作	入力値をトリミング(前後のスペースを切り落とす)する。
入力列	1 つのみ
出力列	1 つのみ
パラメータ (実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。
サンプル	入力されているものの前後にスペースがあった場合、スペースなしで出力します。 「東京都」と入力されている場合、「東京都」と出力します。

加工処理名	生年月日
動作	入力値から西暦を出力する。
入力列	1 つのみ
出力列	1 つのみ
パラメータ (変換前フォ ーマット)	帳票に記載される形式を指定します。 年号(GGGG) 和暦年(y) 月(M の場合は 1 桁、MM の場合はゼロ埋め2桁) 日(d の場合は 1 桁、dd の場合はゼロ埋め2桁) 曜日(EEE の場合は英語曜日略表記 3 桁、EEEE の場合は英語曜日を正式表記) 例: GGGGy 年 M 月 d 日
パラメータ (変換後フォ ーマット)	出力したい形式を指定し、西暦にします。 西暦年(yyyy は西暦4桁、yy は西暦下2桁) 月(M の場合は 1 桁、MM の場合はゼロ埋め2桁) 日(d の場合は 1 桁、dd の場合はゼロ埋め2桁) 曜日(EEE の場合は英語曜日略表記 3 桁、EEEE の場合は英語曜日を正式表記) 例: yyyy/MM/dd
パラメータ (実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。

サンプル	<p>年号込みの日付が入力されている場合、西暦で出力します。 例:「昭和 55 年 11 月 3 日」と入力されている場合、「1980-11-03」と出力します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>生年月日 <input type="text" value="昭和 55 年 11 月 3 日"/></p> <p><input style="margin-right: 10px;" type="button" value="入力列(+)"/> <input type="button" value="入力列(-)"/> <input style="margin-right: 10px;" type="button" value="出力列(+)"/> <input type="button" value="出力列(-)"/></p> <p>入力列 個数 (最小:1,最大:1) <input type="text" value="B(2)"/></p> <p>出力列 個数 (最小:1,最大:1) <input type="text" value="C(3)"/></p> <p>パラメータ1 (変換前フォーマット) <input type="text" value="GGGGy年M月d日"/></p> <p>パラメータ2 (変換後フォーマット) <input type="text" value="yyyy-MM-dd"/></p> <p>パラメータ3 (実行フラグ) <input type="text"/></p> <p>加工説明 入力値から西暦を出力します。 変換前フォーマット="GGGGy年M月d日" 変換後フォーマット="yyyy-MM-dd" "大正06年02月01日" → "1917-02-01"</p> </div>
------	---

加工処理名	マージ
動作	入力値と入力値を複合出力する。
入力列	複数
出力列	1 つのみ
パラメータ (実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。
サンプル	<p>指定した入力列の値を結合する。 例:B 列のセルに「3月」、C 列のセルに「1日」と入力されている場合、D 列のセルに「3月 1 日」と出力する。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>マージ</p> <p><input style="margin-right: 10px;" type="button" value="入力列(+)"/> <input type="button" value="入力列(-)"/> <input style="margin-right: 10px;" type="button" value="出力列(+)"/> <input type="button" value="出力列(-)"/></p> <p>入力列 個数 (最小:1,最大:100) <input type="text" value="B(2)"/> <input type="text" value="C(3)"/> <input type="text"/></p> <p>出力列 個数 (最小:1,最大:1) <input type="text" value="D(4)"/></p> <p>パラメータ (実行フラグ) <input type="text"/></p> <p>加工説明 入力値と入力値を複合出力します。 "abc", "xyz" → "abxyz"</p> </div>

加工処理名	文字列変換
動作	入力値の変換対象文字列を、変換後文字列に変換する。
入力列	1 つのみ
出力列	1 つのみ
パラメータ (変換対象 文字列)	変換対象の文字列を入力します。 下記の記号をパラメータに使用する場合は、記号の前に¥(円マーク)をつけていただく必要があります。 (例えは * であれば ¥*) mac をお使いの場合はバックスラッシュ(Option+¥で入力可)をご使用ください。
パラメータ (変換後 文字列)	変換後の文字列を入力します。
パラメータ (実行フラ グ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。

サンプル	<p>B列のセル内の「あ」を「ア」に変換して、C列に出力します。 例:「あメリカ」と入力されているものは、「アメリカ」と出力します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>文字列変換</p> <p>入力列(+) 出力列(-) 出力列(+) 出力列(-) ▲</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">入力列</td><td>個数 (最小:1,最大:1) <input type="text" value="B(2)"/></td></tr> <tr> <td>出力列</td><td>個数 (最小:1,最大:1) <input type="text" value="C(3)"/></td></tr> <tr> <td>パラメータ1</td><td>(変換対象文字列) <input type="text" value="あ"/></td></tr> <tr> <td>パラメータ2</td><td>(変換後文字列) <input type="text" value="ア"/></td></tr> <tr> <td>パラメータ3</td><td>(実行フラグ) <input type="text"/></td></tr> </table> <p>加工説明 入力値の変換対象文字列を、変換後文字列に変換します。文字列の中には任意の文字を記述することができますが、特殊な用途で使用される文字にはエスケープ処理が必要となります。(例 ? → ¥?) 変換対象文字列 = "@" 変換後文字列 = "_" "012@345@678" → "012-345-678"</p> </div>	入力列	個数 (最小:1,最大:1) <input type="text" value="B(2)"/>	出力列	個数 (最小:1,最大:1) <input type="text" value="C(3)"/>	パラメータ1	(変換対象文字列) <input type="text" value="あ"/>	パラメータ2	(変換後文字列) <input type="text" value="ア"/>	パラメータ3	(実行フラグ) <input type="text"/>
入力列	個数 (最小:1,最大:1) <input type="text" value="B(2)"/>										
出力列	個数 (最小:1,最大:1) <input type="text" value="C(3)"/>										
パラメータ1	(変換対象文字列) <input type="text" value="あ"/>										
パラメータ2	(変換後文字列) <input type="text" value="ア"/>										
パラメータ3	(実行フラグ) <input type="text"/>										

加工処理名	西暦変換										
動作	西暦のフォーマットを変換して出力します。										
入力列	1つのみ										
出力列	1つのみ										
パラメータ (変換前フォーマット)	<p>帳票に記載される形式を指定します。</p> <p>年(yyyy は西暦4桁、yy は西暦下2桁)</p> <p>月(M の場合は1桁、MM の場合はゼロ埋め2桁)</p> <p>日(d の場合は1桁、dd の場合はゼロ埋め2桁)</p> <p>曜日(EEE の場合は英語曜日略表記3桁、EEEE の場合は英語曜日を正式表記)</p>										
パラメータ (変換後フォーマット)	<p>出力したい形式を指定します。</p> <p>年(yyyy は西暦4桁、yy は西暦下2桁)</p> <p>月(M の場合は1桁、MM の場合はゼロ埋め2桁)</p> <p>日(d の場合は1桁、dd の場合はゼロ埋め2桁)</p> <p>曜日(EEE の場合は英語曜日略表記3桁、EEEE の場合は英語曜日を正式表記)</p> <p>※月、日にありえない日付が記述されていた場合は、換算して出力します。</p> <p>(例えれば 2019年13月1日 → 2020年1月1日、2019年1月32日 → 2019年2月1日などのように換算します)</p> <p>※yyyy を指定時、年に5桁以上記述されていた場合は、yyyy には年の値をそのまま出力します。 (例えれば yyyy/MM/dd で出力する場合、12019年1月1日は、12019/01/01 で出力します)</p>										
パラメータ (実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。										
サンプル	<p>西暦の日付を別の形式に変換して出力します。</p> <p>例:「1980-11-03」と入力されている場合、「1980.11.03」と出力します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>西暦変換</p> <p>入力列(+) 出力列(-) 出力列(+) 出力列(-) ▲</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">入力列</td> <td>個数 (最小:1,最大:1) <input type="text" value="A(1)"/></td> </tr> <tr> <td>出力列</td> <td>個数 (最小:1,最大:1) <input type="text" value="B(2)"/></td> </tr> <tr> <td>パラメータ1</td> <td>(変換前フォーマット) <input type="text" value="yyyy-MM-dd"/></td> </tr> <tr> <td>パラメータ2</td> <td>(変換後フォーマット) <input type="text" value="yyyy.MM.dd"/></td> </tr> <tr> <td>パラメータ3</td> <td>(実行フラグ) <input type="text"/></td> </tr> </table> <p>加工説明 西暦のフォーマットを変換して出力します。 変換前フォーマット="yyyy/MM/dd" 変換後フォーマット="yyyy-MM-dd" "2017/09/07" → "2017-09-07"</p> </div>	入力列	個数 (最小:1,最大:1) <input type="text" value="A(1)"/>	出力列	個数 (最小:1,最大:1) <input type="text" value="B(2)"/>	パラメータ1	(変換前フォーマット) <input type="text" value="yyyy-MM-dd"/>	パラメータ2	(変換後フォーマット) <input type="text" value="yyyy.MM.dd"/>	パラメータ3	(実行フラグ) <input type="text"/>
入力列	個数 (最小:1,最大:1) <input type="text" value="A(1)"/>										
出力列	個数 (最小:1,最大:1) <input type="text" value="B(2)"/>										
パラメータ1	(変換前フォーマット) <input type="text" value="yyyy-MM-dd"/>										
パラメータ2	(変換後フォーマット) <input type="text" value="yyyy.MM.dd"/>										
パラメータ3	(実行フラグ) <input type="text"/>										

加工処理名	文字列切出し
-------	--------

動作	入力値の文字数を切り出す。
入力列	1 つのみ
出力列	1 つのみ
パラメータ (切り出す文 字数)	切り出したい文字数を入力します。
パラメータ (実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。
サンプル	<p>指定した文字数を取り出します。 例: B 列に「あいうえお」と入力されている場合、頭から4文字切り出し、C 列に「あいうえ」と出力します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>文字列切り出し</p> <p>入力列(+)</p> <p>入力列(-)</p> <p>出力列(+)</p> <p>出力列(-)</p> <p>入力列 個数 (最小:1, 最大:1) B(2)</p> <p>出力列 個数 (最小:1, 最大:1) C(3)</p> <p>パラメータ1 (切出す文字数) 4</p> <p>パラメータ2 (実行フラグ)</p> <p>加工説明 入力値の文字列を切り出します。 (= input.substring(0, len)) 切出す文字数 =5 "abcdefg" → "abcde"</p> </div>

加工処理名	読み取り範囲グループ行分割
動作	入力値を 記号で分割し、複数の出力値を生成する。 この処理は、グループを使って読み取った項目を行分割する。グループでは個別に読み取った値を 記号で結合する。
入力列	1 つのみ
出力列	1 つのみ(ただし、このセル列が縦に書き込まれる)
パラメータ (実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。
サンプル	<p>グループの設定をしているセルでは「a b c」のように で区切られて入力されますが、グループ行分割の設定を行うことで、それぞれがセル内に複数行で出力されます。</p> <p style="text-align: center;">赤 青</p> <p>例: B 列に「赤 青 黄色」と入力される場合、C 列に「 黄色 」と出力されます。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>読み取り範囲グループ行分割</p> <p>入力列(+)</p> <p>入力列(-)</p> <p>出力列(+)</p> <p>出力列(-)</p> <p>入力列 個数 (最小:1, 最大:1) B(2)</p> <p>出力列 個数 (最小:1, 最大:1) C(3)</p> <p>パラメータ (実行フラグ)</p> <p>加工説明 入力値を 記号で分割し、複数の出力値を生成する。 この処理は、読み取り範囲グループを使って読み取った項目を行分割します。読み取り範囲グループでは個別に読み取った値を 記号で結合しています。 "albc" → "a" "b" "c" (結果は3行のCSVとなります)</p> </div>

加工処理名	いずれか入力フラグ
動作	入力列に指定したセルのいずれかに入力があるとき、パラメータ"フラグ名"で指定されるフラグに True をセットします。 いずれにも値がない場合には False をセットします。
入力列	複数
パラメータ 1(フラグ名)	フラグ名を入力します。
パラメータ 2(実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。
サンプル	<p>入力列 A、B、C のいずれかに値がある(ブランクでない)場合、「値あり」フラグに True を設定します。 入力列 A、B、C の全てに値がない(ブランクである)場合、「値あり」フラグに False を設定します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>いずれか入力フラグ</p> <p>入力列(+)</p> <p>出力列(-)</p> <p>出力列(+)</p> <p>出力列(-)</p> <p>個数 (最小:0,最大:100) A(1) B(2) C(3) <input type="text"/></p> <p>個数 (最小:0,最大:0)</p> <p>パラメータ1 (フラグ名) <input type="text" value="値あり"/></p> <p>パラメータ2 (実行フラグ) <input type="text"/></p> <p>加工説明 該当セルのいずれかに入力があるとき、パラメータ"フラグ名"で指定されるattributeにtrueをセットします。 "","abc" → フラグ名="true"</p> </div>

加工処理名	2つ以上チェックフラグ
動作	入力列に指定したチェックボックス(またはマークシート・押印)のいずれか2つ以上にチェックがある場合、パラメータ"フラグ名"で指定されるフラグに True をセットします。全てにチェックがない場合、もしくはチェックが1つの場合には False をセットします。
入力列	複数
パラメータ 1(フラグ名)	フラグ名を入力します。
パラメータ 2(実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。
サンプル	<p>入力列 A、B、C、D のいずれか2つ以上にチェックがある場合、「チェック有り」フラグに True を設定します。 入力列 A、B、C、D の全てにチェックがない場合、もしくはチェックが1つの場合、「チェック有り」フラグに False を設定します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>2つ以上チェックフラグ</p> <p>入力列(+)</p> <p>入力列(-)</p> <p>出力列(+)</p> <p>出力列(-)</p> <p>個数 (最小:0,最大:100) A(1) B(2) C(3) D(4) <input type="text"/></p> <p>個数 (最小:0,最大:0)</p> <p>パラメータ1 (フラグ名) <input type="text" value="チェック有り"/></p> <p>パラメータ2 (実行フラグ) <input type="text"/></p> <p>加工説明 該当セルの2つ以上にチェックボックス読取でチェックがあるとき、パラメータ"フラグ名"で指定されるattributeにtrueをセットします。 "1","0","1" → フラグ名 = "true"</p> </div>

加工処理名	複数末尾判定フラグセット
-------	--------------

動作	入力値の末尾がパラメータで設定した値で終わる時、特定の文字列で置換する。
入力列	1つのみ
出力列	なし
パラメータ (フラグ名)	フラグとして使用する場合は、その名前を入力します。
パラメータ (判定末尾 値)	判定する末尾の値を入力します。
パラメータ (フラグセット 値)	置換する文字列を入力します。
パラメータ (実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。
サンプル	<p>B列の値が「年、月、日」のいずれかで終わるとき、それぞれ「Y、M、D」で置換します。 例:「12月」と入力されている場合、「M」に置換します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>複数末尾判定フラグセット</p> <p>入力列 (+) 出力列 (-) 出力列 (+) 出力列 (-) ▲</p> <p>入力列 個数 (最小:1,最大:1) B(2)</p> <p>出力列 個数 (最小:0,最大:0)</p> <p>パラメータ1 (フラグ名) フラグ</p> <p>パラメータ2 (判定末尾値) 年 月 日</p> <p>パラメータ3 (フラグセット値) Y M D</p> <p>パラメータ4 (実行フラグ)</p> <p>加工説明</p> <p>入力値がパラメータ"判定末尾値"の値で終わるとき、 パラメータ"フラグ名"のattributeに"フラグセット値"を セッします。 ※判定末尾値とフラグセット値は で複数を区切ることができます。 判定末尾値 = "a b c" フラグセット値 = "0 1 2" "123b" → フラグ名="1"</p> </div>

加工処理名	セル値置換
動作	入力列の値が判定値と完全一致した場合、出力列に置換値を出力します。
入力列	1つ
出力列	1つ
パラメータ 1(判定値)	判定する値を設定します。
パラメータ 2(置換値)	置き換えする値を設定します。
パラメータ 3(実行フラ グ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。

サンプル	<p>A列に入力している値が判定値に指定した「BBB」と完全一致した場合、置換値に指定した「B-3」をB列に出力します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>セル値置換</p> <p style="text-align: right;">▲</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px;">入力列(+)</td><td style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px;">入力列(-)</td><td style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px;">出力列(+)</td><td style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px;">出力列(-)</td><td style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; text-align: right;">▲</td></tr> <tr> <td>入力列</td><td>個数 (最小:1,最大:1)</td><td colspan="3" style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; text-align: center;">A(1)</td></tr> <tr> <td>出力列</td><td>個数 (最小:1,最大:1)</td><td colspan="3" style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; text-align: center;">B(2)</td></tr> <tr> <td>パラメータ1</td><td>(判定値)</td><td colspan="3" style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; text-align: center;">BBB</td></tr> <tr> <td>パラメータ2</td><td>(置換値)</td><td colspan="3" style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; text-align: center;">B-3</td></tr> <tr> <td>パラメータ3</td><td>(実行フラグ)</td><td colspan="3" style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; text-align: center;"></td></tr> </table> <p style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;">加工説明</p> <p>入力値がパラメータ"判定値"の場合、出力値を"置換値"にします。 判定値 = "abc" 置換値 = "xyz" "abc" → "xyz"</p> </div>	入力列(+)	入力列(-)	出力列(+)	出力列(-)	▲	入力列	個数 (最小:1,最大:1)	A(1)			出力列	個数 (最小:1,最大:1)	B(2)			パラメータ1	(判定値)	BBB			パラメータ2	(置換値)	B-3			パラメータ3	(実行フラグ)			
入力列(+)	入力列(-)	出力列(+)	出力列(-)	▲																											
入力列	個数 (最小:1,最大:1)	A(1)																													
出力列	個数 (最小:1,最大:1)	B(2)																													
パラメータ1	(判定値)	BBB																													
パラメータ2	(置換値)	B-3																													
パラメータ3	(実行フラグ)																														

加工処理名	1セル入力																										
動作	入力列のうち、一つの列のみに値が設定されている場合、出力列にその値を転送します。 一つも値がない場合、もしくは複数の列に値がある場合は、ブランクを出力します。																										
入力列	複数																										
出力列	1つのみ																										
パラメータ (実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。																										
サンプル	<p>入力列 A、B、C、D のいずれか1つのみに値ある場合、出力列 E に値を転送設定します。 例) A に「1」、B と C と D が「値がない(ブランク)」ので、E=「1」が出力されます。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>1セル入力</p> <p style="text-align: right;">▲</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px;">入力列(+)</td> <td style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px;">入力列(-)</td> <td style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px;">出力列(+)</td> <td style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px;">出力列(-)</td> <td style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; text-align: right;">▲</td> </tr> <tr> <td>入力列</td> <td>個数 (最小:1,最大:100)</td> <td style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; text-align: center;">A(1)</td> <td style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; text-align: center;">B(2)</td> <td style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; text-align: center;">C(3)</td> <td style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; text-align: center;">D(4)</td> <td style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; text-align: center;"></td> </tr> <tr> <td>出力列</td> <td>個数 (最小:1,最大:1)</td> <td colspan="3" style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; text-align: center;">E(5)</td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr> <tr> <td>パラメータ</td> <td>(実行フラグ)</td> <td colspan="5" style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; text-align: center;"></td></tr> </table> <p style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;">加工説明</p> <p>入力セルの内、1つのみ値が設定されている場合、 出力セルに転送します。 入力セル="","", "a", "" 出力セル → "a" 入力セル="a", "b", "" 出力セル → 変わりません</p> </div>	入力列(+)	入力列(-)	出力列(+)	出力列(-)	▲	入力列	個数 (最小:1,最大:100)	A(1)	B(2)	C(3)	D(4)		出力列	個数 (最小:1,最大:1)	E(5)					パラメータ	(実行フラグ)					
入力列(+)	入力列(-)	出力列(+)	出力列(-)	▲																							
入力列	個数 (最小:1,最大:100)	A(1)	B(2)	C(3)	D(4)																						
出力列	個数 (最小:1,最大:1)	E(5)																									
パラメータ	(実行フラグ)																										

加工処理名	セル値セット
動作	特定の文字列を出力する。
入力列	なし
出力列	複数
パラメータ (値)	出力する値を入力します。
パラメータ (実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。

サンプル	C 列に「-」を出力します。
<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">セル値セット</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">入力列(+)入力列(-)出力列(+)出力列(-)▲</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-bottom: 10px;"><div style="width: 40%;">入力列</div><div>個数 (最小:0,最大:0)</div></div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-bottom: 10px;"><div style="width: 40%;">出力列</div><div>個数 (最小:1,最大:100)</div><div>C(3) <input style="width: 40px; height: 20px; border: 1px solid #ccc;" type="text"/></div></div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-bottom: 10px;"><div style="width: 40%;">パラメータ1</div><div>(値) <input style="width: 100px; height: 20px; border: 1px solid #ccc;" type="text" value="-"/></div></div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-bottom: 10px;"><div style="width: 40%;">パラメータ2</div><div>(実行フラグ) <input style="width: 100px; height: 20px; border: 1px solid #ccc;" type="text" value=""/></div></div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; background-color: #f0f0f0; margin-bottom: 10px;">加工説明</div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; background-color: #f0f0f0; margin-bottom: 10px;">出力値に"値"を設定します。 値 = "abc" 出力セル1 → "abc" 出力セル2 → "abc"</div>	

加工処理名	含む値判定フラグセット																																			
動作	入力列に指定したセルのいずれかにパラメータ1で指定した値が含まれているとき、パラメータ2"フラグ名"で指定されるフラグにTrueをセットします。 いずれにも値が含まれていない場合にはFalseをセットします。																																			
入力列	複数																																			
パラメータ1(値)	判定したい文字列を設定します。																																			
パラメータ2(フラグ名)	フラグ名を入力します。																																			
パラメータ3(実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグがTrueのときのみ、実行します。																																			
サンプル	<p>入力列A、B、C、Dのいずれかに指定した値「東京」が含まれている場合、「含む判定」フラグにTrueを設定します。入力列A、B、C、Dのいずれかに指定した値「東京」が含まれていない場合、「含む判定」フラグにFalseを設定します。</p> <p>例) 入力列A=「東京都」、B=「神奈川県」、C=「千葉県」、D=「埼玉県」の場合、Aに「東京」が含まれているため、「含む判定」フラグにTrueを設定します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>含む値判定フラグセット</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border-bottom: 1px solid #ccc; padding-bottom: 5px;"> 入力列(+) 入力列(-) 出力列(+) 出力列(-) ▲ </div> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">入力列</td> <td style="width: 15%;">個数 (最小:1,最大:100)</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">A(1)</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">B(2)</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">C(3)</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">D(4)</td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td>出力列</td> <td>個数 (最小:0,最大:0)</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>パラメータ1</td> <td>(値)</td> <td colspan="5">東京</td> </tr> <tr> <td>パラメータ2</td> <td>(フラグ名)</td> <td colspan="5">含む判定</td> </tr> <tr> <td>パラメータ3</td> <td>(実行フラグ)</td> <td colspan="5"></td> </tr> </table> <p style="margin-top: 10px;">加工説明</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; background-color: #f9f9f9;"> <p>該当セルのいずれかにパラメータ"値"を含む入力があるとき、パラメータ"フラグ名"で指定されるattributeにtrueをセットします。 値 = "abc", "xyz" "xyz" → フラグ名="true"</p> </div> </div>	入力列	個数 (最小:1,最大:100)	A(1)	B(2)	C(3)	D(4)		出力列	個数 (最小:0,最大:0)						パラメータ1	(値)	東京					パラメータ2	(フラグ名)	含む判定					パラメータ3	(実行フラグ)					
入力列	個数 (最小:1,最大:100)	A(1)	B(2)	C(3)	D(4)																															
出力列	個数 (最小:0,最大:0)																																			
パラメータ1	(値)	東京																																		
パラメータ2	(フラグ名)	含む判定																																		
パラメータ3	(実行フラグ)																																			

加工処理名	改行文字削除
動作	出力対象 CSV の全てのセルを走査して、改行文字があるとき、除去する。 ※エンジンは複数行で認識した場合に改行を返すため、出力要件により適用する。
入力列	なし
出力列	なし
パラメータ (実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。

サンプル	<p>出力された値に改行文字がある場合、改行を除去します。</p> <p>1</p> <p>例:「23」と入力されている場合、「123」と出力します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>改行文字削除</p> <p style="text-align: center;"> <input style="margin-right: 10px;" type="button" value="入力列(+)"/> <input type="button" value="入力列(-)"/> <input style="margin-right: 10px;" type="button" value="出力列(+)"/> <input type="button" value="出力列(-)"/> 面 </p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">入力列</td><td>個数 (最小:0,最大:0)</td></tr> <tr> <td>出力列</td><td>個数 (最小:0,最大:0)</td></tr> <tr> <td>パラメータ</td><td>(実行フラグ)</td></tr> </table> <p style="margin-top: 10px;">加工説明</p> <p>出力対象CSVの全てのセルを走査して、改行文字があるとき、除去します。 ※エンジンは複数行で認識した場合に改行を返すため、出力要件により適用します。 "a bc" → "abc"</p> </div>	入力列	個数 (最小:0,最大:0)	出力列	個数 (最小:0,最大:0)	パラメータ	(実行フラグ)
入力列	個数 (最小:0,最大:0)						
出力列	個数 (最小:0,最大:0)						
パラメータ	(実行フラグ)						

加工処理名	ゼロ埋め半角スペース埋め処理																		
動作	入力値のゼロ埋め、半角スペース埋めする。																		
入力列	1つのみ																		
出力列	1つのみ																		
パラメータ	変換後のフォーマットを入力します。																		
1(変換後フォーマット)	d:整数 03:ゼロ埋め 3桁																		
パラメータ2(フラグ)	1:不足する桁数分、半角スペースまたは、ゼロで埋めます。 2:前のゼロを削除します。																		
パラメータ3(null 時置換値)	なし																		
パラメータ4(実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。																		
サンプル	<p>A列に入力された数字をゼロ埋め 3桁に設定し、B列に出力します。</p> <p>例:A列に5と入っていたら、B列に005と出力する。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ゼロ埋め半角スペース埋め処理</p> <p style="text-align: center;"> <input style="margin-right: 10px;" type="button" value="入力列(+)"/> <input type="button" value="入力列(-)"/> <input style="margin-right: 10px;" type="button" value="出力列(+)"/> <input type="button" value="出力列(-)"/> 面 </p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">入力列</td> <td>個数 (最小:1,最大:1)</td> <td>A(1)</td> </tr> <tr> <td>出力列</td> <td>個数 (最小:1,最大:1)</td> <td>B(2)</td> </tr> <tr> <td>パラメータ1</td> <td>(変換後フォーマット)</td> <td>%03d</td> </tr> <tr> <td>パラメータ2</td> <td>(フラグ)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>パラメータ3</td> <td>(null 時置換値)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>パラメータ4</td> <td>(実行フラグ)</td> <td></td> </tr> </table> <p style="margin-top: 10px;">加工説明</p> <p>入力値のゼロ埋め、半角スペース埋めをします。 変換後フォーマット = "%02d" フラグ = "1" "1" → "01" フラグ = "2" "0123" → "123"</p> </div>	入力列	個数 (最小:1,最大:1)	A(1)	出力列	個数 (最小:1,最大:1)	B(2)	パラメータ1	(変換後フォーマット)	%03d	パラメータ2	(フラグ)	1	パラメータ3	(null 時置換値)		パラメータ4	(実行フラグ)	
入力列	個数 (最小:1,最大:1)	A(1)																	
出力列	個数 (最小:1,最大:1)	B(2)																	
パラメータ1	(変換後フォーマット)	%03d																	
パラメータ2	(フラグ)	1																	
パラメータ3	(null 時置換値)																		
パラメータ4	(実行フラグ)																		

加工処理名	ファイル名取得処理
動作	ファイル名の情報をセルに転送する。
入力列	なし
出力列	1つのみ
パラメータ(実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。

サンプル	B列に読み込んだ帳票のファイル名を出力します。
<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; width: 100%;"> <p>ファイル名取得処理</p> <p style="text-align: right;">▲</p> <p>入力列 (+) 入力列 (-) 出力列 (+) 出力列 (-) ▲</p> <p>入力列 個数 (最小:0,最大:0)</p> <p>出力列 個数 (最小:1,最大:1) B(2)</p> <p>パラメータ (実行フラグ) </p> <p>加工説明 reading_pages. file_nameの情報をセルに転送します。 ReadingPage.file_name="abc.png" 出力セル → "abc.png"</p> </div>	

加工処理名	文字切り出し処理
動作	指定したセルに記載された文字列から一部切り出し、出力列に指定したセルを出力します。
入力列	1つ
出力列	1つ
パラメータ 1(開始位置)	先頭から切り離しする文字数を設定します。 例えは「ABCDE」のとき、CDを出力するには、「2」を指定します。
パラメータ 2(終了位置)	切り出す文字列の終了位置を設定します。 例えは「ABCDE」のとき、CDを出力するには、「4」を指定します。
パラメータ 3(実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。
サンプル	<p>入力列 A にある文字列から、一部切り出す文字列の位置を指定し、出力列 B に切り出した文字列を出力します。</p> <p>例) 入力列 A=「2019/11/25」から「19/11」を切り出したい場合、先頭から切り離したい文字数「2」を開始位置に指定し、切り出したい文字列の終了位置「7」を設定します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; width: 100%;"> <p>文字切出し処理</p> <p style="text-align: right;">▲</p> <p>入力列 (+) 入力列 (-) 出力列 (+) 出力列 (-) ▲</p> <p>入力列 個数 (最小:1,最大:1) A(1)</p> <p>出力列 個数 (最小:1,最大:1) B(2)</p> <p>パラメータ1 (開始位置) 2</p> <p>パラメータ2 (終了位置) 7</p> <p>パラメータ3 (実行フラグ) </p> <p>加工説明 開始位置から終了位置までの文字を切り出し取得します。 開始位置 =2 終了位置 =4 "abcdefg" → "cd"</p> </div>

加工処理名	年齢
動作	指定したセルに記載された生年月日から年齢を算出し、出力列に算出した年齢を出力します。
入力列	1つ
出力列	1つ
パラメータ 1(生年月日 フォーマット)	生年月日のフォーマットを設定します。
パラメータ 2(実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。

サンプル	<p>入力列 A の生年月日が生年月日フォーマットと完全一致した場合、出力列 B に算出した年齢を出力します。</p> <p>例) 入力列 A に「1970-11-25」と記載されていた場合、年齢を基準日 (*) で算出し出力列 B に出力します。例えば基準日が「2019-03-15」だった場合、48 となります。</p> <p>基準日と誕生日が同一の場合は、加算された年齢で出力されます。</p> <p>※注意事項</p> <p>(*) 基準日の考え方</p> <p>ワークフローが OCR の場合は、CSV ダウンロードボタンを押下する度に基準日が当日に更新されます。</p> <p>ワークフローが OCR&エントリー、またはエントリーの場合は、エントリーの完了か未完了で基準日の更新タイミングが異なります。また、複数のワークフローが設定されている場合は、ベリファイの完了か未完了で基準日の更新タイミングが異なります。</p> <p>エントリー(またはベリファイ)が完了するまでは、CSV ダウンロードボタンを押下する度に基準日が当日に更新されます。</p> <p>エントリー(またはベリファイ)が完了した場合、完了後、最初に CSV ダウンロードボタンを押下したタイミングで基準日が当日に更新され固定されます。再度ダウンロードボタンを押下した場合は、初回の日付で計算された結果がダウンロードされます。</p>
------	--

加工処理名	日付チェック
動作	指定したセルに記載された日付を、その日付が存在するもしくは存在しないかを解析し、出力列に結果を出力します。
入力列	1つ
出力列	1つ
パラメータ1 (日付フォーマット)	日付フォーマットを設定します。 年(yyyy は西暦4桁、yy は西暦下2桁) 月(M の場合は1桁、MM の場合はゼロ埋め2桁) 日(d の場合は1桁、dd の場合はゼロ埋め2桁) 曜日(EEE の場合は英語曜日略表記3桁、EEEE の場合は英語曜日を正式表記)
パラメータ2 (エラー日付)	日付を解析した結果、その日付が存在しない場合に出力する値を設定します。 入力値がパラメータ1で指定したフォーマットに準拠していない場合にもエラー扱いとなります。
パラメータ3 (実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。

サンプル	<p>入力列 A にある日付が存在するもしくは存在しないかを精密に解析し、出力列 B に結果を出力します。例) 入力列 A=「2019-02-29」の場合は、日付として存在しないため、出力列 B=「存在しない日付」と出力されます。</p> <p>入力列 A=「2020-02-29」の場合は、日付として存在するため、出力列 B=「2020-02-29」と出力されます。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>日付チェック</p> <p>入力列(+) 出力列(-) 出力列(+) 出力列(-) ▲</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">入力列</td><td>個数 (最小:1,最大:1)</td><td>A(1)</td></tr> <tr> <td>出力列</td><td>個数 (最小:1,最大:1)</td><td>B(2)</td></tr> <tr> <td>パラメータ1</td><td>(日付フォーマット)</td><td>yyyy-MM-dd</td></tr> <tr> <td>パラメータ2</td><td>(エラー日付)</td><td>存在しない日付</td></tr> <tr> <td>パラメータ3</td><td>(実行フラグ)</td><td></td></tr> </table> <p>加工説明 日付解析を厳密に行い、日付を返します。エラーの場合、err_dayを返します。 日付フォーマット="yyyy-MM-dd" 日付エラー="※存在しない日付" 2018-2-29 → ※存在しない日付 2018-2-28 → 2018-2-28</p> </div>	入力列	個数 (最小:1,最大:1)	A(1)	出力列	個数 (最小:1,最大:1)	B(2)	パラメータ1	(日付フォーマット)	yyyy-MM-dd	パラメータ2	(エラー日付)	存在しない日付	パラメータ3	(実行フラグ)	
入力列	個数 (最小:1,最大:1)	A(1)														
出力列	個数 (最小:1,最大:1)	B(2)														
パラメータ1	(日付フォーマット)	yyyy-MM-dd														
パラメータ2	(エラー日付)	存在しない日付														
パラメータ3	(実行フラグ)															

加工処理名	前行コピー																																					
動作	入力列で示す列番号で1つ前の行の内容を出力列にコピーする。 この処理は処理行 No が 1 以外の場合にのみ実行する。																																					
入力列	1 つ																																					
出力列	1 つ																																					
パラメータ (実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。																																					
サンプル	<p>A 列に1、2、3、4と入っている場合、前行コピーを行うと B 列に1、1、1、1と出力されます。 (A 列1行目をコピー)</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>前行コピー</p> <p>入力列(+) 出力列(-) 出力列(+) 出力列(-) ▲</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">入力列</td><td>個数 (最小:1,最大:1)</td><td>A(1)</td></tr> <tr> <td>出力列</td><td>個数 (最小:1,最大:1)</td><td>B(2)</td></tr> <tr> <td>パラメータ</td><td>(実行フラグ)</td><td></td></tr> </table> <p>加工説明 入力セルで示す列番号で1つ前の行の内容を出力セルにコピーします。 この処理は処理行Noが1以外の場合にのみ実行されます。 入力セル1行目："a" 出力セル1行目 → "" 入力セル2行目："b" 出力セル2行目 → "a" 入力セル3行目："c" 出力セル3行目 → "b"</p> </div> <p>CSV 出力イメージは以下の通りです。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>項目1</td> <td>項目2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	入力列	個数 (最小:1,最大:1)	A(1)	出力列	個数 (最小:1,最大:1)	B(2)	パラメータ	(実行フラグ)			A	B	C	1	項目1	項目2		2	1	1		3	2	1		4	3	1		5	4	1		6			
入力列	個数 (最小:1,最大:1)	A(1)																																				
出力列	個数 (最小:1,最大:1)	B(2)																																				
パラメータ	(実行フラグ)																																					
	A	B	C																																			
1	項目1	項目2																																				
2	1	1																																				
3	2	1																																				
4	3	1																																				
5	4	1																																				
6																																						

加工処理名	フラグクリア
動作	現在設定されているフラグの一つまたは全部をクリアする。
入力列	なし

出力列	なし
パラメータ(クリアするフラグ名)	クリアしたいフラグ名を入力します。
パラメータ(実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。
サンプル	<p>例:「値判定フラグセット」にて「TOKYO」というフラグが設定されている場合、これを指定することで、フラグ内容をクリアします。</p> <p>以降のデータ加工設定では、フラグの情報がブランクになります。</p> <p>「パラメータ(クリアするフラグ名)」をブランクにして設定すると、加工処理にて設定したフラグを全て削除します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>含む値判定フラグセット</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>フラグクリア</p> </div> </div>

加工処理名	チェックボックス変換
動作	<p>入力列の対応する出力値を出力列にセットする。</p> <p>入力列は複数設定可能で、出力値はカンマ区切りで設定する。</p> <p>対応出力値が設定されていない場合は出力列の先頭から 1, 2, 3, ... という値がセットされる。</p>
入力列	複数
出力列	1つ
パラメータ(実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。
サンプル	<p>B 列および C 列に、チェックボックス(もしくはマークシート・押印)の読み取り条件を使用している場合で、かつ結果が「1」であるときに D 列に値で出力します。</p> <p>例:性別別の項目で、「男」にチェックが入った場合、「男」と出力します。</p> <div style="text-align: center;"> <p>チェックボックス変換</p> </div>

加工処理名	文字列フォーマット
動作	入力列からフォーマットされた文字列を作成する。
入力列	複数
出力列	1つ

パラメータ1	出力したいフォーマットを指定します。 %sを指定した箇所に入力列の値を設定します。入力列の数と同数の%sを指定します。
パラメータ2	なし
パラメータ3	なし
サンプル	A列、B列、C列にそれぞれ2018、4、25と入力され、それらを使って「2018年4月25日」というフォーマットで出力します。 例:D列に「2018年4月25日」と出力したい場合
	<p>文字列フォーマット</p> <p>加工説明</p> <p>入力セルからフォーマットされた文字列を生成します。 パラメータ"フォーマット"を使い、入力セル値をフォーマットして出力セルに書き出します。 入力セル="100" 入力時のみ実行=true フォーマット="%s%s%" → "100%"</p> <p>入力セル="" 入力時のみ実行=true フォーマット="%s%s%" → ""</p>

加工処理名	文字列切出し(末尾)
動作	文字列の末尾から指定文字数切り出す。
入力列	1つ
出力列	1つ
パラメータ1(桁数)	切り出す文字数を指定します。
パラメータ2(実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグがTrueのときのみ、実行します。
サンプル	B列の文字の末尾3桁を切り出しC列に出力します。
	<p>文字列切出し(末尾)</p> <p>加工説明</p> <p>文字列の末尾から指定文字数切り出します。 終了位置="2" "abcd" → "cd"</p>

加工処理名	ユーザ辞書一致処理
動作	参照キーと読み取文字が一致している場合、パラメータで設定した辞書データの値を出力する。
入力列	1つ
出力列	最大3つ ※ パラメータ1(フラグ)をブランク(デフォルト)で設定した場合は、出力列を3つ指定する必要があります。
パラメータ1(フラグ)	フラグ=1→辞書データの値1の文字列 フラグ=2→辞書データの値2の文字列 フラグ=3→辞書データの値3の文字列 フラグ=デフォルト→辞書データの値1-3の文字列
パラメータ2(ユーザ辞書ID)	登録したユーザ辞書の名前を指定します。

パラメータ2(実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。															
サンプル	<p>登録したユーザ辞書「テスト」を使い、B 列が参照キーと一致している場合、C 列に値 1 の文字列を出力します。</p> <p>ユーザ辞書一致処理</p> <p>入力列(+) 出力列(-) 出力列(+) 出力列(-) ▲</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>入力列</td> <td>個数 (最小:1,最大:1)</td> <td style="text-align: center;">B(2)</td> </tr> <tr> <td>出力列</td> <td>個数 (最小:1,最大:1)</td> <td style="text-align: center;">C(3)</td> </tr> <tr> <td>パラメータ1</td> <td>(フラグ)</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>パラメータ2</td> <td>(ユーザ辞書ID)</td> <td>テスト</td> </tr> <tr> <td>パラメータ3</td> <td>(実行フラグ)</td> <td></td> </tr> </table> <p>ユーザ辞書の参照キーと入力セル値が等しい場合、フラグだけで辞書データの値を返します。 フラグ=1 → 辞書データの値1の値 フラグ=2 → 辞書データの値2の値 フラグ=3 → 辞書データの値3の値 デフォルト → 辞書データの値1~3の値</p>	入力列	個数 (最小:1,最大:1)	B(2)	出力列	個数 (最小:1,最大:1)	C(3)	パラメータ1	(フラグ)	1	パラメータ2	(ユーザ辞書ID)	テスト	パラメータ3	(実行フラグ)	
入力列	個数 (最小:1,最大:1)	B(2)														
出力列	個数 (最小:1,最大:1)	C(3)														
パラメータ1	(フラグ)	1														
パラメータ2	(ユーザ辞書ID)	テスト														
パラメータ3	(実行フラグ)															

加工処理名	ファイル名の日付追加
動作	出力 CSV ファイル名を「ファイル名フォーマット」に再フォーマットする。
入力列	1つ
出力列	なし
パラメータ 1-5	<p>入力列を日付で評価し、"出力日付フォーマット"でフォーマットした値を使って、出力 CSV ファイル名を"ファイル名フォーマット"に再フォーマットします。</p> <p>複数行設定ポリシー="1"の場合 出力日付フォーマット="yyyyMMdd" ファイル名フォーマット="{0}_{1}.csv" 入力列="2018/02/26/12/24/32" ファイル名="example_file" → example_file_20180226.csv</p> <p>複数行設定ポリシー="3"の場合 出力日付フォーマット="yyyy_MM_dd" ファイル名フォーマット="{0}_{1}.csv" 入力列 1 行目="2018/02/26/12/24/32", 入力列 2 行目="2018/02/27/00/00/00" ファイル名="example_file2" → example_file2_2018_02_27.csv</p> <p>複数行設定ポリシー="4" 出力日付フォーマット="yyyy-MM-dd" ファイル名フォーマット="{0}_{1}.csv" 入力列 1 行目="2018/02/26/12/24/32", 入力列 2 行目="2018/02/26/12/24/32" ファイル名="example_file4" 重複時出力値="重複日" → example_file4_重複日.csv</p>

サンプル	<p>A列に日付が出来ている場合でかつ yyyyMMdd のフォーマットで、この文字列を CSV のファイル名に加えたい場合に利用します。</p> <p>例: A列1行目に 2018-02-24 と入っており、この値を CSV のファイル名に加えたい場合</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ファイル名の日付追加</p> <p style="text-align: right;">▲</p> <p style="text-align: center;"> <input style="margin-right: 10px;" type="button" value="入力列(+)"/> <input type="button" value="入力列(-)"/> <input style="margin-right: 10px;" type="button" value="出力列(+)"/> <input type="button" value="出力列(-)"/> ▲ </p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">入力列</td><td style="width: 15%;">個数 (最小:1,最大:1)</td><td style="width: 70%; text-align: center;"><input type="text" value="A(1)"/></td></tr> <tr> <td>出力列</td><td>個数 (最小:0,最大:0)</td><td></td></tr> <tr> <td>パラメータ1</td><td>(出力日付フォーマット)</td><td style="text-align: center;"><input type="text" value="yyyyMMdd"/></td></tr> <tr> <td>パラメータ2</td><td>(ファイル名フォーマット)</td><td style="text-align: center;"><input type="text" value="{}_{}.csv"/></td></tr> <tr> <td>パラメータ3</td><td>(複数行設定ポリシー)</td><td style="text-align: center;"><input type="text" value="1"/></td></tr> <tr> <td>パラメータ4</td><td>(重複時出力値)</td><td style="text-align: center;"><input type="text"/></td></tr> <tr> <td>パラメータ5</td><td>(実行フラグ)</td><td style="text-align: center;"><input type="text"/></td></tr> </table> </div>	入力列	個数 (最小:1,最大:1)	<input type="text" value="A(1)"/>	出力列	個数 (最小:0,最大:0)		パラメータ1	(出力日付フォーマット)	<input type="text" value="yyyyMMdd"/>	パラメータ2	(ファイル名フォーマット)	<input type="text" value="{}_{}.csv"/>	パラメータ3	(複数行設定ポリシー)	<input type="text" value="1"/>	パラメータ4	(重複時出力値)	<input type="text"/>	パラメータ5	(実行フラグ)	<input type="text"/>
入力列	個数 (最小:1,最大:1)	<input type="text" value="A(1)"/>																				
出力列	個数 (最小:0,最大:0)																					
パラメータ1	(出力日付フォーマット)	<input type="text" value="yyyyMMdd"/>																				
パラメータ2	(ファイル名フォーマット)	<input type="text" value="{}_{}.csv"/>																				
パラメータ3	(複数行設定ポリシー)	<input type="text" value="1"/>																				
パラメータ4	(重複時出力値)	<input type="text"/>																				
パラメータ5	(実行フラグ)	<input type="text"/>																				

加工処理名	指定文字による分割												
動作	入力セルを指定した文字列で分割する。												
入力列	1つ												
出力列	2つ以上												
パラメータ1 (分割文字列)	入力文字列の前後で分割されます。												
パラメータ2 (実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。												
サンプル	<p>A列に「10/12」と出力されている場合に、/で分割し「10」と「12」に分割したい場合に利用します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>指定文字による分割</p> <p style="text-align: right;">▲</p> <p style="text-align: center;"> <input style="margin-right: 10px;" type="button" value="入力列(+)"/> <input type="button" value="入力列(-)"/> <input style="margin-right: 10px;" type="button" value="出力列(+)"/> <input type="button" value="出力列(-)"/> ▲ </p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">入力列</td> <td style="width: 15%;">個数 (最小:1,最大:1)</td> <td style="width: 70%; text-align: center;"><input type="text" value="A(1)"/></td> </tr> <tr> <td>出力列</td> <td>個数 (最小:2,最大:100)</td> <td style="text-align: center;"><input type="text" value="B(2)"/> <input type="text" value="C(3)"/> <input type="text"/></td> </tr> <tr> <td>パラメータ1 (分割文字列)</td> <td>(/)</td> <td style="text-align: center;"><input type="text" value="/"/></td> </tr> <tr> <td>パラメータ2 (実行フラグ)</td> <td></td> <td style="text-align: center;"><input type="text"/></td> </tr> </table> <p style="margin-top: 10px;">加工説明</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; background-color: #f0f0f0;"> 入力セルから指定した文字列で分割します。 パラメータ"分割文字列"を使い、入力セル値を分割して出力セルに書き出します。 入力セル="aabcc" 分割文字列="b" 出力セル1 → "aa" 出力セル2 → "cc" </div> <p style="margin-top: 20px;">A列に 10/12 と入力されており、これを B 列に 10、C 列に 12 との前後の内容で分割して出力したい場合</p> </div>	入力列	個数 (最小:1,最大:1)	<input type="text" value="A(1)"/>	出力列	個数 (最小:2,最大:100)	<input type="text" value="B(2)"/> <input type="text" value="C(3)"/> <input type="text"/>	パラメータ1 (分割文字列)	(/)	<input type="text" value="/"/>	パラメータ2 (実行フラグ)		<input type="text"/>
入力列	個数 (最小:1,最大:1)	<input type="text" value="A(1)"/>											
出力列	個数 (最小:2,最大:100)	<input type="text" value="B(2)"/> <input type="text" value="C(3)"/> <input type="text"/>											
パラメータ1 (分割文字列)	(/)	<input type="text" value="/"/>											
パラメータ2 (実行フラグ)		<input type="text"/>											

加工処理名	全角半角変換
動作	英数字、記号、カタカナを全角→半角または半角→全角変換する。

入力列	1つ
出力列	1つ
パラメータ1 (半角→全角 フラグ)	全角→半角へ変換する場合は、パラメータ1はブランクにします。 半角→全角へ変換する場合は、パラメータ1に true と入れます。
パラメータ2 (実行フラグ)	特定の条件のときにのみ実行する場合、フラグ名を設定します。フラグが True のときのみ、実行します。
変換対象文 字	英数字、カタカナ、スペース、以下の記号 ! " # \$ % & , () * + , - . / : ; < = > ? @ { } ~ 。 「 」 、 •
サンプル	<p>全角半角変換</p> <p>入力列(+) 出力列(-) 出力列(+) 出力列(-) 戻る</p> <p>入力列 個数 (最小:1,最大:1) A(1) 出力列 個数 (最小:1,最大:1) A(1) パラメータ1 (半角→全角フラグ) true パラメータ2 (実行フラグ)</p> <p>英数字、記号、カタカナを全角→半角または半角→全角変換します。 デフォルトは全角→半角変換です。 パラメータ"半角→全角フラグ"=trueなら半角→全角変換になります。 例1. "半角→全角フラグ"=入力なし 入力セル→"ア~さ" 出力セル→"?~\$" 例2. "半角→全角フラグ"=true 入力セル→"aAあ7." 出力セル→"aAあアー"</p> <p>A 列に「A アイウ」(半角)と入力されており、これを A 列に「Aアイウ」(全角)と出力したい場合</p>

※ 上記以外にも、加工設定の項目につきまして、使い方がわからない箇所などがございましたら、[+OCR オートメーションサポートセンタ](#)までご連絡ください。

C ユーザ辞書設定

会社名/商品名などといった項目に対して、ユーザ辞書設定の機能を使用することでより高い精度で目的の項目を出力することが可能になります。

使用例 1) 読み込み対象の内容が限られている場合、ユーザ辞書を登録することで、OCR エンジンが読み込んだ値と登録されている辞書の類似性から値を出力することが可能です。

ユーザ辞書設定する前の準備(ユーザ辞書のデータ登録を行う)

1. **+OCR** にログインし、右上の「ユーザ名」ボタンをクリックし「設定」を選択します。



2. 左から「ユーザ辞書設定」ボタンをクリックします。「新規登録」ボタンをクリックし、作成するユーザ辞書のフォルダを作成します。



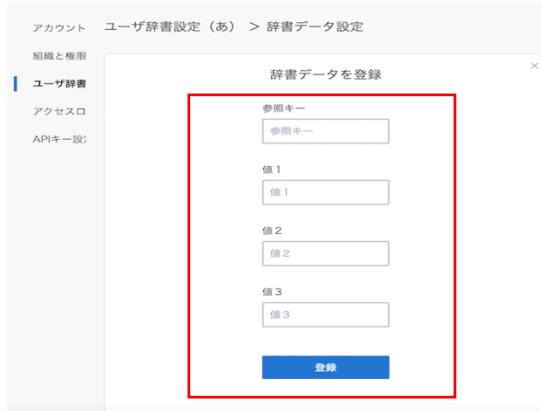
3. ユーザ辞書名(新規フォルダとして登録したもの)をクリックし、実際に辞書データとして使いたい単語をインポートします。



4. 既に辞書データが CSV 形式で存在している場合は、「一括登録(CSV)」ボタンをクリックし、ファイルをアップロードします。



5. CSV 形式の辞書データファイルがない(+OCR 上で辞書データを作成したい)場合は、「新規登録」ボタンをクリックし、必要な辞書データを一つずつ登録します。



※ CSV 形式の辞書データをインポートする際は、以下のような形式のファイル作成が必要です。

	A	B	C	D	E	F
1	操作	Data#	参照キー	値1	値2	値3
2	追加		商品 1	さくらんぼ	300円	秋
3	追加		商品 2	りんご	100円	冬
4	追加		商品 3	みかん	400円	冬
5	追加		商品 4	バナナ	200円	年中
6	追加		商品 5	スイカ	500円	夏
7	追加		商品 6	キウイ	100円	夏

CSV ファイル作成例

各項目定義

操作	Data#	参照キー	値1	値2	値3
追加・変更・削除を何れかを設定	ダウンロードした値より変更不可 (追加時は未入力)	読み取り結果の文字列を設定 (追加時は必須)	変更対象となる文字列を設定 (変更可)	変更対象となる文字列を設定 (変更可)	変更対象となる文字列を設定 (変更可)

辞書データのインポート、もしくは新規登録が完了した後に以下の設定を行います。

ユーザ辞書を使った読み取り範囲の設定

該当の「ドキュメント設定」画面を開き、辞書設定を行った部分で読み取り範囲を取り、読み取り範囲設定の歯車をクリックします。

- 1.銀行
- 2.信用金庫
- 3.信用組合
- 4.農協
- 5.漁協
- 6.労働金庫



辞書設定画面



辞書設定のタブをクリックします。

No	項目	内容	備考
①	辞書変換処理	辞書設定を行う場合は、「行う」にチェックをします。	
②	ユーザ辞書	登録済みのユーザ辞書名を選択します	
③	出力列	「出力列」には、登録した辞書データのどの値を辞書変換処理後に outputしたいかを選択します。 →ロジック: 参照キーを参照し、近しいものがあれば出力列で選択している値に変換して出力します。	参照キーを出力したい場合は、参照キーにチェックを入れたままで登録します。
④	辞書データ自動追加	エントリーで修正した値を辞書データ(値)として自動登録する場合には「行う」を選択します。	2文字以下は自動登録されないため、数字や文字が少ないものは、自動追加の設定を推奨しておりません。
⑤	尤度閾値	「尤度閾値」は、どの程度参照キーと読み取り結果が一致したら置換を行うのかという閾値となります。	トライアンドエラーを繰り返し行い、どの程度の数値が精度の高い結果が出るのかを確認する必要があります。

D ブラウザの設定方法

+OCR にアクセスするには、Cookie 及び Javascript を有効にする必要があります。

ブラウザ毎の設定方法は、下記をご確認ください。

1. Chrome での設定方法

【Cookie/Javascript の有効化】

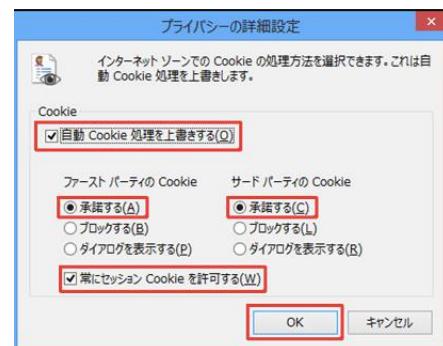
- ① 画面右上で、> 「設定」の順にクリックします。
- ② 下の方にある「詳細設定」ボタンをクリックします。
- ③ 「プライバシーとセキュリティ」で「コンテンツの設定」ボタンをクリックします。
- ④ 「Cookie」ボタン及び「Javascript」ボタンをクリックし、それぞれ「許可」に設定します。



2. Internet Explorer での設定方法

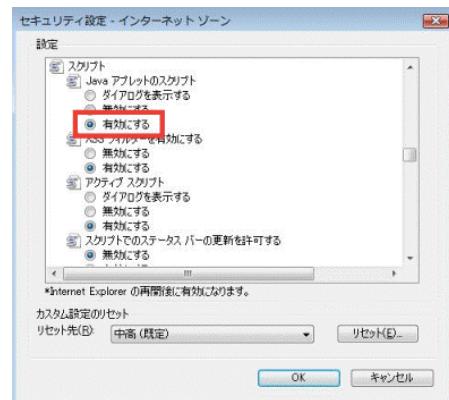
【Cookie の有効化】

- ① 「ツール」>「インターネット オプション」の順にクリックします。
- ② 「プライバシー」タブをクリックし、「設定」欄の「詳細設定」ボタンをクリックします。
- ③ 右図のように設定し、「OK」ボタンをクリックします。



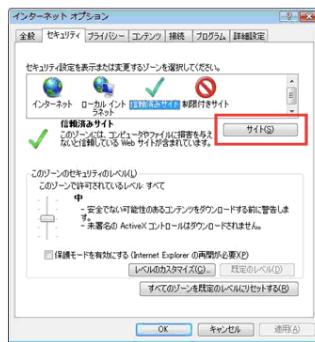
【Javascript の有効化】

- ① 「ツール」>「インターネット オプション」の順にクリックします。
- ② 「セキュリティ」タブを選択し、「レベルのカスタマイズ」ボタンをクリックします。
- ③ 「Java アプレットのスクリプト」までスクロールします。
- ④ 「有効にする」ラジオボタンが選択されていることを確認します。
- ⑤ 「OK」ボタンをクリックします。



もしフォルダ作成ボタンやファイルアップロードボタンが表示されていない場合は、**+OCR** のログイン URL を「信頼済みサイト」に登録するようお願いいたします。

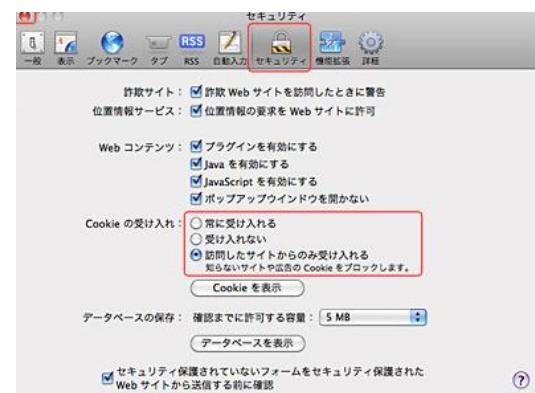
- ① **+OCR** のログイン画面を開いている状態で「ツール」>「インターネット オプション」の順にクリックします。
- ② 「セキュリティ」タブを選択し、「信頼済みサイト」を選択し、「サイト」ボタンを押します。
- ③ 「信頼済みサイト」ウィンドウが開きますので、「この Web サイトをゾーンに追加する」の下に**+OCR** のログイン URL が入っていることを確認し、「追加」をクリックします。



3. Safari での設定方法

【Cookie の有効化】

- ① 「環境設定」ボタンをクリックします。
- ② 「セキュリティ」をクリックし、Cookie の受け入れ「常に受け入れる」ボタンもしくは「訪問したサイトからのみ受け入れる」ボタンをクリックします。
- ③ 画面左上の閉じるボタンをクリックして、設定を終了します。



【Javascript の有効化】

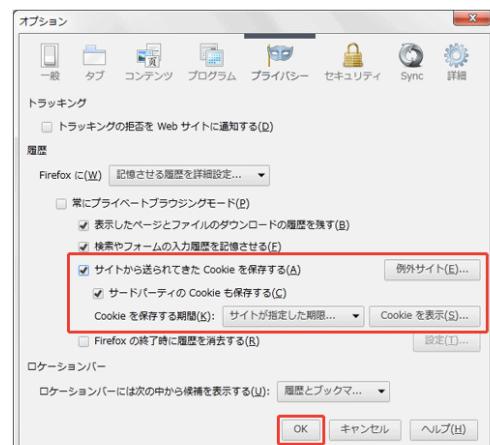
- ① メニューバーの「Safari」>「環境設定」ボタンをクリックします。
- ② 「セキュリティ」ボタンをクリックし、「Web コンテンツ」の「プラグインを有効にする」にチェックをし、「Javascript を有効にする」のチェックをします。
- ③ 画面左上の閉じるボタンをクリックします。



4. FireFox での設定方法

【Cookie の有効化】

- ① [Alt] キーを押してメニューバーを表示させます。
- ② [ツール] → [オプション] をクリックします。
- ③ 「オプション」画面が表示されたら、[プライバシー] をクリックします。
- ④ [Firefox に] のプルダウンをクリックし、[記憶させる履歴を詳細設定する] をクリックします。
- ⑤ 「サイトから送られてきた Cookie を保存する」にチェックを付け、[OK] をクリックします。



【Javascript の有効化】

- ① [ツール] → [オプション] をクリックします。
- ② アドオン・マネージャ・ウィンドウで、「プラグイン」を選択します。
- ③ 「Java (TM) Platform」プラグイン(Windows)または「Java アプレットプラグイン」(Mac OS X)をクリックして選択します。
- ④ 選択したオプションが、「実行時に確認する」または「常に有効化する」であるかを確認するか、古いバージョンの Firefox の場合、「有効化」ボタンをクリックします。

5. Edge での設定方法

【Cookie の有効化】

- ① Edge の画面右上の設定メニュー (≡) を選択し、表示されたメニューから「設定」を選択します。
- ② 「設定」の画面で下にスクロールし、「詳細設定」を表示を選択します。
- ③ 「詳細設定」の画面で下にスクロールし、「クッキー」の設定から「クッキーをブロックしない」を選択します。



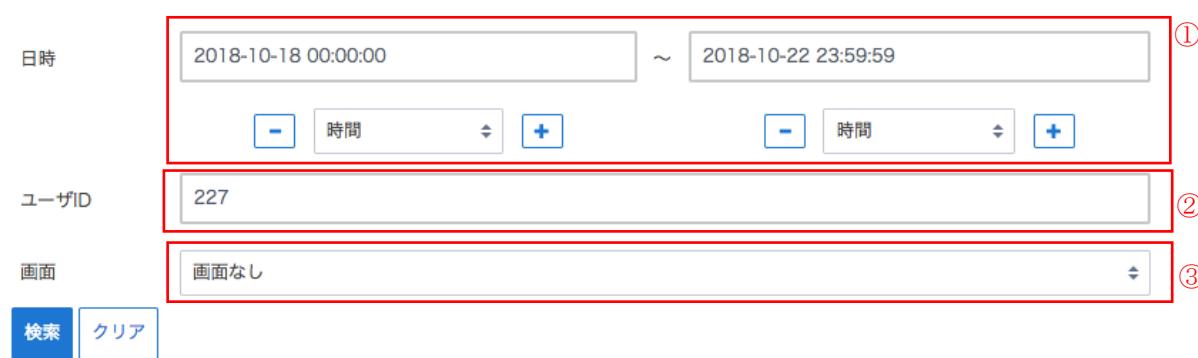
E アクセスログ照会

+OCR のアクセスログを照会するには下記項目をご参照ください。

+OCR にログインし、右上の「ユーザ名」ボタンをクリックし、「設定」を選択します。
左パネルから「アクセスログ照会」をクリックします。

アクセスログ照会画面

検索画面



日時 ~ ①

ユーザID ②

画面 ③

検索 **クリア**

【アクセスログ検索条件】

No	項目	内容
①	日時	表示対象とするアクセス時間帯を指定します。
②	ユーザ ID	表示対象とするユーザ ID を指定します。
③	画面	表示対象とする画面もしくは作業内容を指定します。

照会画面

順番	日時	画面	処理	操作ユーザ	テーブル名	対象ID	
1	2018-10-18 10:22:00	①	画面なし ②	ログアウト ③	DXSuiteデモ初期ユーザー_002 ④	users ⑤	227 ⑥
2	2018-10-19 17:41:58	画面なし	ログアウト	DXSuiteデモ初期ユーザー_002	users	227	
3	2018-10-22 10:26:58	画面なし	ログアウト	DXSuiteデモ初期ユーザー_002	users	227	

【アクセスログ結果の項目】

No	項目	内容
①	日時	操作日時が表示されます。
②	画面	検索条件で指定した画面が表示されます。
③	処理	処理内容が表示されます。
④	操作ユーザ	操作ユーザが表示されます。
⑤	テーブル名	これらの項目の詳細情報が知りたい場合は、該当のテーブル名と対象 ID を+OCR オートメーションサポートセンタまでご連絡ください。
⑥	対象 ID	

F 変換タグ一覧

OCR では、CSV ファイル出力時やユニット作成時に名称を入力する際、ドキュメント名や作業者名などを自動取得できる変換タグを用意しています。

使用例：

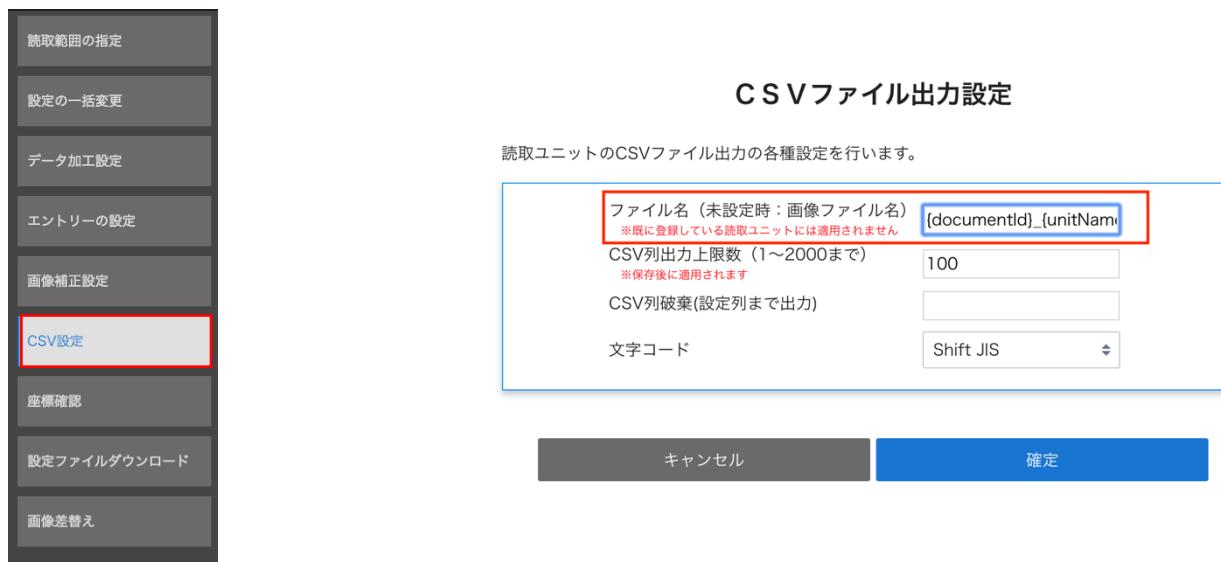
ファイル名をドキュメント名_年月日としたい場合→{documentName}_{yyyymmdd}

※注意点：変換後の名称が 128 文字を超えると、129 文字目からは削除されます。

CSV ファイル名

帳票設定画面から CSV 設定を表示

CSV ファイル出力設定画面のファイル名に入力



ユニット名

ドキュメントの読み取り(詳しくは 2.3 ドキュメントの作成をご参照下さい。)

ドキュメントを読み取る

読み取りたいドキュメント画像ファイルを選択してください。(複数選択可)



CSV ファイル出力・ユニット作成 どちらでも使用できる変換タグ

No	項目	内容
①	ドキュメント ID	{documentId}
②	ドキュメント名	{documentName}
③	年月日	{yyyymmdd}
④	年月日時分秒	{yyyymmddhhmmss}
⑤	ログインユーザーID	{loginUserId}

CSV ダウンロード時のみ使用できる変換タグ

No	項目	内容
⑥	ユニット作成者 ID	{createUserId}
⑦	ユニット ID	{unitId}
⑧	ユニット名	{unitName}

ユニット作成時のみ使用できる変換タグ

No	項目	内容
⑨	ログインユーザー名	{loginUserName}

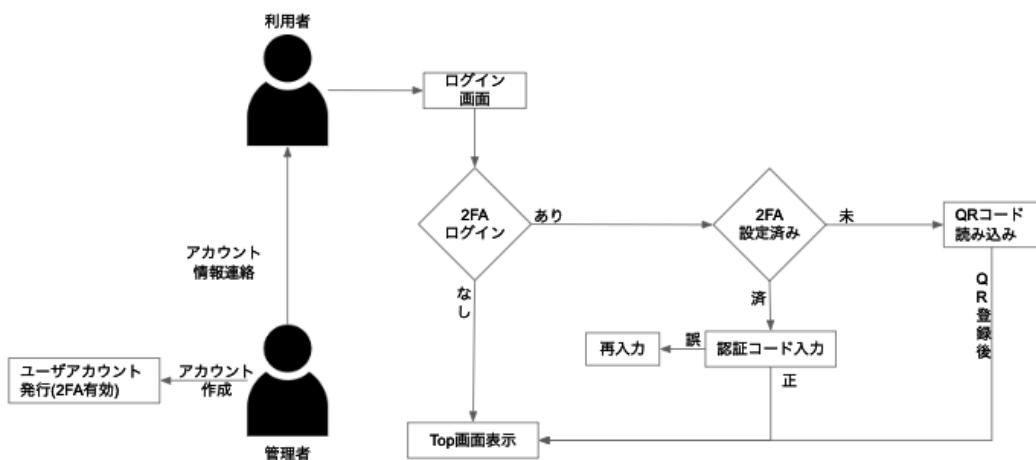
G 二階認証の設定

G.1 二段階認証の設定概要

ログイン時に、管理者が利用者ごとに、二段階認証(2FA)を行うかの有無を設定することができます。

【ユーザー登録画面】にて、「二段階認証」の「使用する」に事前に設定することが必要です。

詳細は「4.5 ユーザの管理」をご参照ください。

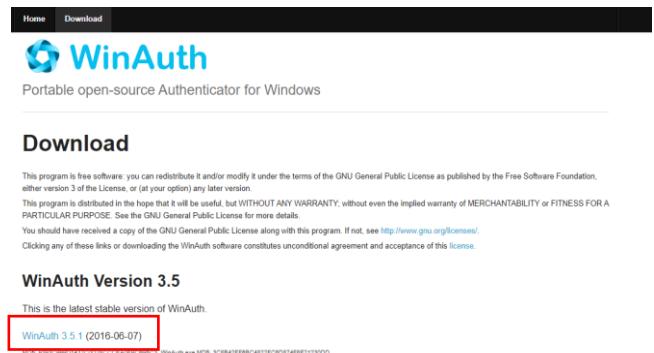


【二段階認証にPCを利用する場合の推奨ツール:WinAuth】

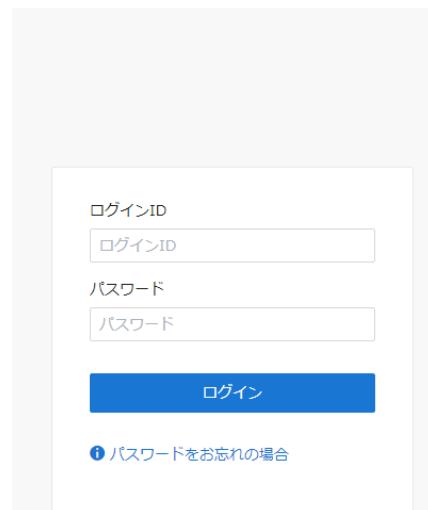
- 以下のサイトより、「WinAuth」をダウンロードします。

<https://winauth.github.io/winauth/download.html>

※URLは変更される可能性があります。



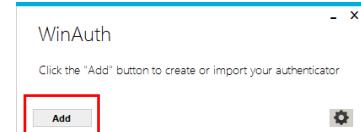
- ダウンロードしたZIPファイルを任意の場所に解凍し、「WinAuth.exe」をダブルクリックして起動します。
- ブラウザにて、+OCRのトップ画面を表示し、ログインID/パスワード入力後、「ログイン」ボタンをクリックします。



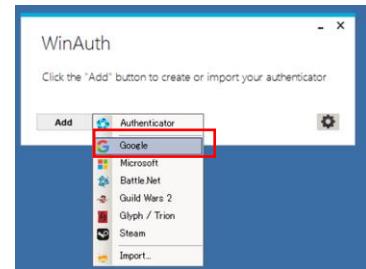
4. ログイン後、QR コードと KEY コードが表示されるので、KEY コードを控えてください。



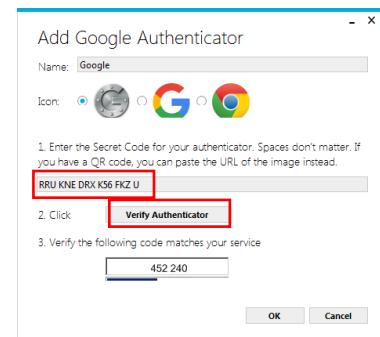
5. WinAuth の画面にて、「Add」をクリックします。



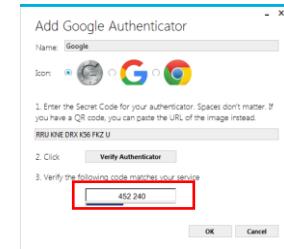
6. 「Google」を選択します。



7. 控えた KEY コードを入力し、「Verify Authenticator」をクリックします。



8. 右図赤枠部分の 6 衝のコードを控えます。



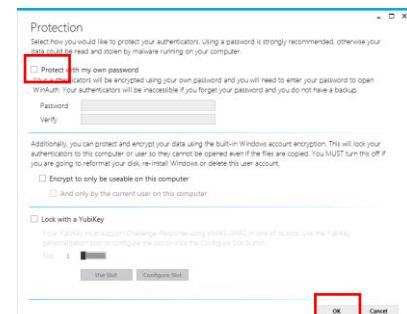
9. ブラウザの **OCR** 画面にて、前項で控えた 6 衝のコードを入力し、「登録」ボタンをクリックします。



10. WinAuth の画面にて、「OK」をクリックします。

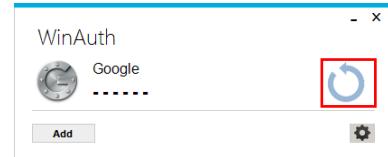


11. 「Protection」画面の「Protect with own password」のチェックを外し、「OK」ボタンをクリックします。



■2回目以降のログイン方法

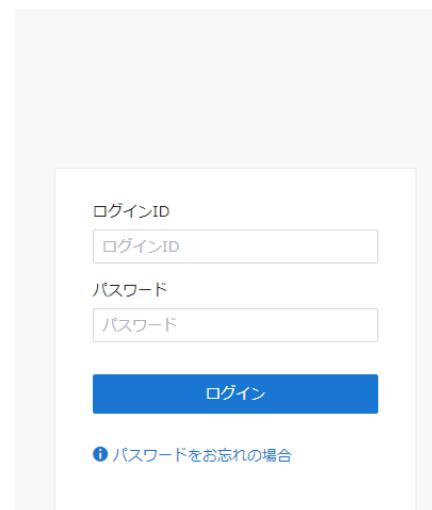
1. 「WinAuth. exe」をダブルクリックして起動します。
2. ウィンドウ右側の丸矢印をクリックします。



3. 表示された6桁の認証コードを控えます。



4. **+OCR** のログイン画面にて、「ログインID」と「パスワード」をそれぞれ入力し、「ログイン」ボタンをクリックしてください。



5. WinAuth で控えた6桁の認証コードを入力し、「認証」ボタンをクリックします。



【二段階認証にスマートフォンを利用する場合の推奨ツール:Google 認証システム】

- スマートフォンにて、以下のサイトより認証アプリをインストールします。

・Android

<https://play.google.com/store/apps/details?id=com.google.android.apps.authenticator2>

・iOS

<http://appstore.com/gooleauthenticator>

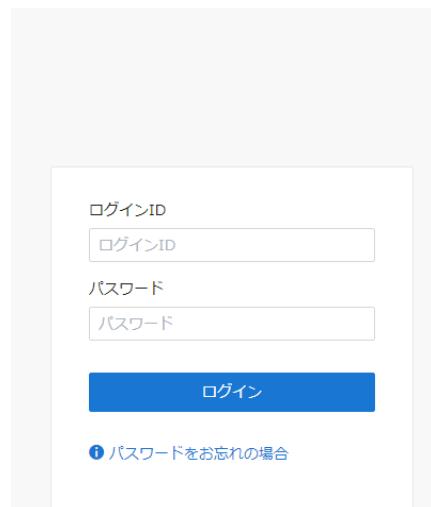
※URL は変更される可能性があります。



このアプリについて →

2段階認証を有効にしてアカウントを不正使用から保護できます。

- ブラウザにて、**+OCR** のトップ画面を表示し、ログイン ID/パスワード入力後、「ログイン」ボタンをクリックします。



- ログイン後、QR コードと KEY コードが表示されます。



4. スマートフォンにて、認証アプリを起動します。
5. 認証アプリにて、「開始」ボタンをタップします。



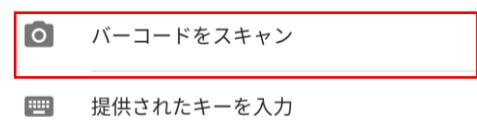
6. 「スキップ」をタップします。



7. 「バーコードをスキャン」をタップします。

アカウントの追加

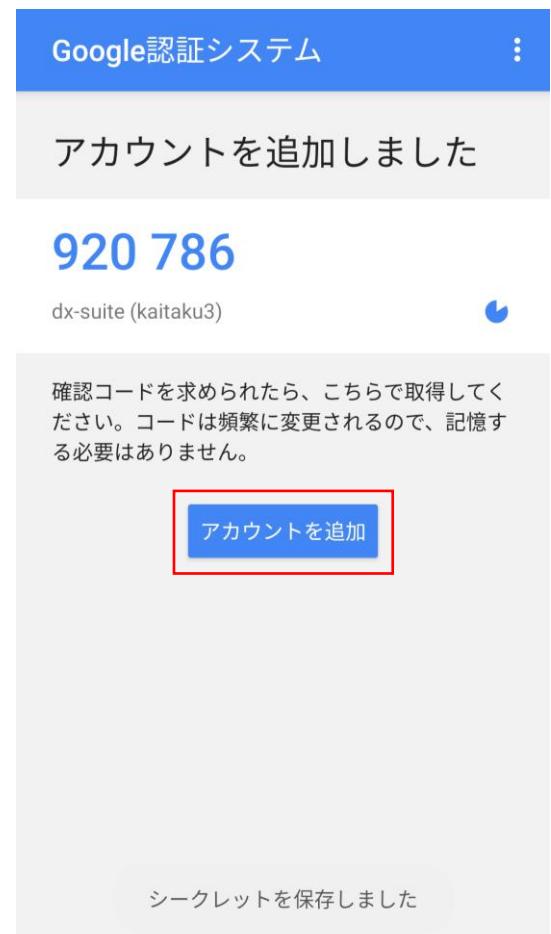
次のいずれかの方法を選択してアカウントを追加できます。



8. スマートフォンの認証アプリで、ブラウザの +OCR の画面に表示されている、QRコードを読み取ります。



9. 「アカウントを追加」をタップします。

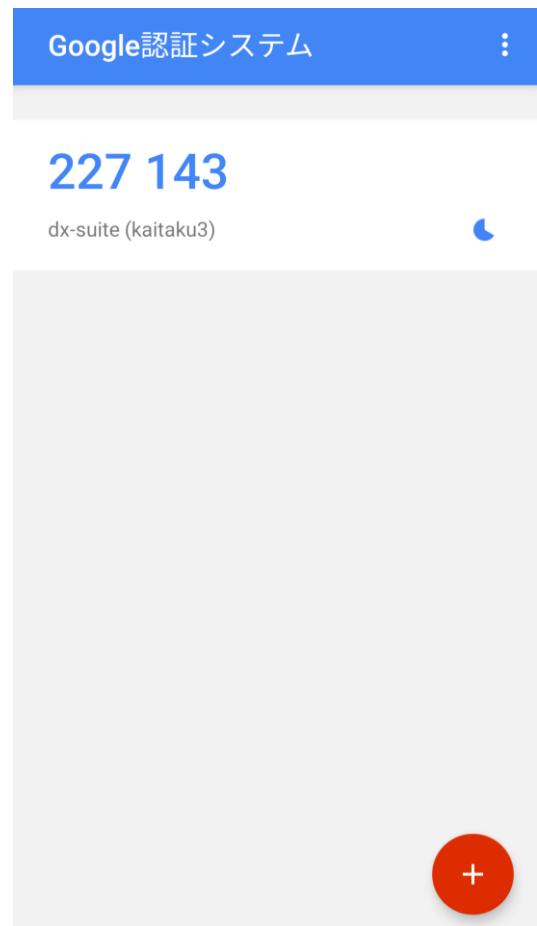


10. ブラウザの **OCR** 画面にて、スマートフォンの認証アプリで表示されている 6 桁のコードを入力し、「登録」ボタンをクリックします。

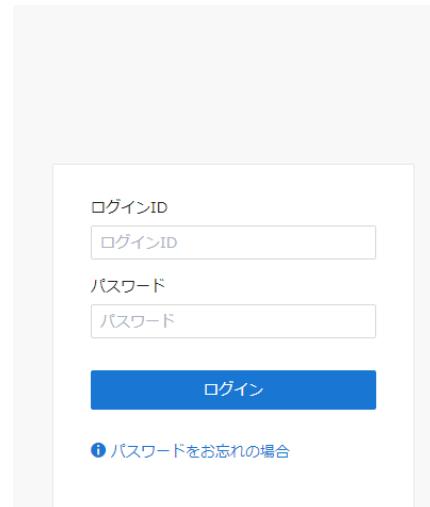


■2回目以降のログイン方法

1. スマートフォンの認証アプリを起動します。
2. 6桁の認証コードが表示されます。



3. **+OCR** のログイン画面にて、「ログイン ID」と「パスワード」をそれぞれ入力し、「ログイン」ボタンをクリックしてください。



4. スマートフォンの認証アプリに表示されている 6 枠の認証コードを入力し、「認証」ボタンをクリックします。



【二段階認証をリセットする方法】

二段階認証をリセットする場合、「ユーザー一覧」から「ユーザーを編集」の「二段階認証」を「使用しない」に一旦変更し、更新ボタンをクリック、再度「使用する」に設定し、更新ボタンをクリックすると、リセットされます。

部署一覧 ユーザー一覧

ユーザを編集

二段階認証

使用する 使用しない

利用可否

利用可能 利用不可

ログイン後表示画面

お知らせ

最終ログイン日時

更新

H 接続元 IP 制限機能

＋OCR にアクセスできる IP アドレスを制限し、セキュリティを向上させるオプションです。利用には＋OCR の基本契約とは別に「接続元 IP 制限オプション」の申し込みが必要になります。

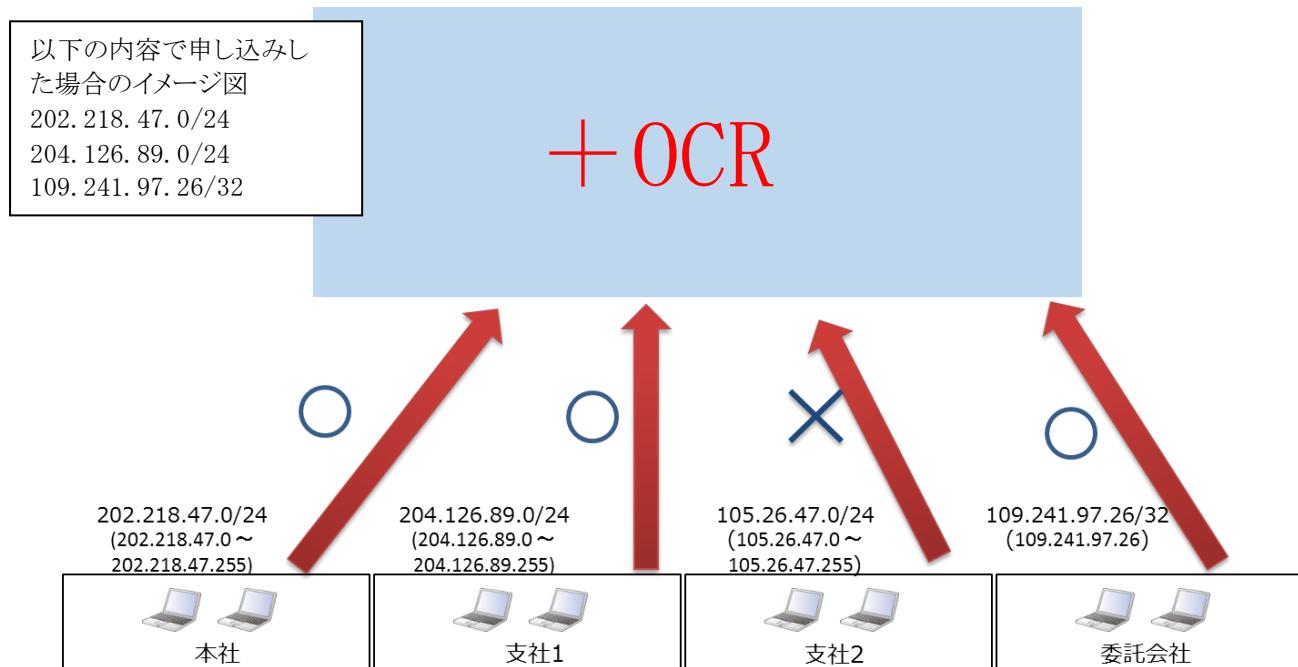
アドレス※単位で申し込みでき、50 アドレスまで登録することができます。(1 アドレス毎に月額料金が発生)

※ アドレスはセグメント単位で指定可能です。

例) 202.218.47.0/24

＋OCR では、申込み時に指定したアドレスからのアクセスを許可し、それ以外の IP アドレスからのアクセスは拒否します。申込み時に、[202.218.47.0/24]を指定した場合は、202.218.47.0～202.218.47.255 の範囲の IP アドレスからのアクセスを許可することになります。

IP アドレスを一つだけ設定する場合は、申込み時 IP アドレスに” /32” を付与してください。(例:202.218.47.123/32)



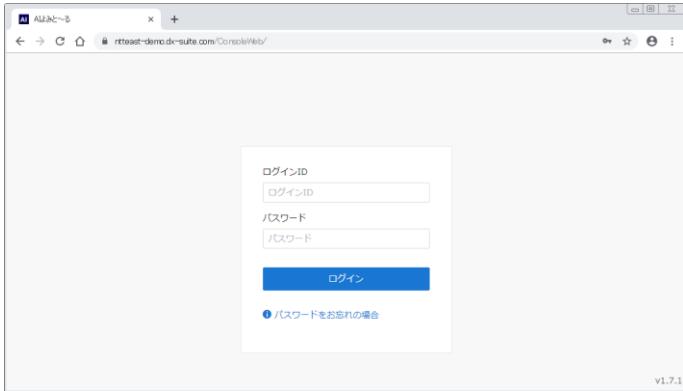
・本機能を利用するための条件は以下になります。

(1) 2ヶ月トライアルライセンス・基本ライセンスの契約が必要になります。

(2) グローバル IP アドレスはお客さま用意となります。

「接続元 IP 制限オプション」開通のお知らせを受け取った後、以下の手順にて動作確認を行ってください。

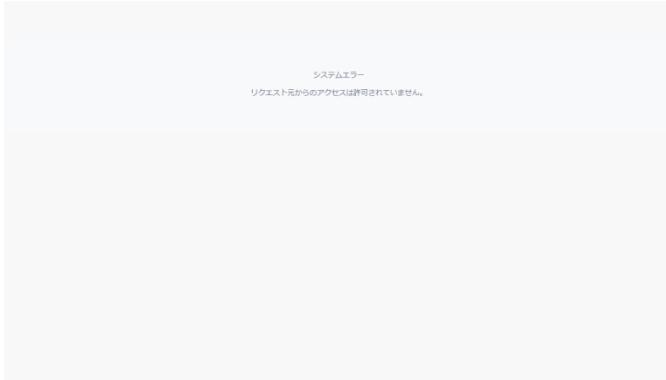
(i)疎通確認 - 指定 IP アドレスでの接続 -



- 「接続元 IP アドレス制限機能」申し込み時に指定したネットワークに接続します。
- ブラウザを起動し、アドレスバーに「開通のお知らせ」に記載されているアドレスを入力後、Enter キーを押します。
- **+OCR +OCR +OCR +OCR** のトップ画面が表示されることを確認します

※ **+OCR** のトップ画面が表示されない場合は、申し込み時に指定したネットワークに接続されているか確認してください。
それでも**+OCR** に接続できない場合は、**+OCR** オートメーションサポートセンターまで連絡してください。

(ii)非疎通確認 - 指定外 IP アドレスでの接続 -



- 「接続元 IP アドレス制限機能」申し込み時に指定したネットワーク以外のネットワークに接続します。
- ブラウザを起動し、アドレスバーに「開通のお知らせ」に記載されているアドレスを入力後、Enter キーを押します。
- **+OCR +OCR +OCR +OCR** のトップ画面が**表示されず**左記の画面が表示されれば、動作確認は終了となります。

I 閉域ネットワーク接続機能

「閉域ネットワーク接続機能」は、接続元拠点から **＋OCR** サーバ(AWS)までの区間を閉域ネットワークで接続することでセキュアな環境を提供します。閉域での接続のため、セキュリティが向上します。

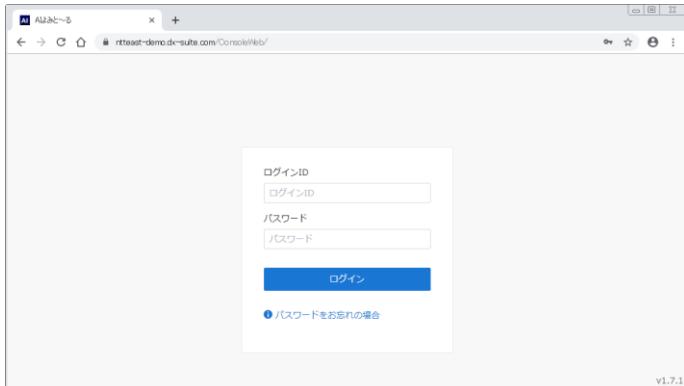
提供事業者のみ

・本機能を利用するための条件は以下になります。

- (1) 基本メニューを契約していること(2ヶ月トライアルでは本サービスは契約できません)
 - (2) フレッツ回線が開通していること
 - (3) 閉域ネットワークサービスはお客さまにてご用意いただく必要があります。なお、現時点の対応回線はクラウドゲートウェイクロスコネクト 100M(共用プラン)です。※NTT 東日本小売りサービスのみ
- ・接続拠点を増やす場合は、フレッツ VPN プライオまたはフレッツ VPN ワイドの拠点追加の申し込みが必要になります。

「閉域網接続オプション」開通のお知らせを受け取った後、以下の手順にて動作確認を行ってください。

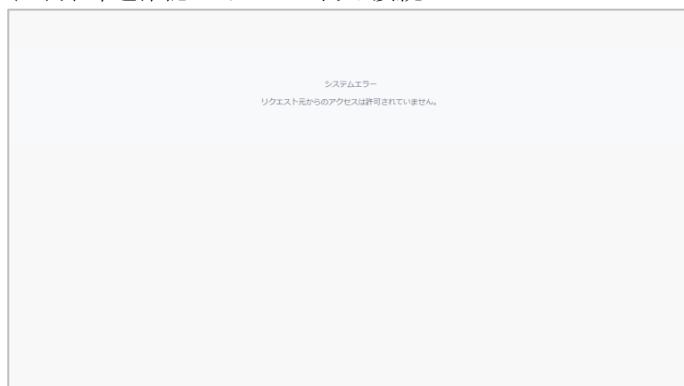
(i) 疎通確認 - 閉域接続 -



- フレッツ VPN が開通したアクセス回線に接続します。
- ブラウザを起動し、アドレスバーに「開通のお知らせ」に記載されているアドレスを入力後、Enter キーを押します。
- **+OCR+OCR+OCR+OCR** のトップ画面が表示されることを確認します。

※ **+OCR** のトップ画面が表示されない場合は、申し込み時に指定したネットワークに接続されているか確認してください。それでも**+OCR** に接続できない場合は、**+OCR** オートメーションサポートセンタまで連絡してください。

(ii) 非疎通確認 - インターネット接続 -



- インターネットに接続できる回線に接続します。
- ブラウザを起動し、アドレスバーに「開通のお知らせ」に記載されているアドレスを入力後、Enter キーを押します。
- **+OCR+OCR+OCR+OCR** のトップ画面が表示されず左記の画面が表示されれば、動作確認は終了となります。

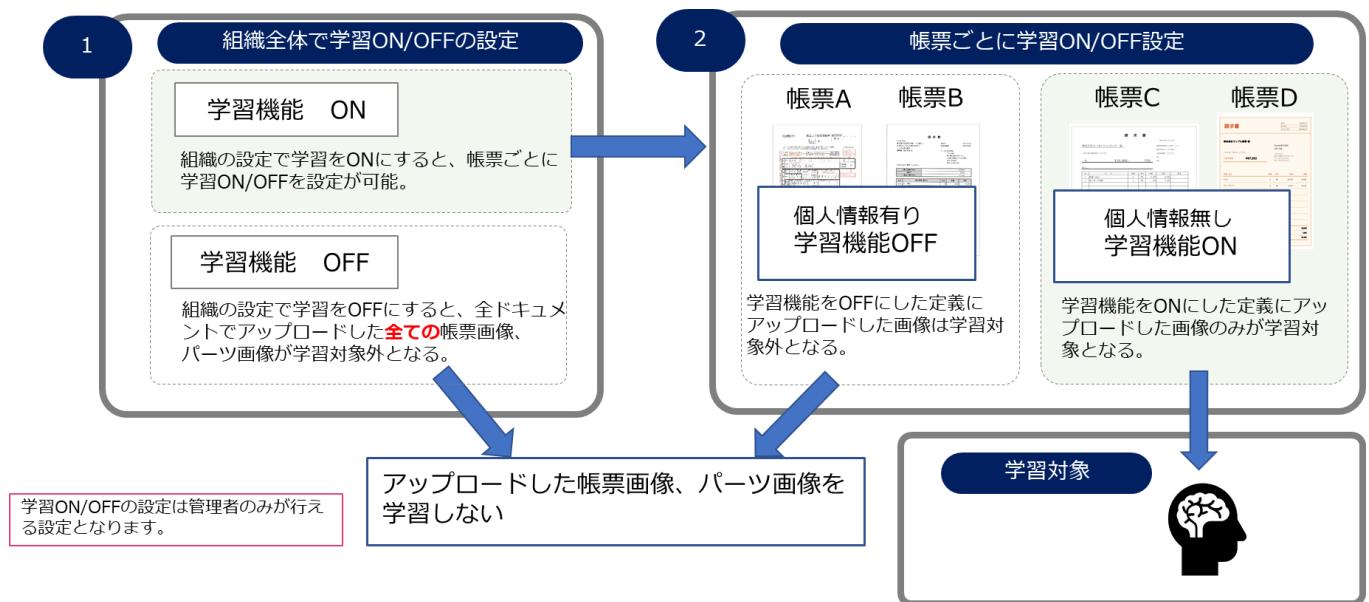
J 学習機能 ON/OFF の設定

J.1 学習機能 ON/OFF の概要

アップロードした画像を学習データとして使用する許可・不許可をコントロールすることが可能です。

設定は「組織全体」および「帳票ごと」に指定が可能です。

また、学習を不許可にすることで個人情報を学習に使用しない運用が可能です。



J.2 初回ログイン時のポップアップについて

2020/7/1(予定)以降に管理レベル:【組織管理者】で初めてログインする際に下記のポップアップが表示されますので、学習のON/OFFを設定ください。(下記は学習ONの設定イメージです。)
※最初のポップアップ表示以降は管理レベル:【組織管理者】であれば、設定画面よりON/OFF変更が可能です。

プライバシーコントロールの設定

AI学習のコントロール [詳細](#)

ONにすると、AIに学習を許可するかしないかをドキュメント単位でコントロールできます。学習を許可されたデータは、AI inside がOCRに使用する機械学習モデルの改善のために利用されます。

OFFにすると、このアカウント内のすべてのデータについて、AIに一切の学習を許可しません。どちらの場合でもAI inside からのAIアップデートは受けられます。

[学習時の個人情報の取り扱いについて](#)

学習機能 

※設定は後から変更できます。

[この設定でDX Suiteを始める](#)

※ 画面イメージは変更となる場合がございます。

J.3 ログイン後の学習機能 ON/OFF の設定方法

ログイン後は管理レベル:【組織管理者】であれば、
設定→プライバシーコントロールの設定画面より学習 ON/OFF の切り替えが可能です。



※ 画面イメージは変更となる場合がございます。

学習機能をONにする場合

既存ドキュメントを、学習対象として含む／含まない のどちらかをお選びいただけます。

・ONにする(既存ドキュメントを含む)

→既に作成していたドキュメントを含めすべて学習対象とする。

・ONにする(既存ドキュメントを含まない)

→既に作成していたドキュメントは変更せず、新規で作成するドキュメントを学習対象とする。



学習機能をOFFにする場合

下記画面にて「OFFにする」ボタンをクリックします。



J.4 定義設定画面での学習機能 ON/OFF の設定方法

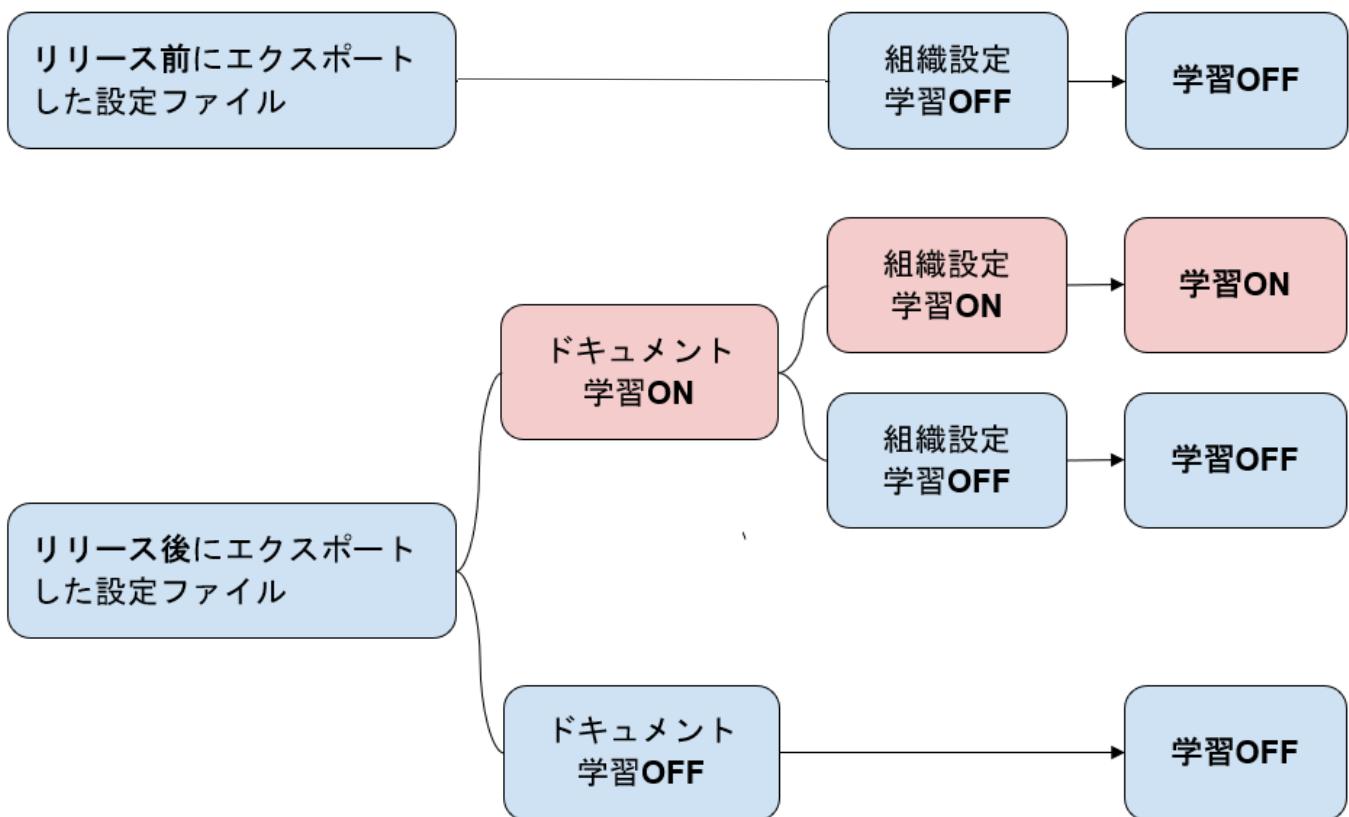
- ・学習設定:ON
- 且つ、
 - ・組織管理者権限 or 「ドキュメント権限の全機能」保持ユーザの場合に、「AI 学習機能の設定」ボタンが表示されます。



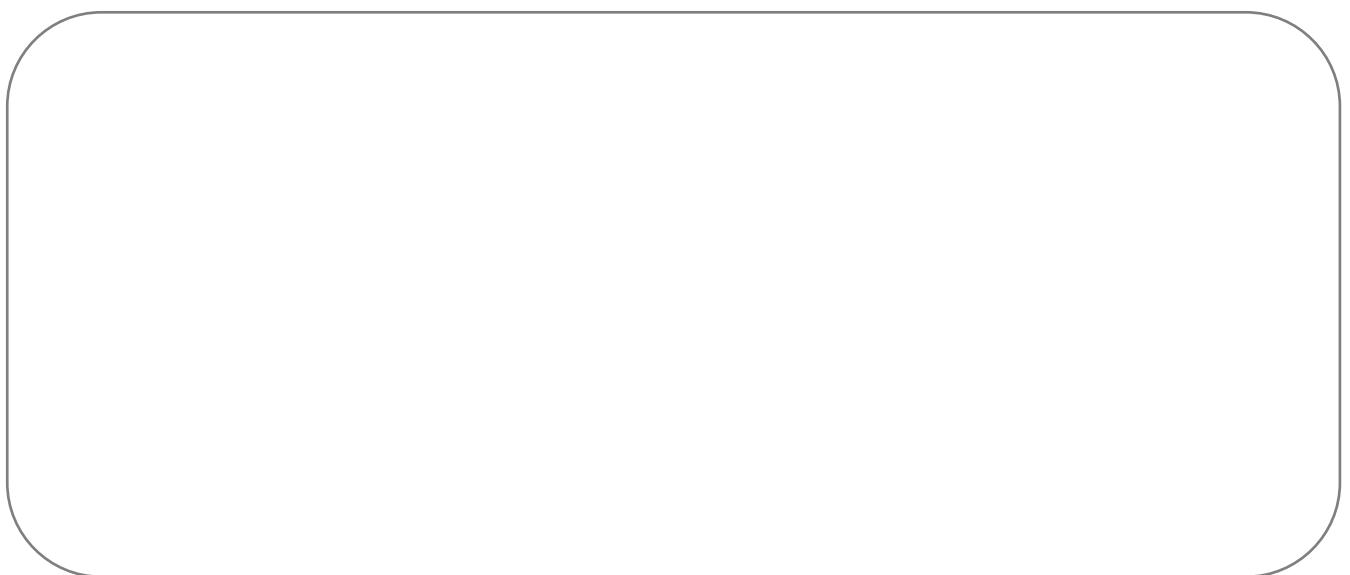
J.5 定義設定ファイル(.xml)インポート時の学習 ON/OFF 識別について

定義設定ファイルをインポートする際の学習設定の振る舞いは下記の通りとなります。

※機能リリースは 2020/7/1(予定)。



＋OCR に関するお問い合わせ先



- ◆ このマニュアルには、OEM 事業者の秘密情報(ないし機密情報)が含まれています。
- ◆ 同社による事前の許諾なく、これら情報の一部または全部を複製、使用、公開することはいかなる場合も禁じられています。